

WebOTX アプリケーション開発ガイド

WebOTX アプリケーション開発ガイド

バージョン: 8.1

版数: 第 3 版

リリース: 2009 年 4 月

Copyright (C) 1998 - 2009 NEC Corporation. All rights reserved.

目次

1. Developer's Studio	3
1.4. 配備記述子エディタ.....	3
1.4.1. 配備記述子エディタのweb.xmlエディタ	3
1.4.2. nec-web.xmlファイルの要素	118

1.Developer's Studio

本章では、WebOTX 開発環境の機能を使いこなすための詳細な説明を行います。また、WebOTX が提供する API の利用方法について説明します。

1.4.配備記述子エディタ

配備記述子エディタについて、説明します

1.4.1.配備記述子エディタの web.xml エディタ

概要

web.xml エディタは、Eclipse 用のプラグインです。

本プラグインは Eclipse に以下の機能を追加します。

web.xml ファイル新規作成機能

web.xml ファイルを新規作成するためのウィザードを提供します。

web.xml ファイル編集機能

Java Servlet 2.5 仕様/JavaServer Pages 2.1 仕様に対応した web.xml ファイルの編集を支援する機能を提供します。

Eclipse のパッケージ・エクスプローラで web.xml ファイルを右クリックし、ポップアップ・メニューから「アプリケーションから開く」→「配備記述子エディタ(web.xml)」を実行することにより、web.xml エディタが起動し、web.xml ファイルを編集できます。

web.xml ファイルバージョン変換機能

Java Servlet 2.4 仕様/JavaServer Pages 2.0 仕様または Java Servlet 2.3 仕様/JavaServer Pages 1.2 仕様の web.xml ファイルを読み込んで、Java Servlet 2.5 仕様/JavaServer Pages 2.1 仕様の web.xml ファイルに変換する機能を提供します。

nec-web.xml ファイル編集機能

nec-web.xml ファイルの編集を支援する機能を提供します。

nec-web.xml ファイルは、Web アプリケーションに対して WebOTX 固有のオプションを設定するためのファイルです。

nec-web.xml ファイルと同じディレクトリにある web.xml ファイルを web.xml エディタで開くことにより、nec-web.xml ファイルも web.xml エディタで編集できるようになります。

環境設定

web.xml エディタは、“web.xml”というファイル名に関連付いていますので、ファイル名“web.xml”の web.xml ファイルを編集する場合には、特に設定することはありません。

任意の名前で保存した web.xml ファイルを web.xml エディタで編集したい場合には、web.xml エディタとそ


のファイル名を関連付ける必要があります。設定方法については、「web.xml エディタとファイルの関連付け」を参照してください。

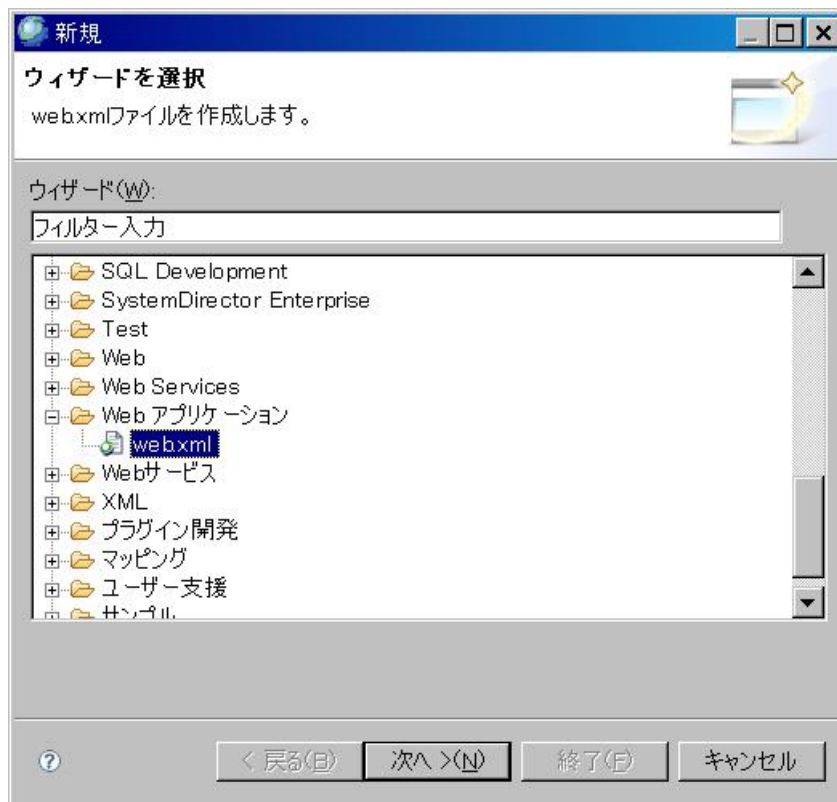
機能説明

web.xml エディタの使用方法について説明します。

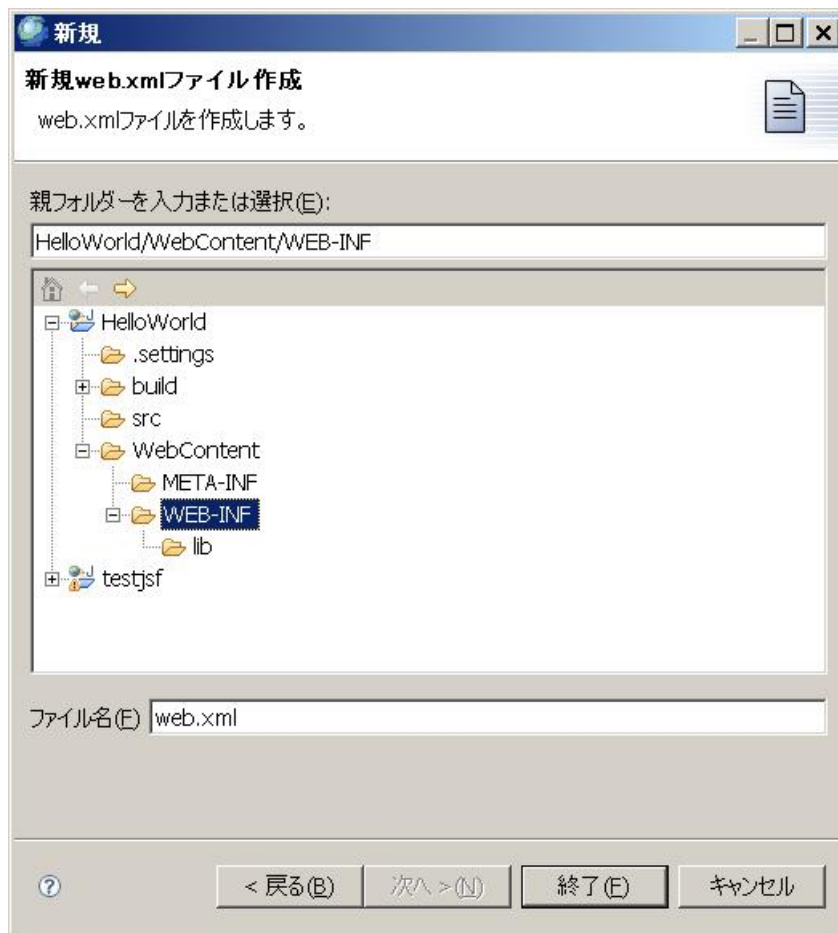
新規 web.xml と nec-web.xml の作成

新しい web.xml と nec-web.xml ファイルは以下の手順で作成することができます。

1. Eclipse を起動します。
2. メニューから「ファイル」-「新規」-「その他」を選択するか、ツールバーの「新規」ボタンをクリックして、「新規ウィザード」を起動します。



3. 「新規ウィザード」の「Web アプリケーション」から「web.xml」を選択して、「次へ」ボタンをクリックします。
4. 「新規 web.xml ウィザード」の「親フォルダーを入力または選択」に web.xml ファイルの格納先 (Web アプリケーションのルートフォルダ/WEB-INF) を設定します。



5. 「ファイル名」に web.xml ファイル名 (web.xml) を設定して、「終了」ボタンをクリックします。
6. 新規 web.xml ファイルと nec-web.xml ファイルができて、web.xml エディタが開きます。
7. web.xml エディタで web.xml ファイルを開くと、web.xml ファイルと nec-web.xml ファイルのバックアップファイル (webotx_web.bak, webotx_nec-web.bak) ができます。web.xml エディタを閉じると、バックアップファイルは削除します。

※“web.xml”以外のファイル名を設定した場合は、web.xml エディタとファイルの関連付けを行う必要がありますので、「web.xml エディタとファイルの関連付け」を参照してください。

既存 web.xml の編集

既存の web.xml ファイルを web.xml エディタで編集するには、以下の方法で web.xml ファイルを開きます。

- Eclipse のパッケージ・エクスプローラで、web.xml ファイルを右クリックし、ポップアップ・メニューから「アプリケーションから開く」→「配備記述子エディタ(web.xml)」を選択します。

※ web.xml ファイルの名前が“web.xml”でない場合は、web.xml エディタとファイルの関連付けを行う必要がありますので、「web.xml エディタとファイルの関連付け」を参照してください。


※ web.xml ファイルと同じディレクトリに nec-web.xml ファイルがあれば、web.xml エディタは、nec-web.xml ファイルも一緒に読み込みます。

※ nec-web.xml ファイルに問題があれば、web.xml エディタはそのファイルの内容を webotx_nec-web.save ファイルに保存して、「nec-web.xml が無効なファイルです。配備記述子エディタは新しいファイルを作成します。」というエラーメッセージボックスを表示し、新しい nec-web.xml フ

ファイルを作成します。

web.xml の保存


web.xml ファイルを保存するには、2 つの方法があります。

- Eclipse のメニューから「ファイル」→「保管」を選択します。
- Eclipse のツールバーの「保管」ボタン  をクリックします。

※ 保存した時点でバックアップファイルも更新します。

web.xml エディタとファイルの関連付け

web.xml エディタと任意の名前の web.xml ファイルを以下の手順で関連付けることができます。

1. Eclipse を起動します。
2. メニューから「ウィンドウ」→「設定」を選択します。
3. 「設定」ウィンドウで、「一般」→「エディター」カテゴリを拡張して、「ファイルの関連付け」を選択します。
4. 「ファイル・タイプ」リストの「追加」ボタンをクリックし、web.xml エディタに関連付けたい web.xml ファイルの名前を追加します。
5. 「ファイル・タイプ」リストで、追加した web.xml ファイル名を選択し、「関連付けられたエディタ」リストの「追加」ボタンをクリックします。
6. 「エディターの選択ダイアログ」で、「内部エディター」の中から  配備記述子エディタ(web.xml)」を選択し、「OK」ボタンをクリックします。
7. 「設定」ウィンドウの「OK」ボタンをクリックして、web.xml エディタと任意の名前の web.xml ファイルの関連付けを完了します。

web.xml のバージョン

WebOTX web.xml エディタの GUI ページで編集できるのは、Java Servlet 2.5 仕様/JavaServer Pages 2.1 仕様(バージョン 2.5 形式)の web.xml ファイルだけです。

既存の Java Servlet 2.4 仕様(バージョン 2.4 形式)または Java Servlet 2.3 仕様(バージョン 2.3 形式)の web.xml ファイルを編集するには、2 つの方法があります。

● バージョン 2.5 形式に変換して編集する方法

手順は以下のとおりです。

1. バージョン 2.4 またはバージョン 2.3 形式の web.xml ファイルを web.xml エディタで開きます。
2. バージョン変換の問い合わせメッセージボックスで「はい」ボタンをクリックします。
3. web.xml エディタがバージョン 2.5 形式に変換して開きますので、変更を保存します。
4. バージョン 2.5 形式の web.xml ファイルとして編集、保存します。

● バージョン 2.4 またはバージョン 2.3 形式のまま編集する方法

手順は以下のとおりです。

1. バージョン 2.4 またはバージョン 2.3 形式の web.xml ファイルを web.xml エディタで開きます。
2. バージョン変換の問い合わせメッセージボックスで「いいえ」ボタンをクリックします。
3. web.xml エディタはバージョン 2.4 またはバージョン 2.3 形式のまま読み込んで「標準 D.D」ページに表示します。
4. バージョン 2.4 またはバージョン 2.3 形式の web.xml ファイルとして編集、保存します。

＜注意＞

バージョン 2.4 またはバージョン 2.3 形式の場合、「標準 D.D」ページでしか編集できません。また、スキーマによる妥当性チェックは行いますので、エラーがある場合は、問題ビューにエラーメッセージを表示します。

サポートする要素

Java Servlet 2.5 仕様で web.xml ファイルに使用できる要素をすべてサポートします。

サポートする要素の一覧を以下に示します。

番号	要素	対応する編集画面
1	<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>	「一般」ページ:「エンコーディング」 必須(1 個)
2	<web-app xmlns="http://java.sun.com/xml/ns/javaee" xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema -instance" xsi:schemaLocation="http://java.sun.com/xml/ns /javaee web-app_2.5.xsd" version="2.5" m etadata-complete="true">	編集不可 必須(1 個) 「一般」ページ:「完全メタデータ」 任意(0～1 個)
3	<description> </description>	「一般」ページ:「説明...」ボタン:「説 明ダイアログ」 任意(0 個以上)*1
4	<display-name> </display-name>	「一般」ページ:「表示名」 任意(0 個以上)*1
5	<icon>	「一般」ページ:「アイコン...」ボタン: 「アイコンダイアログ」 任意(0 個以上)*1
6	<small-icon> </small-icon>	「アイコンダイアログ」:「小さいアイ コン」 任意(0～1 個)
7	<large-icon> </large-icon>	「アイコンダイアログ」:「大きいアイ コン」 任意(0～1 個)
	</icon>	
8	<distributable />	「一般」ページ:「詳細設定...」ボタン: 「詳細設定ダイアログ」:「配布可」 任意(0 個以上)*2
9	<context-param>	「コンテキスト」ページ:コンテキスト パラメータリストの 1 行 任意(0 個以上)
10	<description> </description>	コンテキストパラメータリストの 1 行:「説明」:「説明ダイアログ」 任意(0 個以上)*1
11	<param-name> </param-name>	コンテキストパラメータリストの 1 行:「パラメータ」 必須(1 個)

12	<param-value> </param-value>	コンテキストパラメータリストの 1 行:「値」 必須(1 個)
	</context-param>	
13	<filter>	「フィルタマッピング」ページ :「フィルタリスト編集...」ボタン:「フィルタリスト編集ダイアログ」:サーブレットフィルタリストの 1 行 任意(0 個以上)
14	<description> </description>	サーブレットフィルタリストの 1 行:「説明」:「説明ダイアログ」 任意(0 個以上)*1
15	<display-name> </display-name>	サーブレットフィルタリストの 1 行:「表示名」 任意(0 個以上)*1
16	<icon>	サーブレットフィルタリストの 1 行:「アイコン」:「アイコンダイアログ」 任意(0 個以上)*1
17	<small-icon> </small-icon>	「アイコンダイアログ」:「小さいアイコン」 任意(0~1 個)
18	<large-icon> </large-icon>	「アイコンダイアログ」:「大きいアイコン」 任意(0~1 個)
	</icon>	
19	<filter-name> </filter-name>	サーブレットフィルタリストの 1 行:「フィルタ名」 必須(1 個)
20	<filter-class> </filter-class>	サーブレットフィルタリストの 1 行:「フィルタクラス」 必須(1 個)
21	<init-param>	サーブレットフィルタリストの 1 行:初期化パラメータリストの 1 行 任意(0 個以上)
22	<description> </description>	初期化パラメータリストの 1 行:「説明」:「説明ダイアログ」 任意(0 個以上)*1
23	<param-name> </param-name>	初期化パラメータリストの 1 行:「パラメータ」 必須(1 個)
24	<param-value> </param-value>	初期化パラメータリストの 1 行:「値」 必須(1 個)
	</init-param>	
	</filter>	
25	<filter-mapping>	「フィルタマッピング」ページ :サーブレットフィルタマッピングリストの 1 行 任意(0 個以上)
26	<filter-name> </filter-name>	サーブレットフィルタマッピングリストの 1 行:「編集...」ボタン:「フィルタ設定ダイアログ」:「フィルタ名」 必須(1 個)
27-1	<url-pattern> </url-pattern>	サーブレットフィルタマッピングリストの 1 行:「編集...」ボタン:「フィルタ設定ダイアログ」の 1 行:「編集...」ボタン:「ターゲット設定ダイアログ」:「URL パターン」 url-pattern または servlet-name が

		必須(1 個以上)
27-2	<servlet-name> </servlet-name>	サーブレットフィルタマッピングリストの 1 行:「編集...」ボタン:「フィルタ設定ダイアログ」の 1 行:「編集...」ボタン:「ターゲット設定ダイアログ」:「サーブレット」
28	<dispatcher> </dispatcher>	サーブレットフィルタマッピングリストの 1 行:「編集...」ボタン:「フィルタ設定ダイアログ」:「ディスパッチャ」任意(0 個～4 個)
	</filter-mapping>	
29	<listener>	「リスナ」ページ :リスナリストの 1 行 任意(0 個以上)
30	<description> </description>	リスナリストの 1 行:「説明」:「説明ダイアログ」 任意(0 個以上)*1
31	<display-name> </display-name>	リスナリストの 1 行:「表示名」 任意(0 個以上)*1
32	<icon>	リスナリストの 1 行:「アイコン」:「アイコンダイアログ」 任意(0 個以上)*1
33	<small-icon> </small-icon>	「アイコンダイアログ」:「小さいアイコン」 任意(0～1 個)
34	<large-icon> </large-icon>	「アイコンダイアログ」:「大きいアイコン」 任意(0～1 個)
	</icon>	
35	<listener-class> </listener-class>	リスナリストの 1 行:「リスナクラス」 必須(1 個)
	</listener>	
36	<servlet>	「サーブレット」ページ:サーブレットリストの 1 行 任意(0 個以上)
37	<description> </description>	サーブレットリストの 1 行:「編集...」ボタン:「サーブレット設定ダイアログ」:「説明...」ボタン:「説明ダイアログ」 任意(0 個以上)*1
38	<display-name> </display-name>	サーブレットリストの 1 行:「編集...」ボタン:「サーブレット設定ダイアログ」:「表示名」 任意(0 個以上)*1
39	<icon>	サーブレットリストの 1 行:「編集...」ボタン:「サーブレット設定ダイアログ」:「アイコン...」ボタン:「アイコンダイアログ」 任意(0 個以上)*1
40	<small-icon> </small-icon>	「アイコンダイアログ」:「小さいアイコン」 任意(0～1 個)
41	<large-icon> </large-icon>	「アイコンダイアログ」:「大きいアイコン」 任意(0～1 個)
	</icon>	
42	<servlet-name> </servlet-name>	サーブレットリストの 1 行:「編集...」ボタン:「サーブレット設定ダイアログ」:「サーブレット名」

		必須(1 個)
43-1	<servlet-class> </servlet-class>	サーブレットリストの 1 行:「編集...」 ボタン:「サーブレット設定ダイアログ」: 「サーブレット」 servlet-class または jsp-file が必須(1 個)
43-2	<jsp-file></jsp-file>	サーブレットリストの 1 行:「編集...」 ボタン:「サーブレット設定ダイアログ」: 「JSP」
44	<init-param>	サーブレットリストの 1 行:「初期化 パラメータ」タブ:初期化パラメータ リストの 1 行 任意(0 個以上)
45	<description> </description>	初期化パラメータリストの 1 行:「説明」: 「説明ダイアログ」 任意(0 個以上)*1
46	<param-name> </param-name>	初期化パラメータリストの 1 行:「パラメータ」 必須(1 個)
47	<param-value> </param-value>	初期化パラメータリストの 1 行: 「値」 必須(1 個)
	</init-param>	
48	<load-on-startup> </load-on-startup>	サーブレットリストの 1 行:「編集...」 ボタン:「サーブレット設定ダイアログ」: 「ロード順」 任意(0~1 個)
49	<run-as>	サーブレットリストの 1 行:「セキュリティ」タブ: 「実行タイプ」 任意(0~1 個)
50	<description> </description>	「実行タイプ」: 「説明...」ボタン:「説明ダイアログ」 任意(0 個以上)*1
51	<role-name> </role-name>	「実行タイプ」 任意(0~1 個)
	</run-as>	
52	<security-role-ref>	サーブレットリストの 1 行:「セキュリティ」タブ: ロール参照リストの 1 行 任意(0 個以上)
53	<description> </description>	ロール参照リストの 1 行:「説明」: 「説明ダイアログ」 任意(0 個以上)*1
54	<role-name> </role-name>	ロール参照リストの 1 行:「ロール名」 必須(1 個)
55	<role-link> </role-link>	ロール参照リストの 1 行:「ロールリンク」 任意(0~1 個)
	</security-role-ref>	
	</servlet>	
56	<servlet-mapping>	サーブレットリストの 1 行:「URL」タブ: URL パターンリストの 1 行 任意(0 個以上)
57	<servlet-name> </servlet-name>	サーブレットリストの 1 行:「サーブレット名」 必須(1 個)
58	<url-pattern> </url-pattern>	URL パターンリストの 1 行:「URL パターン」 必須(1 個以上)

	</servlet-mapping>	
59	<session-config>	「一般」ページ:「詳細設定...」ボタン: 「詳細設定ダイアログ」:「セッション タイムアウト」 任意(0 個以上)*3
60	<session-timeout> </session-timeout>	「セッションタイムアウト」 任意(0~1 個)
	</session-config>	
61	<mime-mapping>	「一般」ページ:「詳細設定...」ボタン: 「詳細設定ダイアログ」:MIME マッ ピングリストの 1 行 任意(0 個以上)
62	<extension></extension>	MIME マッピングリストの 1 行:「拡 張子」 必須(1 個)
63	<mime-type></mime-type>	MIME マッピングリストの 1 行: 「MIME タイプ」 必須(1 個)
	</mime-mapping>	
64	<welcome-file-list>	「ファイル参照」ページ:welcome フ ァイルリスト 任意(0 個以上)*4
65	<welcome-file> </welcome-file>	welcome ファイルリストの 1 行 必須(1 個以上)
	</welcome-file-list>	
66	<error-page>	「ファイル参照」ページ:エラーマッ ピングリストの 1 行 任意(0 個以上)
67- 1	<error-code> </error-code>	エラーマッピングリストの 1 行:「エラ ーコード/例外」 error-code または exception-type が必須(1 個)
67- 2	<exception-type> </exception-type>	エラーマッピングリストの 1 行:「エラ ーコード/例外」
68	<location></location>	エラーマッピングリストの 1 行:「リソ ースの場所」 必須(1 個)
	</error-page>	
69	<jsp-config>	「ファイル参照」ページ:JSP タグラ イブラリリスト、「JSP プロパティ」ペ ージ 任意(0 個以上)*3
70	<taglib>	「ファイル参照」ページ:JSP タグラ イブラリリストの 1 行 任意(0 個以上)
71	<taglib-uri> </taglib-uri>	JSP タグライブラリリストの 1 行: 「URI」 必須(1 個)
72	<taglib-location> </taglib-location>	JSP タグライブラリリストの 1 行:「タ グライブラリの場所」 必須(1 個)
	</taglib>	
73	<jsp-property-group>	「JSP プロパティ」ページ:JSP プロ パティグループリストの 1 行 任意(0 個以上)
74	<description> </description>	JSP プロパティグループリストの 1 行:「説明」:「説明ダイアログ」 任意(0 個以上)*1

75	<display-name> </display-name>	JSP プロパティグループリストの 1 行:「グループ名」 任意(0 個以上)*1
76	<icon>	JSP プロパティグループリストの 1 行:「アイコン」:「アイコンダイアログ」 任意(0 個以上)*1
77	<small-icon> </small-icon>	「アイコンダイアログ」:「小さいアイコン」 任意(0~1 個)
78	<large-icon> </large-icon>	「アイコンダイアログ」:「大きいアイコン」 任意(0~1 個)
	</icon>	
79	<url-pattern> </url-pattern>	JSP プロパティグループリストの 1 行:URL パターンリストの 1 行 任意(1 個以上)
80	<el-ignored> </el-ignored>	JSP プロパティグループリストの 1 行:「EL 無効」 任意(0~1 個)
81	<page-encoding> </page-encoding>	JSP プロパティグループリストの 1 行:「ページエンコーディング」 任意(0~1 個)
82	<scripting-invalid> </scripting-invalid>	JSP プロパティグループリストの 1 行:「スクリプト無効」 任意(0~1 個)
83	<is-xml></is-xml>	JSP プロパティグループリストの 1 行:「XML ドキュメント」 任意(0~1 個)
84	<include-prelude> </include-prelude>	JSP プロパティグループリストの 1 行:先頭にインクルードするファイルリストの 1 行 任意(0 個以上)
85	<include-coda> </include-coda>	JSP プロパティグループリストの 1 行:末尾にインクルードするファイルリストの 1 行 任意(0 個以上)
	</jsp-property-group>	
	<jsp-config>	
86	<security-constraint>	「セキュリティ」ページ:セキュリティ制約リストの 1 行 任意(0 個以上)
87	<display-name> </display-name>	セキュリティ制約リストの 1 行 任意(0 個以上)*1
88	<web-resource-collection>	セキュリティ制約リストの 1 行:Web リソースコレクションリストの 1 行 任意(1 個以上)
89	<web-resource-name> </web-resource-name>	Web リソースコレクションリストの 1 行:「編集...」ボタン:「Web リソースコレクション編集ダイアログ」:「コレクション名」 必須(1 個)
90	<description> </description>	Web リソースコレクションリストの 1 行:「編集...」ボタン:「Web リソースコレクション編集ダイアログ」:「説明...」ボタン:「説明ダイアログ」 任意(0 個以上)*1
91	<url-pattern> </url-pattern>	Web リソースコレクションリストの 1 行:「編集...」ボタン:「Web リソースコ

		レクション編集ダイアログ」:URL パターンリストの 1 行 任意(1 個以上)
92	<http-method> </http-method>	Web リソースコレクションリストの 1 行:「編集...」ボタン:「Web リソースコレクション編集ダイアログ」:「HTTP メソッド」 任意(0~1 個)
	</web-resource-collection>	
93	<auth-constraint>	セキュリティ制約リストの 1 行:「認定ロール」 任意(0~1 個)
94	<description> </description>	「認定ロール」:「説明...」ボタン:「説明ダイアログ」 任意(0 個以上)*1
95	<role-name> </role-name>	「認定ロール」:すべてのロール/ロールの一覧 任意(0 個以上)
	</auth-constraint>	
96	<user-data-constraint>	セキュリティ制約リストの 1 行:「転送保証」 任意(0~1 個)
97	<description> </description>	「転送保証」:「説明...」ボタン:「説明ダイアログ」 任意(0 個以上)*1
98	<transport-guarantee> </transport-guarantee>	「転送保証」 必須(1 個)
	</user-data-constraint>	
	</security-constraint>	
99	<login-config>	「セキュリティ」ページ:「ユーザ認証方法」 任意(0 個以上)*3
100	<auth-method> </auth-method>	「ユーザ認証方法」 任意(0~1 個)
101	<realm-name> </realm-name>	「ユーザ認証方法」:「設定...」ボタン:「ユーザ認証設定ダイアログ」: 「レルム名」 任意(0~1 個)
102	<form-login-config>	「ユーザ認証方法」:「設定...」ボタン:「ユーザ認証設定ダイアログ」 任意(0~1 個)
103	<form-login-page> </form-login-page>	「ユーザ認証設定ダイアログ」:「ログインページ」 必須(1 個)
104	<form-error-page> </form-error-page>	「ユーザ認証設定ダイアログ」:「エラーページ」 必須(1 個)
	</form-login-config>	
	</login-config>	
105	<security-role>	「ロール」ページ:ロールリストの 1 行 任意(0 個以上)
106	<description> </description>	ロールリストの 1 行:「説明」:「説明ダイアログ」 任意(0 個以上)*1
107	<role-name> </role-name>	ロールリストの 1 行:「ロール名」 必須(1 個)
	</security-role>	

108	<env-entry>	「環境エントリ」ページ:環境エントリリストの 1 行 任意(0 個以上)
109	<description> </description>	環境エントリリストの 1 行:「説明」: 「説明ダイアログ」 任意(0 個以上)*1
110	<env-entry-name> </env-entry-name>	環境エントリリストの 1 行:「名前」 必須(1 個)
111	<env-entry-type> </env-entry-type>	環境エントリリストの 1 行:「型」 任意(0~1 個)
112	<env-entry-value> </env-entry-value>	環境エントリリストの 1 行:「値」 任意(0~1 個)
113	<mapped-name> </mapped-name>	環境エントリリストの 1 行:「リソース グループ」:「リソースグループの設 定ダイアログ」:「マップ名」 任意(0~1 個)
114	<injection-target>	環境エントリリストの 1 行:「リソース グループ」:「リソースグループの設 定ダイアログ」:「インジェクションタ ーゲット」 任意(0個以上)
115	<injection-target-class> </injection-target-class>	「インジェクションターゲット」の 1 行:「インジェクションターゲットクラ ス」 必須(1 個)
116	<injection-target-name> </injection-target-name>	「インジェクションターゲット」の 1 行:「インジェクションターゲット名」 必須(1 個)
	</injection-target>	
	</env-entry>	
117	<ejb-ref>	「EJB 参照」ページ:EJB 参照リス トの 1 行(「編集...」ボタン:「EJB 参照 設定ダイアログ」:「インタフェース」 が Remote の場合) 任意(0 個以上)
118	<description> </description>	EJB 参照リストの 1 行:「編集...」ボ タン:「EJB 参照設定ダイアログ」: 「説明...」ボタン:「説明ダイアログ」 任意(0 個以上)*1
119	<ejb-ref-name> </ejb-ref-name>	EJB 参照リストの 1 行:「編集...」ボ タン:「EJB 参照設定ダイアログ」: 「参照名」 必須(1 個)
120	<ejb-ref-type> </ejb-ref-type>	EJB 参照リストの 1 行:「編集...」ボ タン:「EJB 参照設定ダイアログ」: 「タイプ」 任意(0~1 個)
121	<home></home>	EJB 参照リストの 1 行:「編集...」ボ タン:「EJB 参照設定ダイアログ」: 「ホームインタフェース」 任意(0~1 個)
122	<remote></remote>	EJB 参照リストの 1 行:「編集...」ボ タン:「EJB 参照設定ダイアログ」: 「ローカル/リモートインタフェース」 任意(0~1 個)
123	<ejb-link></ejb-link>	EJB 参照リストの 1 行:「編集...」ボ タン:「EJB 参照設定ダイアログ」: 「エンタプライズ Bean」 任意(0~1 個)

124	<mapped-name> </mapped-name>	「EJB 参照設定ダイアログ」:「リソースグループ」:「リソースグループの設定ダイアログ」:「マップ名」 任意(0~1 個)
125	<injection-target>	「EJB 参照設定ダイアログ」:「リソースグループ」:「リソースグループの設定ダイアログ」:「インジェクションターゲット」 任意(0個以上)
126	<injection-target-class> </injection-target-class>	「インジェクションターゲット」の 1 行:「インジェクションターゲットクラス」 必須(1 個)
127	<injection-target-name> </injection-target-name>	「インジェクションターゲット」の 1 行:「インジェクションターゲット名」 必須(1 個)
	</injection-target>	
	</ejb-ref>	
128	<ejb-local-ref>	「EJB 参照」ページ:EJB 参照リストの 1 行(「編集...」ボタン:「EJB 参照設定ダイアログ」:「インタフェース」が Local の場合) 任意(0 個以上)
129	<description> </description>	EJB 参照リストの 1 行:「編集...」ボタン:「EJB 参照設定ダイアログ」:「説明...」ボタン:「説明ダイアログ」 任意(0 個以上)*1
130	<ejb-ref-name> </ejb-ref-name>	EJB 参照リストの 1 行:「編集...」ボタン:「EJB 参照設定ダイアログ」:「参照名」 必須(1 個)
131	<ejb-ref-type> </ejb-ref-type>	EJB 参照リストの 1 行:「編集...」ボタン:「EJB 参照設定ダイアログ」:「タイプ」 任意(0~1 個)
132	<local-home> </local-home>	EJB 参照リストの 1 行:「編集...」ボタン:「EJB 参照設定ダイアログ」:「ホームインタフェース」 任意(0~1 個)
133	<local></local>	EJB 参照リストの 1 行:「編集...」ボタン:「EJB 参照設定ダイアログ」:「ローカル/リモートインタフェース」 任意(0~1 個)
134	<ejb-link></ejb-link>	EJB 参照リストの 1 行:「編集...」ボタン:「EJB 参照設定ダイアログ」:「エンタプライズ Bean」 任意(0~1 個)
135	<mapped-name> </mapped-name>	「EJB 参照設定ダイアログ」:「リソースグループ」:「リソースグループの設定ダイアログ」:「マップ名」 任意(0~1 個)
136	<injection-target>	「EJB 参照設定ダイアログ」:「リソースグループ」:「リソースグループの設定ダイアログ」:「インジェクションターゲット」 任意(0個以上)
137	<injection-target-class> </injection-target-class>	「インジェクションターゲット」の 1 行:「インジェクションターゲットクラス」 必須(1 個)

138	<injection-target-name> </injection-target-name>	「インジェクションターゲット」の 1 行:「インジェクションターゲット名」必須(1 個)
	</injection-target>	
	</ejb-local-ref>	
139	<service-ref>	「Web サービス参照」ページ:Web サービス参照リストの 1 行 任意(0 個以上)
140	<description> </description>	Web サービス参照リストの 1 行:「編集...」ボタン:「Web サービス参照設定ダイアログ」:「説明...」ボタン:「説明ダイアログ」 任意(0 個以上)*1
141	<display-name> </display-name>	Web サービス参照リストの 1 行:「編集...」ボタン:「Web サービス参照設定ダイアログ」:「表示名」 任意(0 個以上)*1
142	<icon>	Web サービス参照リストの 1 行:「編集...」ボタン:「Web サービス参照設定ダイアログ」:「アイコン...」ボタン:「アイコンダイアログ」 任意(0 個以上)*1
143	<small-icon> </small-icon>	「アイコンダイアログ」:「小さいアイコン」 任意(0~1 個)
144	<large-icon> </large-icon>	「アイコンダイアログ」:「大きいアイコン」 任意(0~1 個)
	</icon>	
145	<service-ref-name> </service-ref-name>	Web サービス参照リストの 1 行:「編集...」ボタン:「Web サービス参照設定ダイアログ」:「参照名」 必須(1 個)
146	<service-interface> </service-interface>	Web サービス参照リストの 1 行:「編集...」ボタン:「Web サービス参照設定ダイアログ」:「インタフェース」 必須(1 個)
147	<wsdl-file></wsdl-file>	Web サービス参照リストの 1 行:「編集...」ボタン:「Web サービス参照設定ダイアログ」:「WSDL ファイル」 任意(0~1 個)
148	<jaxrpc-mapping-file> </jaxrpc-mapping-file>	Web サービス参照リストの 1 行:「編集...」ボタン:「Web サービス参照設定ダイアログ」:「マッピングファイル」 任意(0~1 個)
149	<service-qname> </service-qname>	Web サービス参照リストの 1 行:「編集...」ボタン:「Web サービス参照設定ダイアログ」:「サービス QName」 任意(0~1 個)
150	<port-component-ref>	Web サービス参照リストの 1 行:「編集...」ボタン:「Web サービス参照設定ダイアログ」:「ポートコンポーネント参照設定...」ボタン:「ポートコンポーネント参照設定ダイアログ」: ポートコンポーネント参照リストの 1 行 任意(0 個以上)
151	<service-endpoint-interface> </service-endpoint-interface>	ポートコンポーネント参照リストの 1 行:「サービスエンドポイントインタ

		フェース」 必須(1 個)
152	<port-component-link> </port-component-link>	ポートコンポーネント参照リストの 1 行:「ポートコンポーネント名」 任意(0~1 個)
	</port-component-ref>	
153	<handler>	Web サービス参照リストの 1 行:「編 集...」ボタン:「Web サービス参照設 定ダイアログ」:「ハンドラ設定...」ボ タン:「ハンドラ設定ダイアログ」:ハ ンドラリストの 1 行 任意(0 個以上)
154	<description> </description>	ハンドラリストの 1 行:「説明」:「説明 ダイアログ」 任意(0 個以上)*1
155	<display-name> </display-name>	ハンドラリストの 1 行:「表示名」 任意(0 個以上)*1
156	<icon>	ハンドラリストの 1 行:「アイコン」: 「アイコンダイアログ」 任意(0 個以上)*1
157	<small-icon> </small-icon>	「アイコンダイアログ」:「小さいアイ コン」 任意(0~1 個)
158	<large-icon> </large-icon>	「アイコンダイアログ」:「大きいアイ コン」 任意(0~1 個)
	</icon>	
159	<handler-name> </handler-name>	ハンドラリストの 1 行:「ハンドラ名」 必須(1 個)
160	<handler-class> </handler-class>	ハンドラリストの 1 行:「ハンドラクラ ス」 必須(1 個)
161	<init-param>	ハンドラリストの 1 行:「初期化パラ メータ」タブ:初期化パラメータリス トの 1 行 任意(0 個以上)
162	<description> </description>	初期化パラメータリストの 1 行:「説 明」:「説明ダイアログ」 任意(0 個以上)*1
163	<param-name> </param-name>	初期化パラメータリストの 1 行:「パ ラメータ」 必須(1 個)
164	<param-value> </param-value>	初期化パラメータリストの 1 行: 「値」 必須(1 個)
	</init-param>	
165	<soap-header> </soap-header>	ハンドラリストの 1 行:「SOAP ヘッ ダ」タブ:SOAP ヘッダの 1 行 任意(0 個以上)
166	<soap-role> </soap-role>	ハンドラリストの 1 行:「SOAP ロー ル」タブ:SOAP ロールの 1 行 任意(0 個以上)
167	<port-name> </port-name>	ハンドラリストの 1 行:「ポート」タブ: ポートの 1 行 任意(0 個以上)
	</handler>	
	</service-ref>	
168	<resource-ref>	「リソース参照」ページ :リソースマ

		ネージャ接続ファクトリ参照リストの 1 行 任意(0 個以上)
169	<description> </description>	リソースマネージャ接続ファクトリ参照リストの 1 行:「説明」:「説明ダイアログ」 任意(0 個以上)*1
170	<res-ref-name> </res-ref-name>	リソースマネージャ接続ファクトリ参照リストの 1 行:「参照名」 必須(1 個)
171	<res-type></res-type>	リソースマネージャ接続ファクトリ参照リストの 1 行:「型」 任意(0～1 個)
172	<res-auth></res-auth>	リソースマネージャ接続ファクトリ参照リストの 1 行:「認証」 任意(0～1 個)
173	<res-sharing-scope> </res-sharing-scope>	リソースマネージャ接続ファクトリ参照リストの 1 行:「共有可能」 任意(0～1 個)
174	<mapped-name> </mapped-name>	リソースマネージャ接続ファクトリ参照リストの 1 行:「リソースグループ」:「リソースグループの設定ダイアログ」:「マップ名」 任意(0～1 個)
175	<injection-target>	リソースマネージャ接続ファクトリ参照リストの 1 行:「リソースグループ」:「リソースグループの設定ダイアログ」:「インジェクションターゲット」 任意(0個以上)
176	<injection-target-class> </injection-target-class>	「インジェクションターゲット」の 1 行:「インジェクションターゲットクラス」 必須(1 個)
177	<injection-target-name> </injection-target-name>	「インジェクションターゲット」の 1 行:「インジェクションターゲット名」 必須(1 個)
	</injection-target>	
	</resource-ref>	
178	<resource-env-ref>	「リソース環境参照」ページ :リソース環境参照リストの 1 行 任意(0 個以上)
179	<description> </description>	リソース環境参照リストの 1 行:「説明」:「説明ダイアログ」 任意(0 個以上)*1
180	<resource-env-ref-name> </resource-env-ref-name>	リソース環境参照リストの 1 行:「参照名」 必須(1 個)
181	<resource-env-ref-type> </resource-env-ref-type>	リソース環境参照リストの 1 行:「型」 任意(0～1 個)
182	<mapped-name> </mapped-name>	リソース環境参照リストの 1 行:「リソースグループ」:「リソースグループの設定ダイアログ」:「マップ名」 任意(0～1 個)
183	<injection-target>	リソース環境参照リストの 1 行:「リソースグループ」:「リソースグループの設定ダイアログ」:「インジェクションターゲット」 任意(0個以上)

184	<injection-target-class> </injection-target-class>	「インジェクションターゲット」の 1 行:「インジェクションターゲットクラス」 必須(1 個)
185	<injection-target-name> </injection-target-name>	「インジェクションターゲット」の 1 行:「インジェクションターゲット名」 必須(1 個)
	</injection-target>	
	</resource-env-ref>	
186	<message-destination-ref>	「メッセージ宛先参照」ページ:メッセージ宛先参照リストの 1 行 任意(0 個以上)
187	<description> </description>	メッセージ宛先参照リストの 1 行: 「編集...」ボタン:「メッセージ宛先参照設定ダイアログ」: 「説明...」ボタン:「説明ダイアログ」 任意(0 個以上)*1
188	<message-destination-ref-name> </message-destination-ref-name>	メッセージ宛先参照リストの 1 行: 「編集...」ボタン:「メッセージ宛先参照設定ダイアログ」: 「参照名」 必須(1 個)
189	<message-destination-type> </message-destination-type>	メッセージ宛先参照リストの 1 行: 「編集...」ボタン:「メッセージ宛先参照設定ダイアログ」: 「型」 任意(0~1 個)
190	<message-destination-usage> </message-destination-usage>	メッセージ宛先参照リストの 1 行: 「編集...」ボタン:「メッセージ宛先参照設定ダイアログ」: 「使用法」 任意(0~1 個)
191	<message-destination-link> </message-destination-link>	メッセージ宛先参照リストの 1 行: 「編集...」ボタン:「メッセージ宛先参照設定ダイアログ」: 「宛先名」 任意(0~1 個)
192	<mapped-name> </mapped-name>	「メッセージ宛先参照設定ダイアログ」: 「リソースグループ」: 「リソースグループの設定ダイアログ」: 「マップ名」 任意(0~1 個)
193	<injection-target>	「メッセージ宛先参照設定ダイアログ」: 「リソースグループ」: 「リソースグループの設定ダイアログ」: 「インジェクションターゲット」 任意(0個以上)
194	<injection-target-class> </injection-target-class>	「インジェクションターゲット」の 1 行:「インジェクションターゲットクラス」 必須(1 個)
195	<injection-target-name> </injection-target-name>	「インジェクションターゲット」の 1 行:「インジェクションターゲット名」 必須(1 個)
	</injection-target>	
	</message-destination-ref>	
196	<message-destination>	「メッセージ宛先」ページ:メッセージ宛先リストの 1 行 任意(0 個以上)
197	<description> </description>	メッセージ宛先リストの 1 行:「説明」: 「説明ダイアログ」 任意(0 個以上)*1
198	<display-name>	メッセージ宛先リストの 1 行:「表示

	</display-name>	名 任意(0 個以上)*1
199	<icon>	メッセージ宛先リストの 1 行:「アイコン」: 「アイコンダイアログ」 任意(0 個以上)*1
200	<small-icon> </small-icon>	「アイコンダイアログ」: 「小さいアイコン」 任意(0~1 個)
201	<large-icon> </large-icon>	「アイコンダイアログ」: 「大きいアイコン」 任意(0~1 個)
	</icon>	
202	<message-destination-name> </message-destination-name>	メッセージ宛先リストの 1 行:「宛先名」 必須(1 個)
203	<mapped-name></mapped-name>	メッセージ宛先リストの 1 行:「マップ名」 任意(0~1 個)
	</message-destination>	
204	<locale-encoding-mapping-list>	「一般」ページ:「詳細設定...」ボタン: 「詳細設定ダイアログ」: ロケールエンコーディングマッピングリスト 任意(0 個以上)*4
205	<locale-encoding-mapping>	ロケールエンコーディングマッピング リストの 1 行 任意(1 個以上)
206	<locale></locale>	ロケールエンコーディングマッピング リストの 1 行:「ロケール」 必須(1 個)
207	<encoding></encoding>	ロケールエンコーディングマッピング リストの 1 行:「エンコーディング」 必須(1 個)
	</locale-encoding-mapping>	
	</locale-encoding-mapping-list>	
208	<persistence-context-ref>	「永続コンテキスト参照」ページ: 永続コンテキスト参照リストの 1 行 任意(0 個以上)
209	<description> </description>	永続コンテキスト参照リストの 1 行: 「説明」: 「説明ダイアログ」 任意(0 個以上)*1
210	<persistence-context-ref-name> </persistence-context-ref-name>	永続コンテキスト参照リストの 1 行: 「永続コンテキスト参照名」 必須(1 個)
211	<persistence-unit-name> </persistence-unit-name>	永続コンテキスト参照リストの 1 行: 「永続結合名」 任意(0~1 個)
212	<persistence-context-type> </persistence-context-type>	永続コンテキスト参照リストの 1 行: 「永続コンテキストタイプ」 任意(0~1 個)
213	<persistence-property>	永続コンテキスト参照リストの 1 行: 「永続プロパティ」: 「永続プロパティの設定」ダイアログ: 永続プロパティリストの 1 行 任意(0 個以上)
214	<name> </name>	永続プロパティリストの一行:「名前」 必須(1 個)
215	<value> </value>	永続プロパティリストの一行:「値」 必須(1 個)

	</persistence-property>	
216	<mapped-name> </mapped-name>	永続コンテキスト参照リストの 1 行: 「リソースグループ」:「リソースグループの設定ダイアログ」:「マップ名」 任意(0~1 個)
217	<injection-target>	永続コンテキスト参照リストの 1 行: 「リソースグループ」:「リソースグループの設定ダイアログ」:「インジェクションターゲット」 任意(0個以上)
218	<injection-target-class> </injection-target-class>	「インジェクションターゲット」の 1 行: 「インジェクションターゲットクラス」 必須(1 個)
219	<injection-target-name> </injection-target-name>	「インジェクションターゲット」の 1 行: 「インジェクションターゲット名」 必須(1 個)
	</injection-target>	
	</persistence-context-ref>	
220	<persistence-unit-ref>	「永続結合参照」ページ : 永続結合参照リストの 1 行 任意(0 個以上)
221	<description> </description>	永続結合参照リストの 1 行:「説明」: 「説明ダイアログ」 任意(0 個以上)*1
222	<persistence-unit-ref-name> </persistence-unit-ref-name>	永続結合参照リストの 1 行:「永続結合参照名」 必須(1 個)
223	<persistence-unit-name> </persistence-unit-name>	永続結合参照リストの 1 行:「永続結合名」 任意(0~1 個)
224	<mapped-name> </mapped-name>	永続結合参照リストの 1 行:「リソースグループ」: 「リソースグループの設定ダイアログ」:「マップ名」 任意(0~1 個)
225	<injection-target>	永続結合参照リストの 1 行:「リソースグループ」: 「リソースグループの設定ダイアログ」:「インジェクションターゲット」 任意(0個以上)
226	<injection-target-class> </injection-target-class>	「インジェクションターゲット」の 1 行: 「インジェクションターゲットクラス」 必須(1 個)
227	<injection-target-name> </injection-target-name>	「インジェクションターゲット」の 1 行: 「インジェクションターゲット名」 必須(1 個)
	</injection-target>	
	</persistence-unit-ref>	
228	<post-construct>	「ポストコンストラクト」ページ : ポストコンストラクトリストの 1 行 任意(0 個以上)
229	<lifecycle-callback-class> </lifecycle-callback-class>	ポストコンストラクトリストの 1 行: 「ライフサイクルコールバッククラス」 任意(0~1 個)
230	<lifecycle-callback-method> </lifecycle-callback-method>	ポストコンストラクトリストの 1 行: 「ライフサイクルコールバックメソッド」

		ド」 必須(1 個)
	</post-construct>	
231	<pre-destroy>	「破棄直前イベント」ページ：破棄直前イベントリストの 1 行 任意(0 個以上)
232	<lifecycle-callback-class> </lifecycle-callback-class>	破棄直前イベントリストの 1 行:「ライフサイクルコールバッククラス」 任意(0~1 個)
233	<lifecycle-callback-method> </lifecycle-callback-method>	破棄直前イベントリストの 1 行:「ライフサイクルコールバックメソッド」 必須(1 個)
	</pre-destroy>	
	</web-app>	

(*1)ただし、複数定義があっても GUI ページで編集できるのは最後の定義だけです。

(*2)ただし、複数定義しても、Web コンテナでは 1 つだけ定義しているのと同様に扱われるので、0~1 個に制限します。複数定義がある場合、最後の定義を編集対象とし、それ以外の定義は「詳細設定ダイアログ」で OK ボタンをクリックした時点で削除します。

(*3)ただし、複数定義すると Web コンテナでエラーになるので、0~1 個に制限します。複数定義がある場合、エラーメッセージがでて標準 D.D ページが開きますので、1 つに修正してください

(*4)ただし、複数定義しても、Web コンテナではまとめて定義しているのと同様に扱われるので、0~1 個に制限します。複数定義がある場合、全部をまとめて表示します。また、編集して保存すると 1 つにまとめて書き出します。

web.xml エディタの GUI ページでは、nec-web.xml ファイルに使用できるすべての要素はサポートしていません。

GUI ページでサポートする要素の一覧を以下に示します。

nec-web.xml ファイルで使用できるすべての要素については「nec-web.xml ファイルの要素」を参照してください。

番号	要素	対応する編集画面
1	<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>	編集不可 必須(1 個)
2	<nec-web-app error-url="a" httpServlet-security-provider="b">	「一般」ページ:「WebOTX 固有の設定」の「error-url」と 「httpServlet-security-provider」 任意(0~1 個)
3	< context-root > </context-root>	「一般」ページ:「WebOTX 固有の設定」の「コンテキストルート」 任意(0~1 個)
4	<security-role-mapping>	「ロール」ページ:ロールリストの 1 行:「WebOTX 固有の設定」 任意(0 個以上)*1
5	<role-name></role-name>	ロールリストの 1 行:「ロール名」 必須(1 個)
6	<principal-name></principal-name>	ロールリストの 1 行:「WebOTX 固有の設定」の「Principal 名」タブ:Principal 名リストの 1 行:「Principal 名」と「クラス名」 principal-name または group-name が必須(1 個以上)

7	<group-name></ group-name >	ロールリストの 1 行:「WebOTX 固有の設定」の「グループ名」タブ:グループ名リストの 1 行:「グループ名」 principal-name または group-name が必須(1 個以上)
	</security-role-mapping>	
8	<session-config>	「一般」ページ:「WebOTX 固有の設定」の「セッション...」ボタン:「セッションの設定」ダイアログ 任意(0~1 個)
9	<session-manager>	「セッションの設定」ダイアログ: 「session-manager」 任意(0~1 個)
10	<persistence-type></persistence-type>	「session-manager」:persistence-type」 必須(1 個)
11	<manager-properties>	「session-manager」: 「manager-properties...」ボタン 任意(0~1 個)
12	<property></property>	「manager-properties...」ボタン: 「プロパティの設定」ダイアログ: プロパティグループの 1 行 任意(0 個以上)
	</manager-properties>	
13	<store-properties>	「session-manager」: 「store-properties...」ボタン 任意(0~1 個)
14	<property></property>	「store-properties...」ボタン:「プロパティの設定」ダイアログ:プロパティグループの 1 行 任意(0 個以上)
	</store-properties>	
	</session-manager>	
15	<session-properties>	「セッションの設定」ダイアログ: 「session-properties...」ボタン 任意(0~1 個)
16	<property></property>	「session-properties...」ボタン:「プロパティの設定」ダイアログ:プロパティグループの 1 行 任意(0 個以上)
	</session-properties>	
17	<cookie-properties>	「セッションの設定」ダイアログ: 「cookie-properties...」ボタン 任意(0~1 個)
18	<property></property>	「cookie-properties...」ボタン:「プロパティの設定」ダイアログ:プロパティグループの 1 行 任意(0 個以上)
	</cookie-properties>	
	</session-config>	
19	<servlet>	「サーブレット」ページ:サーブレットリストの 1 行:「WebOTX 固有の設定」 任意(0 個以上)*2
20	<servlet-name></servlet-name>	サーブレットリストの 1 行:「サーブレット名」

		必須(1個)
21	<principal-name></principal-name>	サーブレットリストの1行: 「WebOTX 固有の設定」の 「Principal 名」と「クラス名」 任意(0~1 個)
	</servlet>	
22	<ejb-ref>	「EJB 参照」ページ:EJB 参照リス トの1行:「WebOTX 固有の設定」 任意(0 個以上)*2
23	<ejb-ref-name><ejb-ref-name>	EJB 参照リストの1行:「参照名」 必須(1個)
24	<jndi-name></jndi-name>	EJB 参照リストの1行:「WebOTX 固有の設定」の「JNDI名」 必須(1個)
	</ejb-ref>	
25	<resource-ref>	「リソース参照」ページ:リソース マネージャ接続ファクトリ参照リ ストの1行:「WebOTX 固有の設 定」 任意(0 個以上)*2
26	<res-ref-name></res-ref-name>	リソースマネージャ接続ファクトリ 参照リストの1行:「参照名」 必須(1個)
27	<jndi-name></jndi-name>	リソースマネージャ接続ファクトリ 参照リストの1行:「WebOTX 固有 の設定」の「JNDI名」 必須(1個)
28	<default-resource-principal>	リソースマネージャ接続ファクトリ 参照リストの1行:「WebOTX 固有 の設定」 任意(0~1個)
29	<name></name>	リソースマネージャ接続ファクトリ 参照リストの1行:「WebOTX 固有 の設定」の「ユーザ名」 必須(1個)
30	<password></password>	リソースマネージャ接続ファクトリ 参照リストの1行:「WebOTX 固有 の設定」の「パスワード」 必須(1個)
	</default-resource-principal>	
	</resource-ref>	
31	<resource-env-ref>	「リソース環境参照」ページ:リソ ース環境参照リストの1行: 「WebOTX 固有の設定」 任意(0 個以上)*2
32	<resource-env-ref-name></resource-env-ref-name>	リソース環境参照リストの1行: 「参照名」 必須(1個)
33	<jndi-name></jndi-name>	リソース環境参照リストの1行: 「WebOTX 固有の設定」の「JNDI 名」 必須(1個)
	</resource-env-ref>	
34	<cache max-entries="4096" timeout-in-seconds="30" enabled="true">	「一般」ページ:「WebOTX 固有 の設定」の「キャッシュ...」ボタン: 「キャッシュの設定」ダイアログ: 「最大エントリ数」、「タイムアウト」、 「使用可」

		任意(0～1 個)
35	<cache-helper>	「キャッシュの設定」ダイアログ:cache-helper リストの 1 行 任意(0 個以上)
36	<name></name>	cache-helper リストの 1 行:「名前」 必須(1 個)
37	<class-name></class-name>	cache-helper リストの 1 行:「クラス名」 必須(1 個)
38	<property></property>	cache-helper リストの 1 行:「プロパティ」:「プロパティの設定」ダイアログ:プロパティグループリストの 1 行 任意(0 個以上)
	</cache-helper>	
39	<default-helper>	「キャッシュの設定」ダイアログ:「default-helper...」ボタン 任意(0～1 個)
40	<property></property>	「default-helper...」ボタン:「プロパティの設定」ダイアログ:プロパティグループリストの 1 行 任意(0 個以上)
	</default-helper>	
41	<property></property>	「キャッシュの設定」ダイアログ:「プロパティ...」ボタン:「プロパティの設定」ダイアログ:プロパティグループリストの 1 行 任意(0 個以上)
42	<cache-mapping>	「キャッシュの設定」ダイアログ:キャッシュマッピングリストの 1 行 任意(0 個以上)
43	<url-pattern></url-pattern>	キャッシュマッピングリストの 1 行:「編集...」ボタン:「キャッシュマッピングの設定」ダイアログ:マッピング型:「URL パターン」 servlet-name または url-pattern が必須(1 個)
44	<servlet-name></servlet-name>	キャッシュマッピングリストの 1 行:「編集...」ボタン:「キャッシュマッピングの設定」ダイアログ:「マッピング型」:「サーブレット」 servlet-name または url-pattern が必須(1 個)
45	<cache-helper-ref></cache-helper-ref>	キャッシュマッピングリストの 1 行:「編集...」ボタン:「キャッシュマッピングの設定」ダイアログ:「制約」:「cache-helper-ref の参照」 「cache-helper-ref の参照」または「その他」が必須(1 個)
46	<timeout></timeout>	キャッシュマッピングリストの 1 行:「編集...」ボタン:「キャッシュマッピングの設定」ダイアログ:「制約」:「その他の設定...」ボタン:「その他の設定」ダイアログ:「タイムアウト設定」 任意(0～1 個)
47	<refresh-field></refresh-field>	キャッシュマッピングリストの 1 行:「編集...」ボタン:「キャッシュマ

		ツッピングの設定」ダイアログ:「制約」:「その他の設定...」ボタン:「その他の設定」ダイアログ: 「refresh-field」 任意(0~1 個)
48	<dispatcher></dispatcher>	キャッシュマッピングリストの 1 行:「編集...」ボタン:「キャッシュマッピングの設定」ダイアログ:「制約」:「その他の設定...」ボタン:「その他の設定」ダイアログ: 「dispatcher」 任意(0 個以上)
49	<http-method></http-method>	キャッシュマッピングリストの 1 行:「編集...」ボタン:「キャッシュマッピングの設定」ダイアログ:「制約」:「その他の設定...」ボタン:「その他の設定」ダイアログ: 「http-method」 任意(0 個以上)
50	<key-field></key-field>	キャッシュマッピングリストの 1 行:「編集...」ボタン:「キャッシュマッピングの設定」ダイアログ:「制約」:「その他の設定...」ボタン:「その他の設定」ダイアログ: 「key-field」 任意(0 個以上)
51	<constraint-field>	キャッシュマッピングリストの 1 行:「編集...」ボタン:「キャッシュマッピングの設定」ダイアログ:「制約」:「その他の設定...」ボタン:「その他の設定」ダイアログ: 「constraint-field」 任意(0 個以上)
52	<constraint-field-value></constraint-field-value>	キャッシュマッピングリストの 1 行:「編集...」ボタン:「キャッシュマッピングの設定」ダイアログ:「制約」:「その他の設定...」ボタン:「その他の設定」ダイアログ: 「constraint-field」: 「constraint-field-value」 任意(0 個以上)
	</constraint-field>	
	</cache-mapping>	
	</cache>	
53	<class-loader>	「一般」ページ:「WebOTX 固有の設定」の「クラスローダ...」ボタン:「クラスローダの設定」ダイアログ 任意(0~1 個)
54	<property></property>	「クラスローダの設定」ダイアログ:「プロパティ...」ボタン:「プロパティの設定」ダイアログ:プロパティグループリストの 1 行 任意(0 個以上)
	</class-loader>	
55	<jsp-config>	「JSP プロパティ」ページ: 「WebOTX 固有の設定」 任意(0~1 個)

56	<property></property>	「WebOTX 固有の設定」:「プロパティの設定...」ボタン:「プロパティの設定」ダイアログ:プロパティグループリストの 1 行 任意(0 個以上)
	</jsp-config>	
57	<locale-charset-info>	「一般」ページ:「WebOTX 固有の設定」の「charset...」ボタン:「Locale Charset Info の設定」ダイアログ 任意(0~1 個)
58	<locale-charset-map></ locale-charset-map >	「Locale Charset Info の設定」ダイアログ:locale-charset-map リストの 1 行 必須(1 個以上)
59	< parameter-encoding></ parameter-encoding>	「Locale Charset Info の設定」ダイアログ:「parameter-encoding」 任意(0~1 個)
	</ locale-charset-info >	
60	<property></property>	「プロパティ」ページ:プロパティリストの 1 行
61	<message-destination>	「メッセージ宛先」ページ: メッセージ宛先リストの 1 行:「WebOTX 固有の設定」 任意(0 個以上)*2
62	<message-destination-name></message-destination-name>	メッセージ宛先リストの 1 行:「宛先名」 必須(1 個)
63	<jndi-name></jndi-name>	メッセージ宛先リストの 1 行:「WebOTX 固有の設定」の「JNDI 名」 必須(1 個)
	</message-destination>	
64	<message-destination-ref>	「メッセージ宛先参照」ページ: メッセージ宛先参照リストの 1 行:「WebOTX 固有の設定」 任意(0 個以上)*2
65	<message-destination-ref-name></message-destination-ref-name>	メッセージ宛先参照リストの 1 行:「宛先参照名」 必須(1 個)
66	<jndi-name></jndi-name>	メッセージ宛先参照リストの 1 行:「WebOTX 固有の設定」の「JNDI 名」 必須(1 個)
	</message-destination-ref>	
67	<idempotent-url-pattern></idempotent-url-pattern>	「一般」ページ:「WebOTX 固有の設定」の「idempotent-url-pattern...」ボタン:「idempotent-url-pattern の設定」ダイアログ: idempotent-url-pattern グループリストの 1 行 任意(0 個以上)
68	<parameter-encoding></parameter-encoding>	「一般」ページ:「WebOTX 固有の設定」の「parameter-encoding...」ボタン:「parameter-encoding の設定」ダイアログ:「parameter-encoding」 任意(0~1 個)

</nec-web-app>	
----------------	--

(*1)ただし、同じ role-name の定義が複数ある場合は、まとめて表示します。また、編集して保存あるいは「WebOTX D.D」ページを表示すると1つにまとめて書き出します。

(*2)ただし、サブ要素(<servlet-name>、<ejb-ref-name>、<res-ref-name>、<resource-env-ref-name>、<message-destination-name>)で同じ名前を設定している定義が複数ある場合、最後の定義を編集対象とし、それ以外の定義は、編集して保存あるいは「WebOTX D.D」ページを表示した時点で削除します。

「一般」ページ

web.xml エディタの「一般」ページをクリックすると、以下のような画面を表示します。

各項目の説明を以下に示します。

項目	要素	説明
プロジェクト名	-	この web.xml ファイルが含まれる Eclipse のプロジェクト名を表示します。

表示名	<web-app> <display-name>	Web アプリケーションの表示名を設定します。 [任意]
完全メタデータ	–	この値は、 <web-app xmlns= "http://java.sun.com/xml/ns/javaee" xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/ XMLSchema-instance" xsi:schemaLocation= http://java.sun.com/xml/ns/javaee web-app_2_5.xsd" version="2.5" metadata-complete="true"> の metadata-complete を設定します。 完全メタデータを以下から選択します。 “” true false [任意]
「詳細設定...」ボタン	–	「詳細設定...」ボタンをクリックすると、「詳細設定ダイアログ」を表示します。
「アイコン...」ボタン	<web-app> <icon>	「アイコン...」ボタンをクリックして、「アイコンダイアログ」を表示し、小さいアイコン、大きいアイコンを設定します。
「説明...」ボタン	<web-app> <description>	「説明...」ボタンをクリックして、「説明ダイアログ」を表示し、Web アプリケーションの説明を設定します。
エンコーディング	–	この web.xml ファイルの文字コードを指定します。この値は、XML 宣言のエンコーディング宣言に設定します。 <?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1"?> エンコーディングを以下から選択

		します。 UTF-8 UTF-16 ISO-8859-1 EUC-JP Shift_JIS ISO-2022-JP BIG5 GB2312 既定値:ISO-8859-1
WebOTX固有の設定	-	nec-web.xml の編集ができます。
error-url	-	「error-url」を設定します。 [任意]
httpServlet-security-provider	-	「 httpServlet-security-provider 」 を設定します。 [任意]
コンテキストルート	<nec-web-app> <context-root>	Web アプリケーションのコンテキ ストルートを設定します。 [任意]
「クラスローダ...」ボタン	<nec-web-app> <class-loader>	「クラスローダ...」ボタンをクリック すると、「クラスローダの設定」ダイ アログを表示します。
「キャッシュ...」ボタン	<nec-web-app> <cache>	「キャッシュ...」ボタンをクリックす ると、「キャッシュの設定」ダイア ログを表示します。
「charset...」ボタン	<nec-web-app> <locale-charset-info>	「charset...」ボタンをクリックする と、「Locale Charset Info の設定」 ダイアログを表示します。
「セッション...」ボタン	<nec-web-app> <session-config>	「セッション...」ボタンをクリックす ると、「セッションの設定」ダイアロ グを表示します。
「idempotent-url-pattern...」ボタン	<nec-web-app> <idempotent-url-pattern>	「idempotent-url-pattern...」ボタ ンを ク リ ッ ク す る と 「idempotent-url-pattern の設定」 ダイアログを表示します。
「parameter-encoding...」ボタン	<nec-web-app> <parameter-encoding>	「parameter-encoding...」ボタ ンを ク リ ッ ク す る と 「parameter-encoding の設定」ダイ アログを表示します。

「一般」ページの「詳細設定...」ボタンをクリックすると、以下のような画面を表示します。

各項目の説明を以下に示します。

項目	要素	説明
配布可	<code><web-app></code> <code><distributable/></code>	配布可能かどうか指定します。 [任意]
セッションタイムアウト	<code><web-app></code> <code><session-config></code> <code><session-timeout></code>	セッションタイムアウト間隔を分単位で設定します。 [任意] ※ 整数値でなければなりません。 ※ <code><session-config></code> 要素が複数あると、「標準 D.D」ページしか開けません。「標準 D.D」ページで1つに修正してください。
ロケールエンコーディングマッピング	<code><web-app></code> <code><locale-encoding-mapping-list></code> <code><locale-encoding-mapping></code>	「ロケールエンコーディングマッピング」を設定します。 [任意] ※

		<locale-encoding-mapping-list> 要素が複数あっても、それぞれの <locale-encoding-mapping> 要素をまとめて表示します。
MIME マッピング	<web-app> <mime-mapping>	「MIME マッピング」を設定します。 [任意]
「OK」ボタン	-	設定内容を保存します。
「キャンセル」ボタン	-	設定内容を保存しないで、「一般」ページに戻ります。

ロケールエンコーディングマッピング

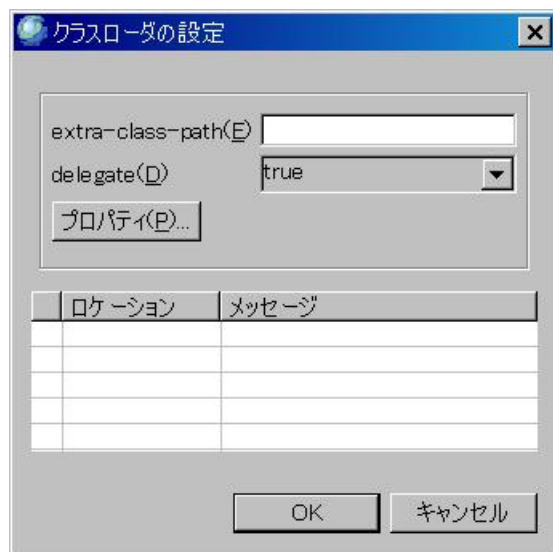
項目	要素	説明
ロケールエンコーディングマッピング	<web-app> <locale-encoding-mapping-list> <locale-encoding-mapping>	マッピングするロケールとエンコーディングを一覧表示します。 「追加」ボタン/「削除」ボタンで、定義の追加/削除ができます。 [任意]
ロケール	<web-app> <locale-encoding-mapping-list> <locale-encoding-mapping> <locale>	ロケールを設定します。 [必須] ※ ISO-639-1 で定義されている “Language-code”(“ja” など) か、“Language-code_Country-code”(“ja_JP” など)でなければなりません。
エンコーディング	<web-app> <locale-encoding-mapping-list> <locale-encoding-mapping> <encoding>	エンコーディングを設定します。 [必須] ※IANA キャラクターセットでなければなりません。
「追加」ボタン	-	空の行をリストの最後に追加します。
「削除」ボタン	-	削除確認後、選択行の情報を削除します。

MIME マッピング

項目	要素	説明
MIME マッピング	<web-app> <mime-mapping>	マッピングする拡張子と MIME タイプを一覧表示します。 「追加」ボタン/「削除」ボタンで、定義の追加/削除ができます。 [任意]
拡張子	<web-app> <mime-mapping> <extension>	拡張子("txt"など)を設定します。 [必須]
MIME タイプ	<web-app> <mime-mapping> <mime-type>	MIME タイプ("txt/plain"など)を設定します。 [必須]
「追加」ボタン	–	空の行をリストの最後に追加します。
「削除」ボタン	–	削除確認後、選択行の情報を削除します。

「クラスローダの設定」ダイアログ

「一般」ページの「クラスローダ...」ボタンをクリックすると、以下のような画面を表示します。



各項目の説明を以下に示します。

項目	要素	説明
extra-class-path	<nec-web-app> <class-loader>の extra-class-path 属性	追加のクラスパスを設定します。 複数のクラスパスを設定する場合は、Windows 環境では";"(セミコロン)、Unix 環境では":"(コロン)で区切ってください。 [任意]
delegate	<nec-web-app>	親クラスローダを優先するか、ロ



	<class-loader>の delegate 属性	<p>一カルのクラスローダを優先するかを設定します。</p> <p>true: 親クラスローダを優先</p> <p>false: ローカルのクラスローダを優先</p> <p>既定値: true</p>
「プロパティ...」ボタン	<nec-web-app> <class-loader> <property>	<p>「プロパティの設定」ダイアログを表示して、プロパティの情報を編集します。</p> <p>[任意]</p>
「OK」ボタン	-	設定内容を保存します。
「キャンセル」ボタン	-	設定内容を保存しないで、「一般」ページに戻ります。

「プロパティの設定」ダイアログ

「クラスローダの設定」ダイアログの「プロパティ...」ボタンをクリックすると、以下のような画面を表示します。

各項目の説明を以下に示します。

項目	要素	説明
プロパティグループ	<nec-web-app> <class-loader> <property>	<p>クラスローダのプロパティを一覧表示します。</p> <p>[任意]</p>
名前	<nec-web-app> <class-loader>	クラスローダのプロパティの名前を設定します

	<property> の name 属性	[必須]
値	<nec-web-app> <class-loader> <property> の value 値属性	クラスローダのプロパティの値を設定します。 [必須]
説明	<nec-web-app> <class-loader> <property> <descripti on>	説明を設定している場合は  、設定していない場合は  を表示します。 アイコンをクリックして、説明ダイアログを表示し、クラスローダのプロパティの説明を設定します。 [任意]
「追加」ボタン	–	空の行をリストの最後に追加します。
「削除」ボタン	–	削除確認後、選択行の情報を削除します。
「OK」ボタン	–	設定内容を保存します。
「キャンセル」ボタン	–	設定内容を保存しないで、「クラスローダの設定」ダイアログに戻ります。

「キャッシュの設定」ダイアログ

「一般」ページの「キャッシュ...」ボタンをクリックすると、以下のような画面を表示します。

キャッシュの設定

キャッシュ

☒ 使用可(E)

最大エントリ数[4096](M)

タイムアウト(秒)[30](T)

cache-helper

	名前	クラス名	プロパ...
1	cacheH...	Helper...	

追加(A)

削除(D)

default-helper(H)...

プロパティ(P)...

キャッシュマッピング

	マッピング型	要素値
1	servlet-name	myservlet

追加(I)...

編集(C)...

削除(R)



ロケーション	メッセージ

OK

キャンセル

各項目の説明を以下に示します。

項目	要素	説明
使用可	<nec-web-app> <cache>の enabled 属性	サーブレットと JSP のキャッシュを有効にするかどうかを指定します。 true : キャッシュを有効にする false : キャッシュを無効にする 既定値: true
最大エントリ数	<nec-web-app> <cache>の max-entries 属性	キャッシュに格納できるエントリの最大数を設定します。 ※整数値でなければなりません。 既定値: 4096
タイムアウト	<nec-web-app> <cache>の timeout-in-seconds 属性	エントリをキャッシュ内で保持する最大時間を秒単位で設定します。 ※整数値でなければなりません。 既定値: 30

cache-helper	<nec-web-app> <cache> <cache-helper>	cache-helper を一覧表示します。
名前	<nec-web-app> <cache> <cache-helper>の name 属性	ヘルパークラスの一意の名前を指定します。cache-mapping 要素で参照する名前です。 [必須]
クラス名	<nec-web-app> <cache> <cache-helper> の class-name 属性	キャッシュヘルパークラスの完全修飾クラス名を指定します。 [必須]
プロパティ	<nec-web-app> <cache> <cache-helper> <property>	プロパティを設定している場合は  , 設定していない場合は  を表示します。 アイコンをクリックして、「プロパティの設定」ダイアログを表示し、カスタムのキャッシュヘルパークラスで利用できるプロパティを指定します。 [任意]
「追加」ボタン	–	空の行をリストの最後に追加します。
「削除」ボタン	–	削除確認後、選択行の情報を削除します。
「default-helper...」ボタン	<nec-web-app> <cache> <default-helper> <property>	「プロパティの設定」ダイアログを表示し、内蔵のデフォルトキャッシュヘルパークラスのプロパティを変更します。 [任意]
「プロパティ...」ボタン	<nec-web-app> <cache> <property>	「プロパティの設定」ダイアログを表示して、キャッシュのプロパティの情報を編集します。 [任意]
キャッシュマッピング	<nec-web-app> <cache> <cache-mapping>	キャッシュマッピングを一覧表示します。 「追加...」ボタン/「編集...」ボタン/「削除」ボタンで、定義の追加/編集/削除ができます。 [任意]
マッピング型	–	「キャッシュマッピングの設定」ダ

		イアログで設定したマッピング型 (servlet-nam または url-pattern)を表示します。 [必須]
要素値	<nec-web-app> <cache> <cache-mapping> <servlet-name>/<url-patte rn>	「キャッシュマッピングの設定」ダ イアログで設定したマッピング型 の要素値を表示します。 [必須]
「追加...」ボタン	-	「キャッシュマッピングの設定」ダ イアログを表示して、キャッシュ マッピングの情報を追加します。
「編集...」ボタン	-	「キャッシュマッピングの設定」ダ イアログを表示して、選択行の 情報を編集します。
「削除」ボタン	-	削除確認後、選択行の情報を削 除します。
「OK」ボタン	-	設定内容を保存します。
「キャンセル」ボタ ン	-	設定内容を保存しないで、「一 般」ページに戻ります。

「キャッシュマッピングの設定」ダイアログ

「キャッシュの設定」ダイアログの「追加...」ボタンまたは「編集...」ボタンをクリックすると、以下のような画面を表示します。

各項目の説明を以下に示します。

項目	要素	説明
マッピング型	—	
URLパターン	<nec-web-app> <cache> <cache-mapping> <url-pattern>	キャッシュを有効にする URL パターンを設定します。 [URL パターンまたはサーブレットが必須]
サーブレット	<nec-web-app> <cache> <cache-mapping> <servlet-name>	コンボボックスからキャッシュを有効にするサーブレット名を選択します。コンボボックスでは、「サーブレット」ページで定義したサーブレット名が選択できます。 [URL パターンまたはサーブレットが必須]
制約	—	キャッシュマッピングに適用する制約を設定します。
その他、「その他の設定...」ボタン	—	「その他の設定」ダイアログを表示し、 timeout, refresh-field, http-method, key-field, constraint-field を設定します。
cache-helper の参照	<nec-web-app> <cache> <cache-mapping> <cache-helper-ref>	使用するキャッシュヘルパークラスを cache-helper 要素の name 属性で定義している名前で指定します。 [timeout, refresh-field, http-method, key-field, constraint-field を使用しない場合に必須]
「OK」ボタン	—	設定内容を保存します。
「キャンセル」ボタン	—	設定内容を保存しないで、「キャッシュの設定」ダイアログに戻ります。

「その他の設定」ダイアログ

「キャッシュマッピングの設定」ダイアログの「その他の設定...」ボタンをクリックすると、以下のような画面を表示します。

その他の設定

タイムアウト設定
 名前(N)
 範囲[request.attribute](S)
 値(V)

dispatcher

1	REQUEST
---	---------

 追加(A) 削除(D)

http-method

1	GET
---	-----

 追加(A) 削除(D)

refresh-field
 名前(M)
 範囲[request.parameter](C)

key-field

名前	範囲
1	key request para...

constraint-field

名前	範囲	cache-on-match	cache-on-match-failure
1	constraint	request parameter	<input type="checkbox"/>

constraint-field-value

値	match-expr	cache-on-match	cache-on-match-failure
1	value	equals	<input checked="" type="checkbox"/>

ロケーション メッセージ

OK

各項目の説明を以下に示します。

項目	要素	説明
タイムアウト設定	<nec-web-app> <cache> <cache-mapping> <timeout>	キャッシュマッピングごとのタイムアウトを設定します。 [任意]
名前	<nec-web-app> <cache> <cache-mapping> <timeout>の name 属性	タイムアウトの名前を設定します。 [必須]
範囲	<nec-web-app> <cache> <cache-mapping> <timeout> の scope 属性	タイムアウトの有効範囲を以下から選択します。 context.attribute request.header request.parameter request.cookie request.attribute session.attribute 既定値: request.attribute
値	<nec-web-app> <cache> <cache-mapping> <timeout>	エントリをキャッシュ内で保持する最大時間を秒単位で設定します。キャッシュマッピングごとの固有の値です。 ※整数値でなければなりません。 [必須]

refresh-field	<nec-web-app> <cache> <cache-mapping> <refresh-field>	キャッシュマッピングごとの refresh-field を設定します。 [任意]
名前	<nec-web-app> <cache> <cache-mapping> <refresh-field> の name 属性	refresh-field の名前を設定します。 [必須]
範囲	<nec-web-app> <cache> <cache-mapping> <refresh-field> の scope 属性	refresh-field の有効範囲を以下から選択します。 context.attribute request.header request.parameter request.cookie session.id session.attribute 既定値: request.parameter
dispatcher	<nec-web-app> <cache> <cache-mapping> <dispatcher>	キャッシュ対象の dispatcher を指定します。 既定値: REQUEST [任意]
「追加」ボタン	–	空の行をリストの最後に追加します。
「削除」ボタン	–	削除確認後、選択行の情報を削除します。
http-method	<nec-web-app> <cache> <cache-mapping> <http-method>	キャッシュ対象の HTTP メソッドを指定します。 既定値: GET [任意]
「追加」ボタン	–	空の行をリストの最後に追加します。
「削除」ボタン	–	削除確認後、選択行の情報を削除します。
key-field	<nec-web-app> <cache> <cache-mapping> <key-field>	キャッシュマッピングごとの key-field を設定します。 [任意]
名前	<nec-web-app> <cache> <cache-mapping> <key-field> の name 属性	key-field の名前を設定します。 [必須]
範囲	<nec-web-app>	key-field の有効範囲を以下から選択しま

	<cache> <cache-mapping> <key-field> の scope 属性	す。 context.attribute request.header request.parameter request.cookie session.id session.attribute 既定値: request.parameter
「追加」ボタン	–	空の行をリストの最後に追加します。
「削除」ボタン	–	削除確認後、選択行の情報を削除します。
constraint-field	<nec-web-app> <cache> <cache-mapping> <constraint-field>	指定した url-pattern あるいは servlet-name に対するキャッシュ制約条件を指定します。 [任意]
名前	<nec-web-app> <cache> <cache-mapping> <constraint-field> の name 属性	この制約条件フィールドのパラメータ名を指 定します。 [必須]
範囲	<nec-web-app> <cache> <cache-mapping> <constraint-field> の scope 属性	このパラメータの有効範囲を以下から選択し ます。 context.attribute request.header request.parameter request.cookie session.id session.attribute 既定値: request.parameter
cache-on-match	<nec-web-app> <cache> <cache-mapping> <constraint-field> の cache-on-match 属性	条件に一致する応答をキャッシュするかどうか 指定します。 既定値: true
cache-on-match-failure	<nec-web-app> <cache> <cache-mapping> <constraint-field> の cache-on-match-failure 属性	条件に一致しない応答をキャッシュするかどうか 指定します。 既定値: false
「追加」ボタン	–	空の行をリストの最後に追加します。
「削除」ボタン	–	削除確認後、選択行の情報を削除します。
constraint-field-value	<nec-web-app> <cache>	パラメータの値と比較する制約条件を指定し ます。

	<cache-mapping> <constraint-field> <constraint-field -value>	[任意]
値	<nec-web-app> <cache> <cache-mapping> <constraint-field> <constraint-field- value>	パラメータの値を指定します。 [必須]
match-expr	<nec-web-app> <cache> <cache-mapping> <constraint-field> <constraint-field- value> の match-expr 属性	match-expr の有効範囲を以下から選択しま す。 equals greater lesser not-equals in-range 既定値: equals
cache-on-match	<nec-web-app> <cache> <cache-mapping> <constraint-field> <constraint-field-v alue> の cache-on-match 属 性	条件に一致する応答をキャッシュするかどうか指定します。 既定値: true
cache-on-match-failure	<nec-web-app> <cache> <cache-mapping> <constraint-field> <constraint-field -value> の cache-on-match -failure 属性	条件に一致しない応答をキャッシュするかどうか指定します。 既定値: false
「追加」ボタン	–	空の行をリストの最後に追加します。
「削除」ボタン	–	削除確認後、選択行の情報を削除します。
「OK」ボタン	–	設定内容を保存します。
「キャンセル」ボタン	–	設定内容を保存しないで、「キャッシュマッピングの設定」ダイアログに戻ります。

「Locale Charset Info の設定」ダイアログ

「一般」ページで「charset...」ボタンをクリックすると、以下のような画面を表示します。

Locale Charset Info の設定

デフォルトロケール(L)

locale-charset-map

	locale	agent	charset	説明
1	ja		shift-jis	

追加(A) 削除(D)

parameter-encoding

form-hint-field(E)

default-charset(C)

ロケーション	メッセージ

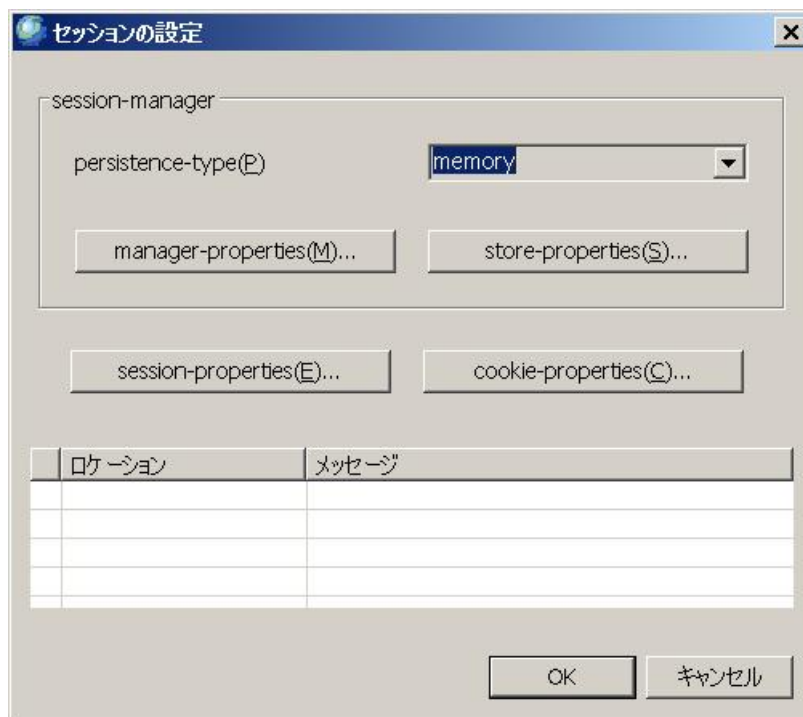
OK キャンセル

各項目の説明を以下に示します。

項目	要素	説明
デフォルトロケール	<nec-web-app> <locale-charset-info> の default-locale 属性	デフォルトのロケールを設定します。 [任意] ※この属性は現在利用できません
locale-charset-map	<nec-web-app> <locale-charset-info> <locale-charset-map>	ロケールと charset のマッピングを一覧表示 します。 「追加」ボタン/「削除」ボタンで、定義の追加 /削除ができます。 [必須]
locale	<nec-web-app> <locale-charset-info> <locale-charset-map> >の locale 属性	ロケールを設定します。 [必須]
agent	<nec-web-app> <locale-charset-info> <locale-charset-map> >の agent 属性	クライアントの種類を設定します。 ※HTTP リクエストヘッダの user-agent の値 でなければなりません。 [任意]
charset	<nec-web-app>	charset を設定します。

	<locale-charset-info> <locale-charset-map >の charset 属性	[必須]
「追加」ボタン	–	空の行をリストの最後に追加します。
「削除」ボタン	–	削除確認後、選択行の情報を削除します。
parameter-encoding	<nec-web-app> <locale-charset-info> <parameter-encoding>	リクエストヘッダの content-type に charset が指定されていない場合に、Web コンテナが 文字エンコードを取得するフィールドとデフォ ルトの文字エンコード設定します。 [任意]
form-hint-field	<nec-web-app> <locale-charset-info> <parameter-encoding> の form-hint-field 属性	文字エンコードを指定するフォーム内の隠し フィールドの名前を設定します。 [任意]
default-charset	<nec-web-app> <locale-charset-info> <parameter-encoding> の default-charset 属性	デフォルトの文字エンコードを設定します。 [任意]
「OK」ボタン	–	設定内容を保存します。
「キャンセル」ボタン	–	設定内容を保存しないで、「一般」ページに 戻ります。

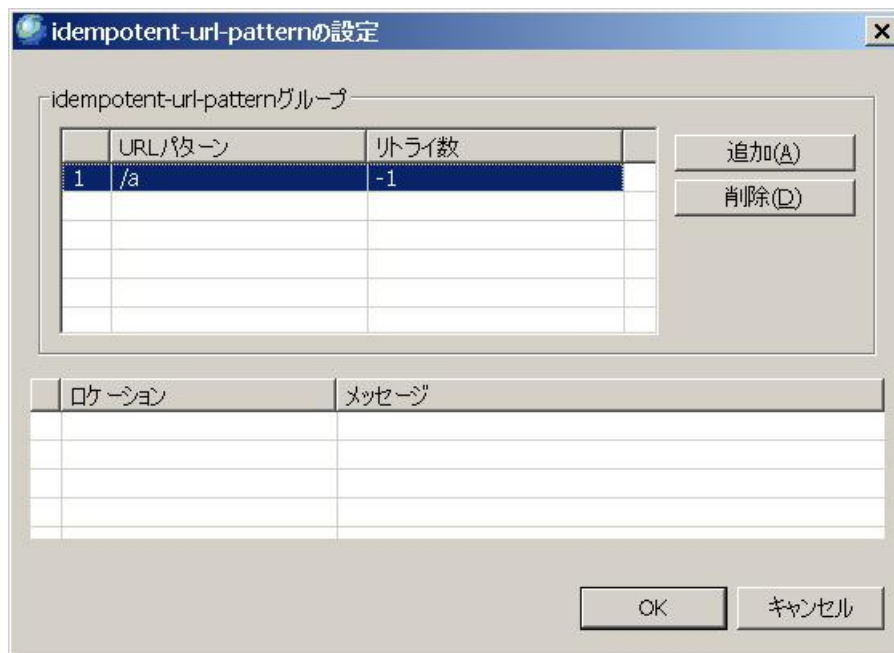
「セッションの設定」ダイアログ



各項目の説明を以下に示します。

項目	要素	説明
session-manager	<nec-web-app> <session-config> <session-manager>	セッションマネージャの設定情報を指定します。 [任意]
persistence-type	<nec-web-app> <session-config> <session-manager> の persistence-type 属性	persistence-type を 設 定 し ま す 。 persistence-type の設定値は、次のリスト から memory file 選択します。 既定値: memory ※マルチプロセスモードでは file は使用できません。 ※ file を 指 定 す る 場 合 は 、 web.xml に "<distributable />" の 設 定 が 必 要 で す。
manager-properties	<nec-web-app> <session-config> <session-manager> <manager-properties >	「プロパティの設定」ダイアログを表示し、 セッションマネージャのプロパティを設定 します。
store-properties	<nec-web-app> <session-config> <session-manager> <store-properties >	「プロパティの設定」ダイアログを表示し、 セッション永続化のプロパティを設定しま す。
session-properties	<nec-web-app> <session-config> <session-properties>	「プロパティの設定」ダイアログを表示し、 セッションのプロパティを設定します。
cookie-properties	<nec-web-app> <session-config> <cookie-properties>	「プロパティの設定」ダイアログを表示し、 セッション ID を格納する cookie のプロパ ティを設定します。
「OK」ボタン	–	設定内容を保存します。
「キャンセル」ボタン	–	設定内容を保存しないで、「一般」ページ に戻ります。

「idempotent-url-pattern 設定」ダイアログ



各項目の説明を以下に示します。

項目	要素	説明
idempotent-url-pattern	<nec-web-app> <idempotent-url-pattern >	idempotent-url-pattern を指定します。 [任意]
URL パターン	<nec-web-app> <idempotent-url-pattern> の url-pattern 属性	idempotent-url-pattern の url-pattern 属性を設定します。 [任意]
リトライ数	<nec-web-app> <idempotent-url-pattern> の num-of-retries 属性	idempotent-url-pattern の num-of-retries 属性を設定します。 [任意]
「OK」ボタン	–	設定内容を保存します。
「キャンセル」ボタン	–	設定内容を保存しないで、「一般」ページに戻ります。

「parameter-encoding の設定」ダイアログ

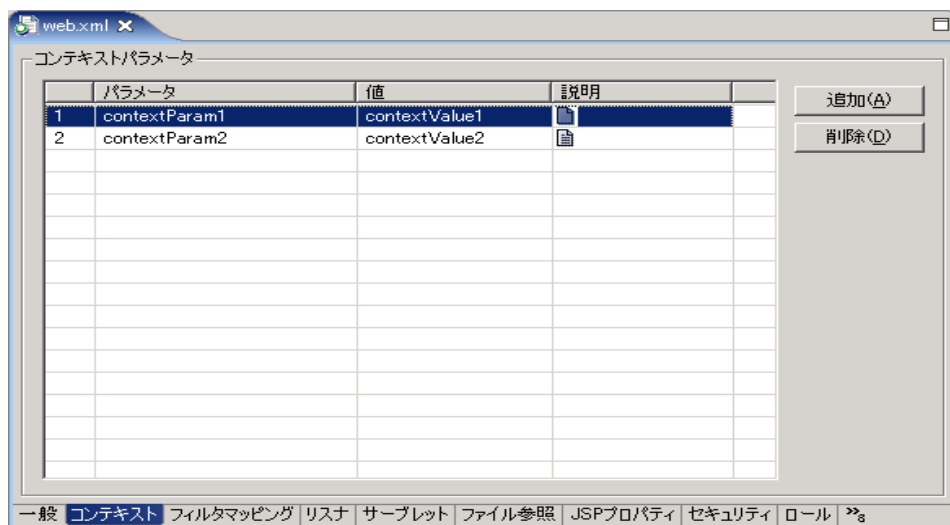


各項目の説明を以下に示します。

項目	要素	説明
parameter-encoding	<nec-web-app> < parameter-encoding >	parameter-encoding を指定します。 [任意]
form-hint-field	<nec-web-app> <parameter-encoding> の form-hint-field 属性	<parameter-encoding> の form-hint-field 属性を設定します。 [任意]
default-charset	<nec-web-app> <parameter-encoding> の default-charset 属性	<parameter-encoding>の default-charset 属性を設定します。 [任意]
「OK」ボタン	–	設定内容を保存します。
「キャンセル」ボタン	–	設定内容を保存しないで、「一般」ページ に戻ります。



「コンテキスト」ページ

web.xml エディタの「コンテキスト」ページをクリックすると、以下のような画面を表示します。
「コンテキスト」ページでは、<context-param>要素が編集できます。



各項目の説明を以下に示します。

項目	要素	説明
コンテキストパラメータ	<web-app> <context-param>	コンテキストパラメータを一覧表示します。 「追加」ボタン/「削除」ボタンで、定義の追加 /削除ができます。 [任意]
パラメータ	<web-app>	Web アプリケーションの Servlet コンテキスト

	<context-param> <param-name>	初期化パラメータ名を設定します。 [必須]
値	<web-app> <context-param> <param-value>	パラメータの値を設定します。 [必須]
説明	<web-app> <context-param> <description>	説明を設定している場合は  、設定していない場合は  を表示します。 アイコンをクリックして、説明ダイアログを表示し、コンテキストパラメータの説明を設定します。 [任意]
「追加」ボタン	–	空の行をリストの最後に追加します。
「削除」ボタン	–	削除確認後、選択行の情報を削除します。

「フィルタマッピング」ページ



各項目の説明を以下に示します。

項目	要素	説明
サーブレットフィルタマッピング	<web-app> <filter-mapping>	サーブレットフィルタマッピングを一覧表示します。 「追加...」ボタン/「編集...」ボタン/「削除」ボタンで、定義の追加/編集/削除ができます。 「フィルタリスト編集...」ボタンでフィルタの設定ができます。 [任意]

フィルタ名	<web-app> <filter-mapping> <filter-name>	「フィルタ設定ダイアログ」で設定したフィルタ名を表示します。 [必須]
ターゲット	<web-app> <filter-mapping> <url-pattern>/ <servlet-name>	「フィルタ設定ダイアログ」で設定したターゲットを表示します。 [必須]
ディスパッチャ	<web-app> <filter-mapping> <dispatcher>	「フィルタ設定ダイアログ」で設定したディスパッチャを表示します。 F:FORWARD R:REQUEST I:INCLUDE E:ERROR ?:不正値 [任意]
「追加...」ボタン	–	「フィルタ設定ダイアログ」を表示して、フィルタマッピングの情報を追加します。
「編集...」ボタン	–	「フィルタ設定ダイアログ」を表示して、選択行の情報を編集します。
「削除」ボタン	–	削除確認後、選択行の情報を削除します。
「上へ」ボタン	–	選択行を一行上へ移動します。
「下へ」ボタン	–	選択行を一行下へ移動します。
「フィルタリスト編集...」ボタン	–	「フィルタリスト編集ダイアログ」を表示します。

「フィルタ設定ダイアログ」

「フィルタマッピング」ページ の「追加...」ボタンまたは「編集...」ボタンをクリックすると、以下のような画面を表示します。

各項目の説明を以下に示します。

項目	要素	説明
フィルタ名	<web-app> <filter-mapping> <filter-name>	コンボボックスからフィルタ名を選択します。 コンボボックスでは、「フィルタリスト編集ダイアログ」で定義したフィルタ名が選択できます。 [必須]
ターゲット	<web-app> <filter-mapping> <url-pattern>/ <servlet-name>	「ターゲット設定ダイアログ」で設定したターゲットを表示します。 [必須]
ディスパッチャ	<web-app> <filter-mapping> <dispatcher>	フィルタの適用範囲を指定します。 FORWARD, REQUEST, INCLUDE, ERROR が指定できます。 [任意]
「OK」ボタン	–	設定内容を保存します。
「キャンセル」ボタン	–	設定内容を保存しないで、「フィルタマッピング」ページに戻ります。

「ターゲット設定ダイアログ」

「フィルタ設定ダイアログ」でターゲットの「追加...」ボタンまたは「編集...」ボタンをクリックすると、以下のような画面を表示します。



The dialog box is titled "ターゲット 設定ダイアログ" (Target Setting Dialog). It contains a "ターゲット" (Target) section with two radio buttons: "URLパターン(U)" (selected) and "サーブレット(S)" (unselected). The "URLパターン(U)" radio button is followed by a text input field containing "urlpatternA". The "サーブレット(S)" radio button is followed by a dropdown menu. Below this section is a table with two columns: "ロケーション" (Location) and "メッセージ" (Message). The table is currently empty. At the bottom of the dialog are two buttons: "OK" and "キャンセル" (Cancel).

各項目の説明を以下に示します。

項目	要素	説明
URL パターン	<web-app> <filter-mapping> <url-pattern>	フィルタを適用する URL パターンを設定します。 [URL パターンまたはサーブレットが必須]
サーブレット	<web-app> <filter-mapping> <servlet-name>	フィルタを適用するサーブレット名を設定します。コンボボックスでは、「サーブレット」ページで定義したサーブレット名が選択できます。 [URL パターンまたはサーブレットが必須]
「OK」ボタン	–	設定内容を保存します。
「キャンセル」ボタン	–	設定内容を保存しないで、「フィルタマッピング」ページに戻ります。





「フィルタリスト編集ダイアログ」

「フィルタマッピング」ページの「フィルタリスト編集...」ボタンをクリックすると、以下のような画面を表示します。

「フィルタリスト編集ダイアログ」では、<filter>要素が編集できます。


フィルタリスト編集ダイアログ

サブレットフィルタ

	フィルタクラス	フィルタ名	表示名	アイコン	説明
1	filterClass1	filterName1			
2	filterClass2	filterName2			

追加(A) 削除(D)

初期化パラメータ




	パラメータ	値	説明
1	initParam1	initValue1	


追加(Y) 削除(R)

ロケーション	メッセージ



OK キャンセル

各項目の説明を以下に示します。

項目	要素	説明
サブレットフィルタリスト	<web-app> <filter>	サブレットフィルタを一覧表示します。 「追加」ボタン/「削除」ボタンで、定義の追加/削除ができます。 [任意]
フィルタクラス	<web-app> <filter> <filter-class>	フィルタのクラス名を設定します。 [必須]
フィルタ名	<web-app> <filter> <filter-name>	フィルタ名を設定します。 [必須]
表示名	<web-app> <filter> <display-name>	フィルタの表示名を設定します。 [任意]
アイコン	<web-app> <filter> <icon>	アイコンを設定している場合は  、設定していない場合は  を表示します。 アイコンをクリックして、「アイコンダイアログ」を表示し、小さいアイコン、大きいアイコンを設定します。 [任意]
説明	<web-app>	説明を設定している場合は  、設定してい

	<filter> <description>	ない場合は  を表示します。 アイコンをクリックして、「説明ダイアログ」を表示し、フィルタの説明を設定します。 [任意]
「追加」ボタン	–	空の行をリストの最後に追加します。
「削除」ボタン	–	の削除確認後、選択行の情報を削除します。
「OK」ボタン	–	設定内容を保存します。
「キャンセル」ボタン	–	設定内容を保存しないで、「フィルタマッピング」ページに戻ります。

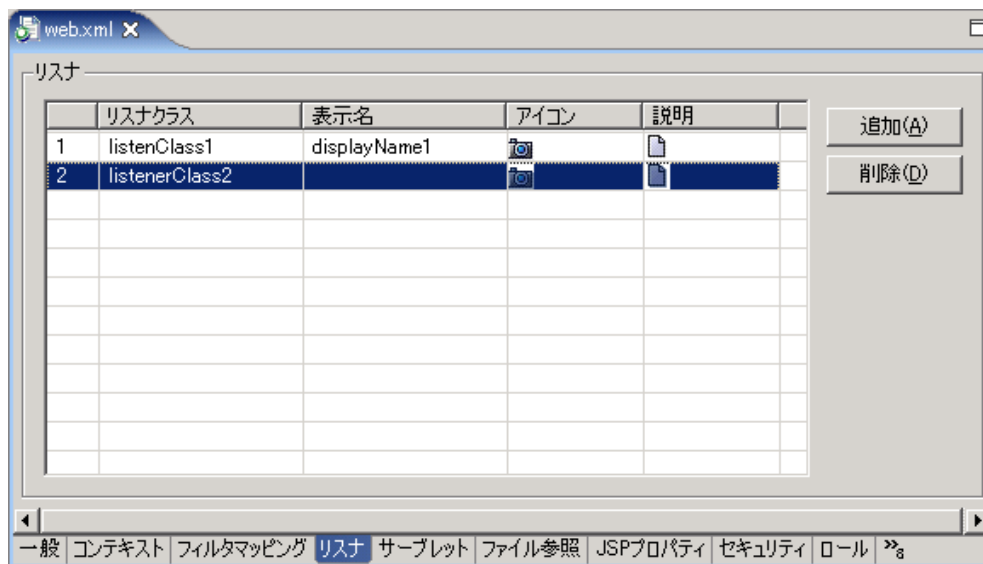
<初期化パラメータ>

項目	要素	説明
初期化パラメータリスト	<web-app> <filter> <init-param>	サブレットフィルタリストで選択したフィルタの初期化パラメータを一覧表示します。 「追加」ボタン/「削除」ボタンで、定義の追加/削除ができます。 [任意]
パラメータ	<web-app> <filter> <init-param> <param-name>	初期化パラメータ名を設定します。 [必須]
値	<web-app> <filter> <init-param> <param-value>	初期化パラメータの値を設定します。 [必須]
説明	<web-app> <filter> <init-param> <description>	説明を設定している場合は  、設定していない場合は  を表示します。 アイコンをクリックして、「説明ダイアログ」を表示し、初期化パラメータの説明を設定します。 [任意]
「追加」ボタン	–	空の行をリストの最後に追加します。
「削除」ボタン	–	削除確認後、選択行の情報を削除します。





「リスナ」ページ

web.xml エディタの「リスナ」ページをクリックすると、以下のような画面を表示します。

「リスナ」ページでは、<listener>要素が編集できます。



各項目の説明を以下に示します。

項目	要素	説明
リスナ	<web-app> <listener>	リスナを一覧表示します。 「追加」ボタン/「削除」ボタンで、定義の追加/削除ができます。 [任意]
リスナクラス	<web-app> <listener> <listener-class>	リスナのクラス名を設定します。 [必須]
表示名	<web-app> <listener> <display-name>	リスナの表示名を設定します。 [任意]
アイコン	<web-app> <listener> <icon>	アイコンを設定している場合は  、設定していない場合は  を表示します。 アイコンをクリックして、「アイコンダイアログ」を表示し、小さいアイコン、大きいアイコンを設定します。 [任意]
説明	<web-app> <listener> <description>	説明を設定している場合は  、設定していない場合は  を表示します。 アイコンをクリックして、「説明ダイアログ」を表示し、リスナの説明を設定します。 [任意]
「追加」ボタン	-	空の行をリストの最後に追加します。

「削除」ボタン	-	削除確認後、選択行の情報を削除します。
---------	---	---------------------



「サーブレット」ページ

web.xml エディタの「サーブレット」ページをクリックすると、以下のような画面を表示します。
「サーブレット」ページでは、<servlet>要素が編集できます。

The screenshot shows the 'Servlet' configuration page in the web.xml editor. It includes a table for listing servlets, tabs for 'Initialization Parameters', 'Security', and 'URL', and input fields for 'Principal name' and 'Class name'. The 'Servlet' tab is currently selected.

各項目の説明を以下に示します。


項目	要素	説明
サーブレットリスト	<web-app> <servlet>	サーブレットを一覧表示します。 「追加...」ボタン/「編集...」ボタン/「削除」ボタンで、定義の追加/編集/削除ができます。 [任意]
サーブレット名	<web-app> <servlet> <servlet-name>	「サーブレット設定ダイアログ」で設定したサーブレット名を表示します。 [必須] ※「サーブレット」ページのURLパターン (servlet-mapping/servlet-name)、「フィルタマッピング」ページ (filter-mapping/servlet-name) で使用しているサーブレット名を、変更、削除することはできません。
ターゲット	<web-app> <servlet>	「サーブレット設定ダイアログ」で設定したターゲット (サーブレットクラス名または JSP フ

	<servlet-class>/ <jsp-file>	アイル)を表示します。 [必須]
説明	<web-app> <servlet> <description>	説明を設定している場合は  、設定していない場合は  を表示します。 アイコンをクリックすると、「サーブレット設定ダイアログ」で設定した説明を表示します。 [任意]
「追加...」ボタン	–	「サーブレット設定ダイアログ」を表示して、サーブレットの情報を追加します。
「編集...」ボタン	–	「サーブレット設定ダイアログ」を表示して、選択行の情報を編集します。
「削除」ボタン	–	削除確認後、選択行の情報を削除します。

※サーブレットリストで行を選択すると、選択したサーブレットの初期化パラメータ、セキュリティ、URL、WebOTX 固有の設定が編集できます。

初期化パラメータ

初期化パラメータ(P) | セキュリティ(C) | URL(U)



	パラメータ	値	説明
1	initParam1	initValue1	

追加(A)

削除(R)

各項目の説明を以下に示します。



項目	要素	説明
初期化パラメータリスト	<web-app> <servlet> <init-param>	サーブレットリストで選択したサーブレットの初期化パラメータを一覧表示します。サーブレットを選択しないと編集できません。 「追加」ボタン/「削除」ボタンで、定義の追加/削除ができます。 [任意]
パラメータ	<web-app> <servlet> <init-param> <param-name>	初期化パラメータ名を設定します。 [必須]
値	<web-app> <servlet> <init-param>	初期化パラメータの値を設定します。 [必須]

	<param-value>	
説明	<web-app> <servlet> <init-param> <description>	説明を設定している場合は  、設定していない場合は  を表示します。アイコンをクリックして、「説明ダイアログ」を表示し、初期化パラメータの説明を設定します。 [任意]
「追加」ボタン	–	空の行をリストの最後に追加します。
「削除」ボタン	–	削除確認後、選択行の情報を削除します。

セキュリティ

初期化パラメータ(P) セキュリティ(C) URL(U)

実行タイプ(T) 説明(S)...

	ロール名	ロールリンク	説明
1	myRole1	roleName1	
2	myRole2	roleName2	



各項目の説明を以下に示します。

実行タイプ

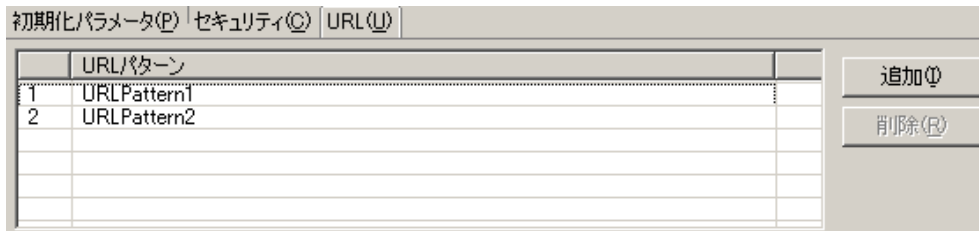
項目	要素	説明
実行タイプ	<web-app> <servlet> <run-as> <role-name>	サブレットリストで選択したサブレットに対して、「ロール」ページで定義したセキュリティロール名のリストから、使用するロールを選択します。サブレットを選択しないと編集できません。 [任意] ※ロールを選択しない場合は、<run-as>要素が未定義として扱います。そのため、設定済みの説明があっても、<run-as>要素を削除します。
「説明...」ボタン	<web-app> <servlet> <run-as> <description>	「説明...」ボタンをクリックして、「説明ダイアログ」を表示し、実行タイプの説明を設定します。「実行タイプ」を設定した場合のみ有効です。 [任意]

ロール参照リスト

項目	要素	説明
ロール参照リスト	<web-app>	サブレットリストで選択したサブレットに

	<servlet> <security-role-ref>	対して、Web アプリケーション内で使用する ロール参照名と、「ロール」ページで定義した セキュリティロール名をマッピングします。サ ーブレットを選択しないと編集できません。 「追加」ボタン/「削除」ボタンで、定義の追加 /削除ができます。 [任意]
ロール名	<web-app> <servlet> <security-role-ref> <role-name>	Web アプリケーション内で使用するロール参 照名を設定します。 [必須]
ロールリンク	<web-app> <servlet> <security-role-ref> <role-link>	ロール名で設定したロール参照名で参照す るロールを、「ロール」ページで定義したセキ ュリティロール名のリストから選択します。 [任意]
説明	<web-app> <servlet> <security-role-ref> <description>	説明を設定している場合は  、設定してい ない場合は  を表示します。 アイコンをクリックして、「説明ダイアログ」を 表示し、ロール参照の説明を設定します。 [任意]
「追加」ボタン	–	空の行をリストの最後に追加します。
「削除」ボタン	–	削除確認後、選択行の情報を削除します。

URL



各項目の説明を以下に示します。

項目	要素	説明
URL パターンリスト	<web-app> <servlet-mapping>	サーブレットリストで選択したサーブレットに マッピングする URL パターンを設定します。 サーブレットを選択しないと編集できませ

		ん。 「追加」ボタン/「削除」ボタンで、定義の追加/削除ができます。 [任意]
URL パターン	<web-app> <servlet-mapping> <url-pattern>	マッピングする URL パターンを設定します。 [必須]
「追加」ボタン	–	空の行をリストの最後に追加します。
「削除」ボタン	–	削除確認後、選択行の情報を削除します。

WebOTX 固有の設定

各項目の説明を以下に示します。

項目	要素	説明
Principal 名	<nec-web-app> <servlet> <principal-name>	サーブレットリストで選択したサーブレットに対して、「Principal 名」を設定します。サーブレットを選択しないと編集できません。 [任意]
クラス名	<nec-web-app> <servlet> <principal-name> の class-name 属性	サーブレットリストで選択したサーブレットに対して、「クラス名」を設定します。サーブレットを選択しないと編集できません。 [任意]

「サーブレット設定ダイアログ」

「サーブレット」ページの「追加...」ボタンまたは「編集...」ボタンをクリックすると、以下のような画面を表示します。

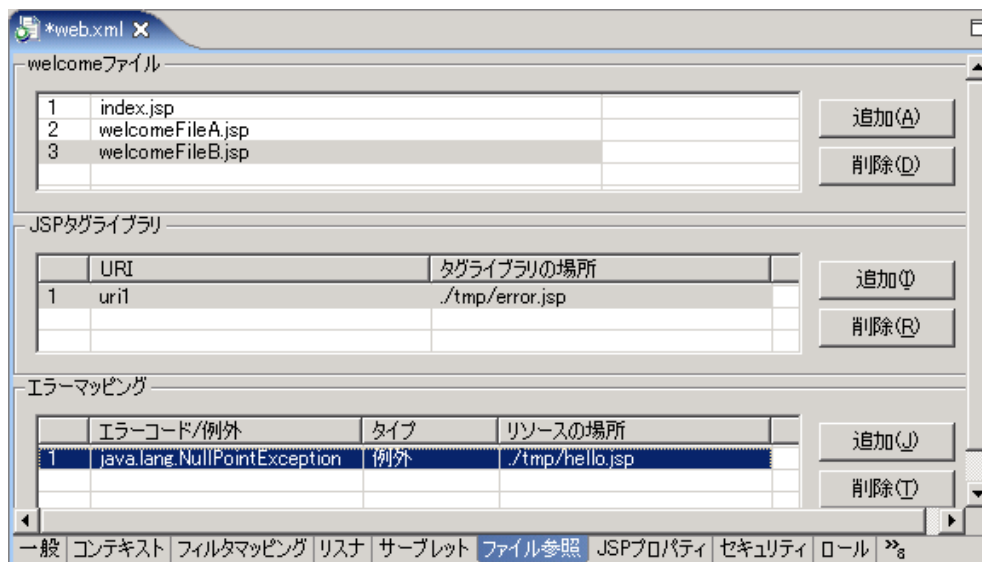


各項目の説明を以下に示します。

項目	要素	説明
サーブレット	<web-app> <servlet> <servlet-class>	サーブレットを選択した場合は、Web アプリケーション内のサーブレットのクラス名を設定します。 [サーブレットまたは JSP が必須]
JSP	<web-app> <servlet> <jsp-file>	JSP を選択した場合は、Web アプリケーション内の JSP へのパスを設定します。パスは"/"で始まります。 [サーブレットまたは JSP が必須]
サーブレット名	<web-app> <servlet> <servlet-name>	サーブレット名を設定します。 ※「サーブレット」ページの URL パターン (servlet-mapping/servlet-name)、または「フィルタマッピング」ページ (filter-mapping/servlet-name)で使用しているサーブレット名を、変更、削除することはできません。 [必須]
表示名	<web-app> <servlet> <display-name>	サーブレットの表示名を設定します。 [任意]
ロード順	<web-app> <servlet> <load-on-startup>	サーブレットのロード順を“”と整数値で設定します。 [任意]
「アイコン...」ボタン	<web-app> <servlet> <icon>	「アイコン...」ボタンをクリックして、「アイコンダイアログ」を表示し、小さいアイコン、大きいアイコンを設定します。
「説明...」ボタン	<web-app> <servlet> <description>	「説明...」ボタンをクリックして、「説明ダイアログ」を表示し、サーブレットの説明を設定します。 [任意]
「OK」ボタン	–	設定内容を保存します。
「キャンセル」ボタン	–	設定内容を保存しないで、「サーブレット」ページに戻ります。

「ファイル参照」ページ

web.xml エディタの「ファイル参照」ページをクリックすると、以下のような画面を表示します。
「ファイル参照」ページでは、<welcome-file-list>要素、<taglib>要素、<error-page>要素が編集できます。



各項目の説明を以下に示します。

welcome ファイル

項目	要素	説明
welcome ファイルリスト	<web-app> <welcome-file-list>	デフォルト Welcome ファイルとして使用するファイル名を一覧表示します。 「追加」ボタン/「削除」ボタンで、定義の追加/削除ができます。 [任意] ※<welcome-file-list>要素が複数あっても、それぞれの<welcome-file>要素をまとめて表示します。
welcome ファイル	<web-app> <welcome-file-list> <welcome-file>	デフォルト Welcome ファイルとして使用するファイル名を指定します。 [必須]
「追加」ボタン	–	空の行をリストの最後に追加します。
「削除」ボタン	–	削除確認後、選択行の情報を削除します。

JSP タグライブラリ

※ <jsp-config>要素が複数あると、「標準 D.D」ページしか開けません。「標準 D.D」ページで 1 つに修正してください。

項目	要素	説明
JSP タグライブラリリスト	<web-app> <jsp-config>	JSP タグライブラリを一覧表示します。 「追加」ボタン/「削除」ボタンで、定義の追加

	<taglib>	/削除ができます。 [任意]
URI	<web-app> <jsp-config> <taglib> <taglib-uri>	Web アプリケーション内のタグライブラリを特定する URI を設定します。 [必須]
タグライブラリの場所	<web-app> <jsp-config> <taglib> <taglib-location>	タグライブラリ記述ファイルの場所を Web アプリケーションのルートからの相対で設定します。 [必須]
「追加」ボタン	–	空の行をリストの最後に追加します。
「削除」ボタン	–	削除確認後、選択行の情報を削除します

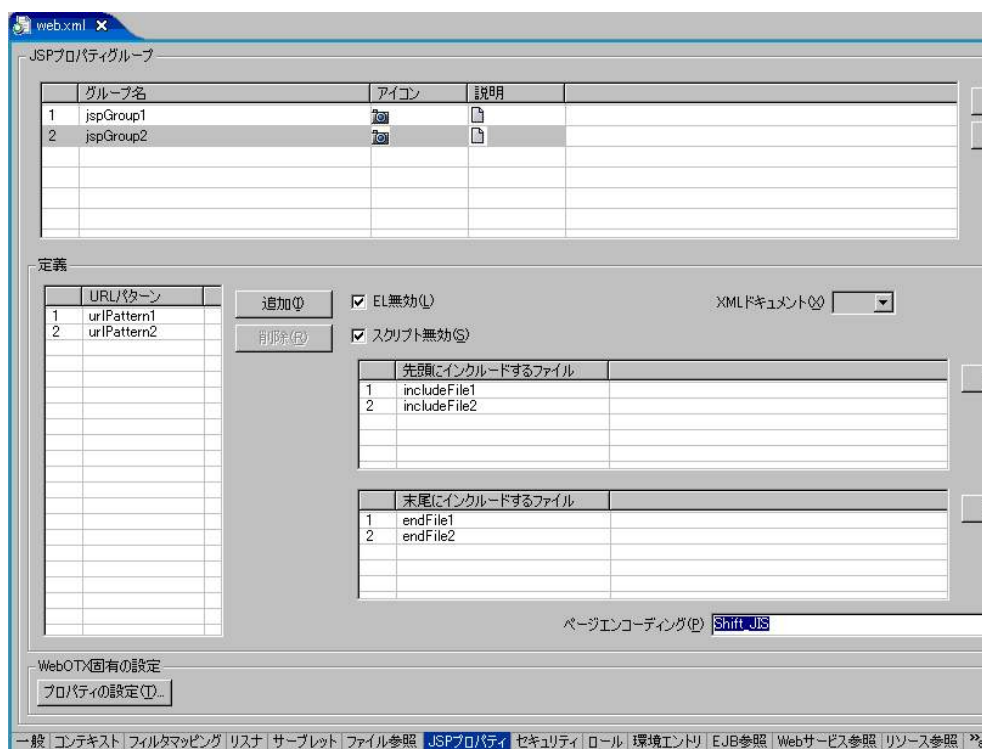
エラーマッピング

項目	要素	説明
エラーマッピングリスト	<web-app> <error-page>	エラーマッピングを一覧表示します。 「追加」ボタン/「削除」ボタンで、定義の追加/削除ができます。 [任意]
エラーコード/例外	<web-app> <error-page> <error-code>/ <exception-type>	エラーコードまたは例外の型を設定します。 [必須] ※エラーコードを設定する場合は、タイプで「エラーコード」を選択し、例外の型を設定する場合は、タイプで「例外」を選択してください。
タイプ	–	「エラーコード」または「例外」を選択します。
リソースの場所	<web-app> <error-page> <location>	Web アプリケーションのルートからの相対で Web アプリケーション内のリソースの場所を設定します。 [必須] ※先頭は“/”で始まらなければなりません。
「追加」ボタン	–	空の行をリストの最後に追加します。
「削除」ボタン	–	削除確認後、選択行の情報を削除します。

「JSP プロパティ」ページ





web.xml エディタの「JSP プロパティ」ページをクリックすると、以下のような画面を表示します。

「JSP プロパティ」ページでは、web.xml の<jsp-property-group>要素と nec-web.xml の<jsp-config>要素が編集できます。



各項目の説明を以下に示します。

※ <jsp-config>要素が複数あると、「標準 D.D」ページしか開けません。「標準 D.D」ページで 1 つに修正してください。

項目	要素	説明
JSP プロパティグループ リスト	<web-app> <jsp-config> <jsp-property-group>	JSP プロパティグループを一覧表示します。 「追加」ボタン/「削除」ボタンで、定義の追加/削除ができます。 [任意]
グループ名	<web-app> <jsp-config> <jsp-property-group> <display-name>	グループ名を設定します。 [任意]
アイコン	<web-app> <jsp-config> <jsp-property-group> <icon>	アイコンを設定している場合は  、設定していない場合は  を表示します。 アイコンをクリックして、「アイコンダイアログ」を表示し、小さいアイコン、大きいアイコンを設定します。 [任意]
説明	<web-app> <jsp-config> <jsp-property-group>	説明を設定している場合は  、設定していない場合は  を表示します。 アイコンをクリックして、「説明ダイアログ」を

	<description>	表示し、JSP プロパティグループの説明を設定します。 [任意]
「追加」ボタン	–	空の行をリストの最後に追加します。
「削除」ボタン	–	削除確認後、選択行の情報を削除します

※JSP プロパティグループリストで行を選択すると、選択した JSP プロパティグループの「定義/URL パターン」と「定義/その他」が編集できます。

定義/URL パターン

項目	要素	説明
URL パターン	<web-app> <jsp-config> <jsp-property-group> <url-pattern>	JSP プロパティグループリストで選択した JSP プロパティグループに含む JSP の URL パターンを一覧表示します。JSP プロパティグループを選択しないと編集できません。 「追加」ボタン/「削除」ボタンで、定義の追加/削除ができます。 [必須]
「追加」ボタン	–	空の行をリストの最後に追加します。
「削除」ボタン	–	削除確認後、選択行の情報を削除します。

定義/その他

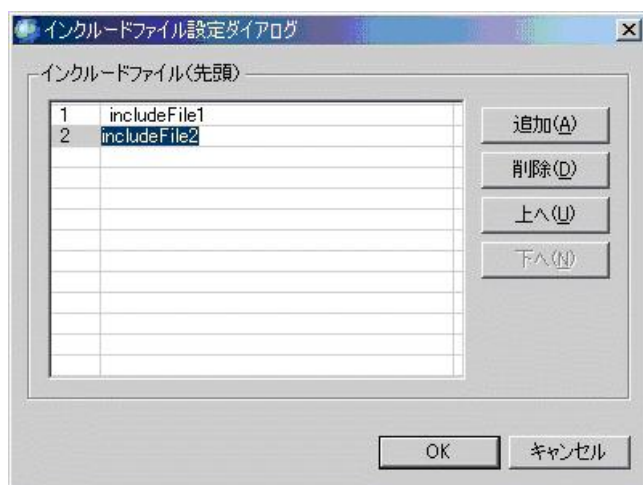
JSP プロパティグループリストで選択した JSP プロパティグループに設定するプロパティです。JSP プロパティグループを選択しないと編集できません。

項目	要素	説明
EL 無効	<web-app> <jsp-config> <jsp-property-group> <el-ignored>	EL を無効にするかどうか指定します。 チェック状態: EL が無効(true) 未チェック状態: EL が有効(false) [任意]
スクリプト無効	<web-app> <jsp-config> <jsp-property-group> <scripting-invalid>	スクリプトを無効にするかどうか指定します。 チェック状態: スクリプトが無効(true) 未チェック状態: スクリプトが有効(false) [任意]
XML ドキュメント	<web-app> <jsp-config>	URL パターンに一致するリソースが、XML ドキュメントかどうか指定します。 値なし: 指定しない(<is-xml>要素なし)

	<jsp-property-group> <is-xml>	true : XML ドキュメントである false : XML ドキュメントでない [任意]
先頭にインクルードする ファイル	<web-app> <jsp-config> <jsp-property-group> <include-prelude>	「インクルードファイル設定ダイアログ」で設定した、先頭にインクルードするファイルを一覧表示します。 [任意]
末尾にインクルードする ファイル	<web-app> <jsp-config> <jsp-property-group> <include-coda>	「インクルードファイル設定ダイアログ」で設定した、末尾にインクルードするファイルを一覧表示します。 [任意]
「編集...」ボタン	–	「インクルードファイル設定ダイアログ」を表示して、先頭または末尾にインクルードするファイルを設定します。
ページエンコーディング	<web-app> <jsp-config> <jsp-property-group> <page-encoding>	ページエンコーディングの文字コードを設定します。 [任意]

「インクルードファイル設定ダイアログ」

「JSP プロパティ」ページの「編集...」ボタンをクリックすると、以下のような画面を表示します。



各項目の説明を以下に示します。

項目	要素	説明
----	----	----

インクルードファイル	<web-app> <jsp-config> <jsp-property-group> <include-prelude>/ <include-coda>	JSP プロパティグループリストで選択した JSP プロパティグループの JSP の先頭または末尾に自動的にインクルードするファイルを一覧表示します。 「追加」ボタン/「削除」ボタンで、定義の追加/削除ができます。 [任意]
「追加」ボタン	–	空の行をリストの最後に追加します。
「削除」ボタン	–	削除確認後、選択行の情報を削除します。
「上へ」ボタン	–	選択行を一行上へ移動します。
「下へ」ボタン	–	選択行を一行下へ移動します。
「OK」ボタン	–	設定内容を保存します。
「キャンセル」ボタン	–	設定内容を保存しないで、「JSP プロパティ」ページに戻ります。

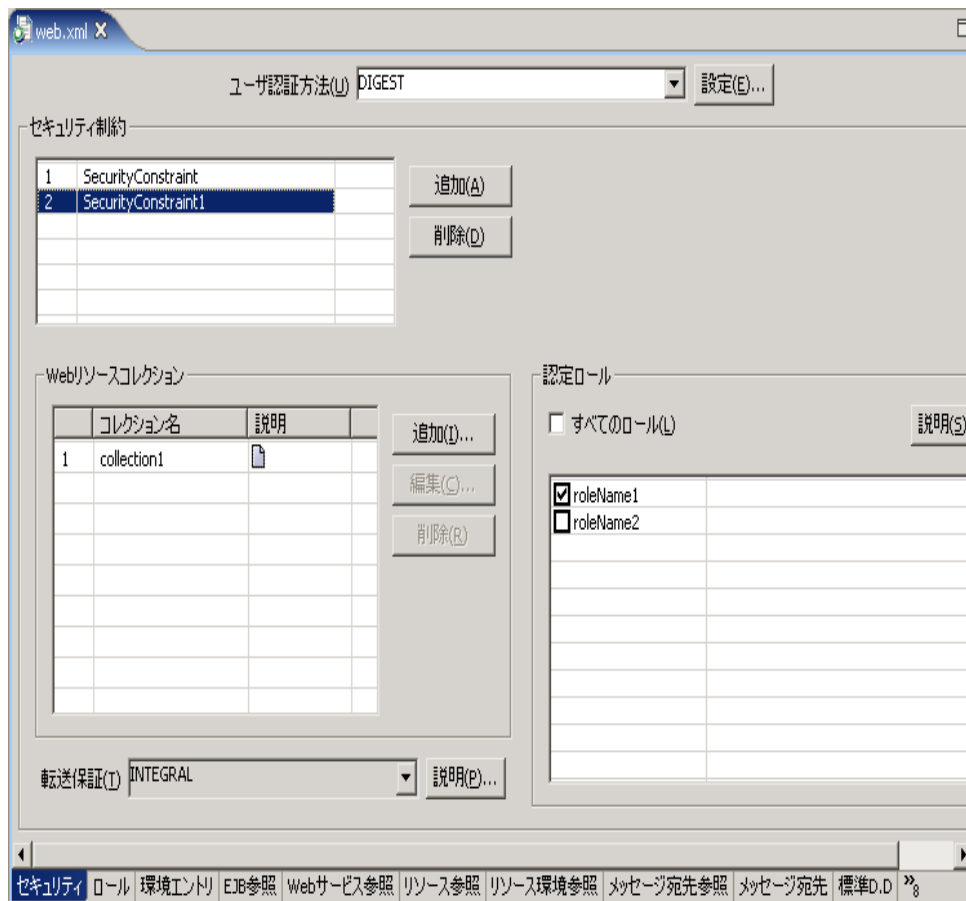
WebOTX 固有の設定

nec-web.xml の<jsp-config>要素を編集します。各項目の説明を以下に示します。

項目	要素	説明
「プロパティの設定…」ボタン	<nec-web-app> <jsp-config> <property>	「プロパティの設定」ダイアログを表示し、JSP を事前コンパイルするとき、または precompilejsp オプションを指定してアプリケーションを配備するときに使用する JSP の設定情報を設定します。 [任意]

「セキュリティ」ページ

web.xml エディタの「セキュリティ」ページをクリックすると、以下のような画面を表示します。
 「セキュリティ」ページでは、<login-config>要素と<security-constraint>要素が編集できます。



各項目の説明を以下に示します。

ユーザ認証方法

項目	要素	説明
ユーザ認証方法	<web-app> <login-config> <auth-method>	使用する認証方法を設定します。 [任意] ※<login-config>要素が複数あると、「標準D.D」ページしか開けません。「標準D.D」ページで1つに修正してください。
「設定...」ボタン	—	「設定..」ボタンをクリックすると、「ユーザ認証設定ダイアログ」を表示します。「ユーザ認証方法」を設定した場合のみ有効です。



セキュリティ制約

項目	要素	説明
セキュリティ制約リスト	<web-app> <security-constraint>	セキュリティ制約を一覧表示します。 「追加」ボタン/「削除」ボタンで、定義の追加/削除ができます。 [任意]
セキュリティ制約	<web-app>	セキュリティ制約の表示名を設定します。

	<security-constraint> <display-name>	[任意]
「追加」ボタン	–	既存の値と重複しないセキュリティ制約の表示名 (SecurityConstraintX) をリストの最後に追加します。
「削除」ボタン	–	削除確認後、選択行の情報を削除します。

※ セキュリティ制約リストで行を選択すると、選択したセキュリティ制約の Web リソースコレクション、認定ロール、転送保証が編集できます。

Web リソースコレクション

項目	要素	説明
Web リソースコレクションリスト	<web-app> <security-constraint> <web-resource-collection>	セキュリティ制約リストで選択したセキュリティ制約を適用する Web リソースコレクションを一覧表示します。セキュリティ制約を選択しないと編集できません。 「追加...」ボタン/「編集...」ボタン/「削除」ボタンで、定義の追加/編集/削除ができます。 [必須]
コレクション名	<web-app> <security-constraint> <web-resource-collection> <web-resource-name>	「Web リソースコレクション編集ダイアログ」で設定した Web リソースコレクションの名前を表示します。 [必須]
説明	<web-app> <security-constraint> <web-resource-collection> <description>	説明を設定している場合は  、設定していない場合は  を表示します。 アイコンをクリックすると、「Web リソースコレクション編集ダイアログ」で設定した説明を表示します。 [任意]
「追加...」ボタン	–	「Web リソースコレクション編集ダイアログ」を表示して、Web リソースコレクションの情報を追加します。
「編集...」ボタン	–	「Web リソースコレクション編集ダイアログ」を

		表示して、選択行の情報を編集します。
「削除」ボタン	–	削除確認後、選択行の情報を削除します。

認定ロール

セキュリティ制約リストで選択したセキュリティ制約を適用する Web リソースコレクションへのアクセスを許可するロールです。セキュリティ制約を選択しないと指定できません。

項目	要素	説明
すべてのロール	<web-app> <security-constraint> <auth-constraint> <role-name>	「ロール」ページで定義したセキュリティロールすべてに、Web リソースコレクションへのアクセスを許可する場合にチェックします。 [任意]
ロールの一覧	<web-app> <security-constraint> <auth-constraint> <role-name>	「ロール」ページで定義したセキュリティロールの一覧から、Web リソースコレクションへのアクセスを許可するロールを選択します。 「すべてのロール」をチェックしない場合のみ有効です。 チェック状態: アクセスを許可する 未チェック状態: アクセスを許可しない [任意]
「説明...」ボタン	<web-app> <security-constraint> <auth-constraint> <description>	「説明...」ボタンをクリックして、「説明ダイアログ」を表示し、認定ロールの説明を設定します。 [任意]

転送保証

項目	要素	説明
転送保証	<web-app> <security-constraint> <user-data-constraint> <transport-guarantee>	セキュリティ制約リストで選択したセキュリティ制約に対して、通信データの保証レベルを設定します。セキュリティ制約を選択しないと編集できません。 [任意] ※転送保証を設定しない場合は、<user-data-constraint>要素が未定義として扱います。そのため、設定済みの説明があっても、<user-data-constraint>要素を削除

		します。
「説明...」ボタン	<web-app> <security-constraint> <user-data-constraint> <description>	「説明...」ボタンをクリックして、「説明ダイアログ」を表示し、転送保証の説明を設定します。「転送保証」を設定した場合のみ有効です。 [任意]

「ユーザ認証設定ダイアログ」

「セキュリティ」ページの「設定...」ボタンをクリックすると、以下のような画面を表示します。



各項目の説明を以下に示します。

項目	要素	説明
レルム名	<web-app> <login-config> <realm-name>	使用するレルム名を設定します。 [任意]
ログインページ	<web-app> <login-config> <form-login-config> <form-login-page>	ログインに使用するページの場所を設定します。「ユーザ認証方法」で「FORM」を選択した場合のみ有効です。 [必須] ※先頭は"/"で始まらなければなりません。
エラーページ	<web-app> <login-config> <form-login-config> <form-error-page>	ログイン失敗時に表示するエラーページの場所を設定します。「ユーザ認証方法」で「FORM」を選択した場合のみ有効です。 [必須] ※先頭は"/"で始まらなければなりません。
「OK」ボタン	–	設定内容を保存します。
「キャンセル」ボタン	–	設定内容を保存しないで、「セキュリティ」ペ

		ージに戻ります。
--	--	----------

「Web リソースコレクション編集ダイアログ」

「セキュリティ」ページ の「編集...」ボタンをクリックすると、以下のような画面を表示します。

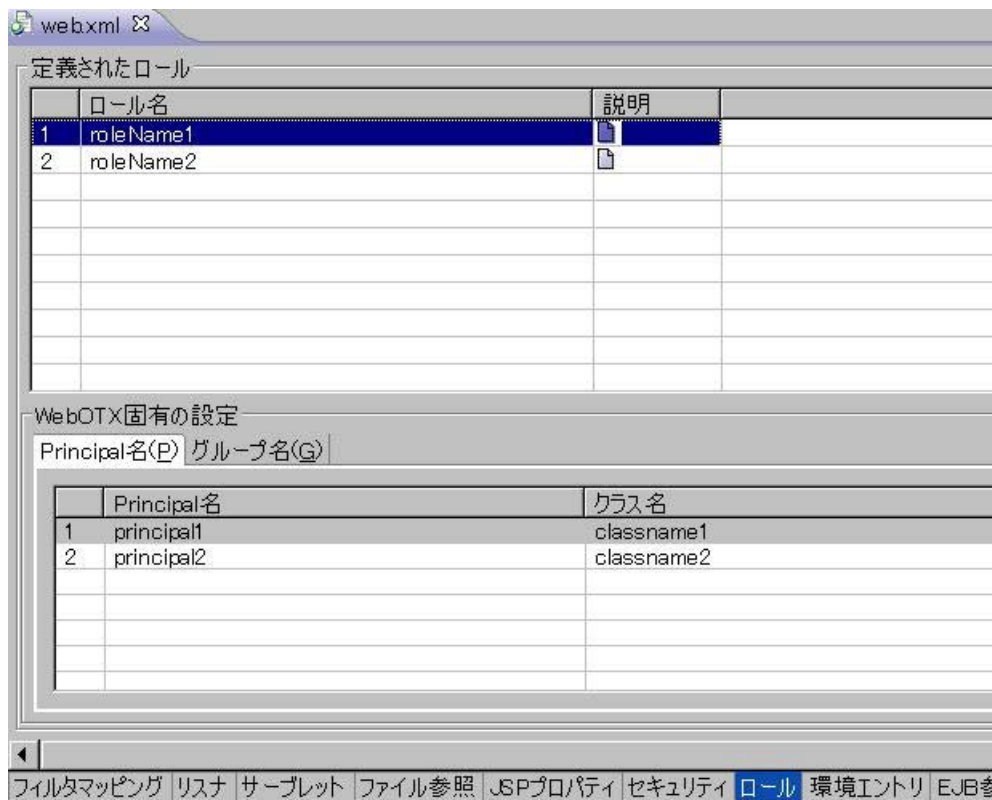
各項目の説明を以下に示します。

項目	要素	説明
コレクション名	<web-app>	Web リソースコレクションの名前を設定します。
	<security-constraint>	[必須]
	<web-resource-collection>	
	<web-resource-name>	
「説明...」ボタン	<web-app>	「説明...」ボタンをクリックして、「説明ダイアログ」を表示し、Web リソースコレクションの説明を設定します。
	<security-constraint>	[任意]
	<web-resource-collection>	
	<description>	
URL パターンリスト	<web-app>	セキュリティ制約を適用するリソースの URL パターンを設定します。



	<security-constraint> <web-resource-collection> <url-pattern>	「追加」ボタン/「削除」ボタンで、定義の追加/削除ができます。 [必須]
「追加」ボタン	–	空の行をリストの最後に追加します。
「削除」ボタン	–	削除確認後、選択行の情報を削除します。
HTTP メソッド	<web-app> <security-constraint> <web-resource-collection> <http-method>	セキュリティ制約を適用する HTTP メソッドを設定します。 [任意]
「OK」ボタン	–	設定内容を保存します。
「キャンセル」ボタン	–	設定内容を保存しないで、「セキュリティ」ページに戻ります。

「ロール」ページ

web.xml エディタの「ロール」ページをクリックすると、以下のような画面を表示します。
「ロール」ページでは、<security-role>要素が編集できます。



各項目の説明を以下に示します。

項目	要素	説明
定義されたロールリスト	<web-app> <security-role>	セキュリティロールを一覧表示します。 「追加」ボタン/「削除」ボタンで、定義の追加/削除ができます。 [任意]
ロール名	<web-app> <security-role> <role-name>	セキュリティロール名を設定します。 [必須] ※「セキュリティ」ページ(servlet/run-as)、あるいは「サーブレット」ページ(servlet/security-role-ref/role-name)で使用するセキュリティロール名を、変更、削除することはできません。
説明	<web-app> <security-role> <description>	説明を設定している場合は  、設定していない場合は  を表示します。 アイコンをクリックして、「説明ダイアログ」を表示し、セキュリティロールの説明を設定します。 [任意]
「追加」ボタン	–	空の行をリストの最後に追加します。
「削除」ボタン	–	削除確認後、選択行の情報を削除します。

※定義されたロールリストで行を選択すると、選択したロールの WebOTX 固有の設定が編集できます。

WebOTX 固有の設定

各項目の説明を以下に示します。

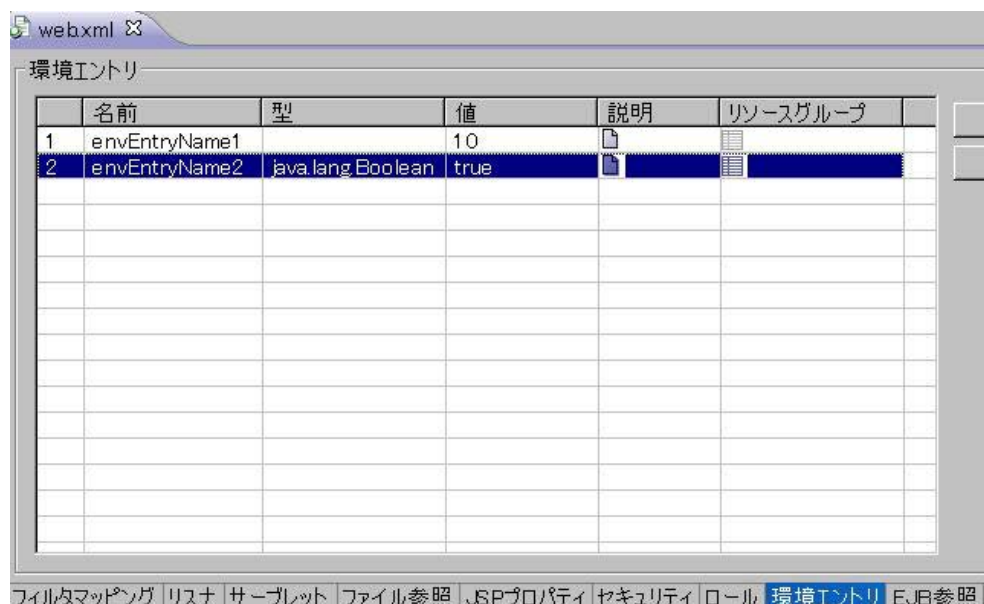
項目	要素	説明
Principal 名	<nec-web-app> <security-role-mapping> > <principal-name>	定義されたロールリストで選択したロールを割り当てるユーザ名を設定します。ロールを選択しないと編集できません。 [任意]
クラス名	<nec-web-app> <security-role-mapping> <principal-name> の class-name 属性	定義されたロールリストで選択したロールを割り当てるユーザ名のクラス名属性を設定します。ロールを選択しないと編集できません。 [任意]
グループ名	<nec-web-app> <security-role-mapping>	定義されたロールリストで選択したロールを割り当てるグループ名を設定します。ロール

	<group-name>	を選択しないと編集できません。 [任意]
「追加」ボタン	-	空の行をリストの最後に追加します。
「削除」ボタン	-	削除確認後、選択行の情報を削除します。

「環境エントリ」ページ





web.xml エディタの「環境エントリ」ページをクリックすると、以下のような画面を表示します。

「環境エントリ」ページでは、<env-entry>要素が編集できます。



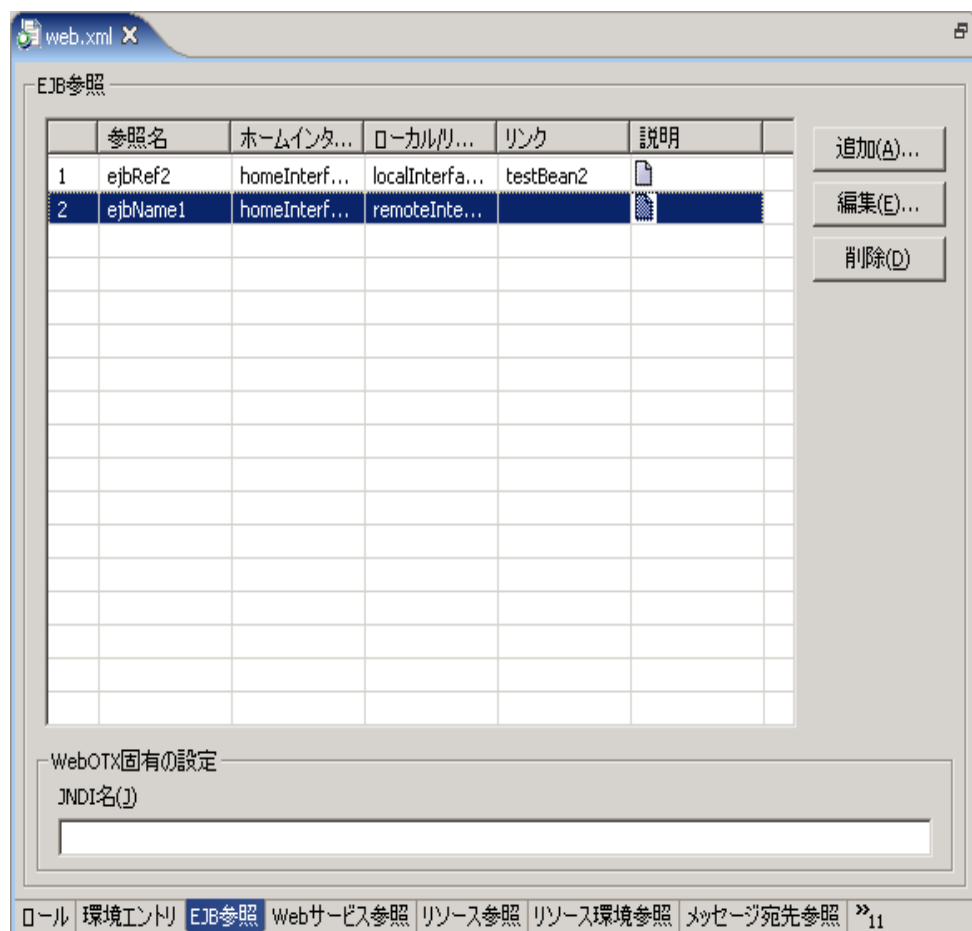
各項目の説明を以下に示します。

項目	要素	説明
環境エントリリスト	<web-app> <env-entry>	環境エントリを一覧表示します。 「追加」ボタン/「削除」ボタンで、定義の追加/削除ができます。 [任意]
名前	<web-app> <env-entry> <env-entry-name>	Web アプリケーションの環境エントリ名を設定します。JNDI 名です。 [必須]
型	<web-app> <env-entry> <env-entry-type>	環境エントリ値の型を以下から選択します。 “ ” java.lang.Boolean java.lang.Byte java.lang.Character java.lang.String

		java.lang.Short java.lang.Integer java.lang.Long java.lang.Float java.lang.Double [任意]
値	<web-app> <env-entry> <env-entry-value>	環境エン트리値を設定します。選択した型として適当な値でなければなりません。型で Boolean を選択した場合は、true か false を選択します。 [任意]
説明	<web-app> <env-entry> <description>	説明を設定している場合は  、設定していない場合は  を表示します。 アイコンをクリックして、「説明ダイアログ」を表示し、環境エントリの説明を設定します。 [任意]
リソースグループ	<web-app> <env-entry> <mapped-name> </mapped-name> <injection-target> </injection-target>	リソースグループを設定している場合は  、設定していない場合は  を表示します。 アイコンをクリックして、「リソースグループダイアログ」を表示し、環境エントリのリソースグループを設定します。 [任意]
「追加」ボタン	–	空の行をリストの最後に追加します。
「削除」ボタン	–	削除確認後、選択行の情報を削除します。



「EJB 参照」ページ

web.xml エディタの「EJB 参照」ページをクリックすると、以下のような画面を表示します。
 「EJB 参照」ページでは、<ejb-ref>要素が編集できます。



各項目の説明を以下に示します。

項目	要素	説明
EJB 参照リスト	<code><web-app></code> <code><ejb-ref>/</code> <code><ejb-local-ref></code>	EJB 参照を一覧表示します。 「追加...」ボタン/「編集...」ボタン/「削除」ボタンで、定義の追加/編集/削除ができます。 [任意]
参照名	<code><web-app></code> <code><ejb-ref>/</code> <code><ejb-local-ref></code> <code><ejb-ref-name></code>	「EJB 参照設定ダイアログ」で設定した参照名を表示します。 [必須]
ホームインタフェース	<code><web-app></code> <code><ejb-ref></code> <code><home>/</code> <code><ejb-local-ref></code> <code><local-home></code>	「EJB 参照設定ダイアログ」で設定したホームインタフェースを表示します。 [任意]
ローカル/リモートインタフェース	<code><web-app></code> <code><ejb-ref></code> <code><remote>/</code>	「EJB 参照設定ダイアログ」で設定したローカル/リモートインタフェースを表示します。 [任意]

	<ejb-local-ref> <local>	
リンク	<web-app> <ejb-ref>/ <ejb-local-ref> <ejb-link>	「EJB 参照設定ダイアログ」で設定したターゲット EJB を表示します。 [任意]
説明	<web-app> <ejb-ref>/ <ejb-local-ref> <description>	説明を設定している場合は  、設定していない場合は  を表示します。 アイコンをクリックすると、「EJB 参照設定ダイアログ」で設定した説明を表示します。 [任意]
「追加...」ボタン	–	「EJB 参照設定ダイアログ」を表示して、EJB 参照の情報を追加します。
「編集...」ボタン	–	「EJB 参照設定ダイアログ」を表示して、選択行の情報を編集します。
「削除」ボタン	–	削除確認後、選択行の情報を削除します。

※EJB 参照リストで行を選択すると、選択した EJB 参照の **WebOTX 固有の設定**が編集できます。

WebOTX 固有の設定

各項目の説明を以下に示します。

項目	要素	説明
JNDI 名	<nec-web-app> <ejb-ref> <jndi-name>	EJB 参照リストで選択した EJB 参照に割り当てるリソースの JNDI 名を設定します。EJB 参照を選択しないと編集できません。 [任意]

「EJB 参照設定ダイアログ」

「EJB 参照」ページの「追加...」ボタンまたは「編集...」ボタンをクリックすると、以下のような画面を表示します。



The dialog box is titled "EJB参照設定ダイアログ". It contains several sections:

- 参照 (Reference):**
 - 参照名(R):
 - タイプ(T):
 - インタフェース(I):
 - ホームインタフェース(H):
 - ローカル/リモートインタフェース(L):
 - 説明(S)... button
- ターゲット EJB (Target EJB):**
 - エンタプライズ Bean(E):
- リソースグループ (Resource Group):**
 - リソースグループ(G)... button
- メッセージ (Messages):**

ロケーション (Location)	メッセージ (Message)
- Buttons:** OK, キャンセル (Cancel)

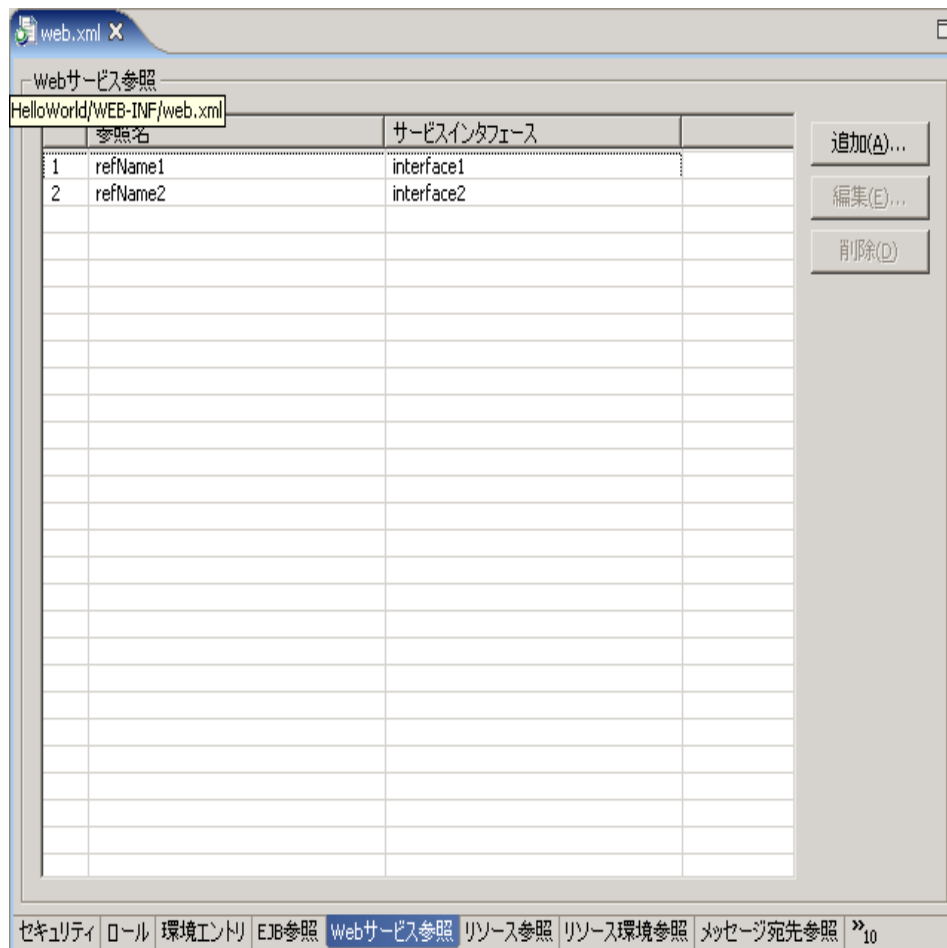
各項目の説明を以下に示します。

項目	要素	説明
参照名	<web-app> <ejb-ref>/ <ejb-local-ref> <ejb-ref-name>	Web アプリケーションのコードで使う EJB 参照名を設定します。 [必須]
タイプ	<web-app> <ejb-ref>/ <ejb-local-ref> <ejb-ref-type>	参照するエンタプライズ Bean のタイプを以下から選択します。 Entity Session [任意]
インタフェース	-	ローカルかリモートか指定します。Local を指定すると、<ejb-local-ref>、Remote を指定すると、<ejb-ref>になります。 [必須]
ホームインタフェース	<web-app> <ejb-ref> <home>/ <ejb-local-ref>	参照するエンタプライズ Bean のホームインタフェースを設定します。 [任意]

	<local-home>	
ローカル/リモートインタフェース	<web-app> <ejb-ref> <remote>/ <ejb-local-ref> <local>	参照するエンタプライズ Bean のローカルインタフェースまたはリモートインタフェース(インタフェースでの設定による)を設定します。 [任意]
「説明...」ボタン	<web-app> <ejb-ref> <description>	「説明...」ボタンをクリックして、「説明ダイアログ」を表示し、参照の説明を設定します。 [任意]
エンタプライズ Bean	<web-app> <ejb-ref> <ejb-link>/ <ejb-local-ref> <ejb-link>	参照対象のエンタプライズ Bean を設定します。 [任意]
「リソースグループ」ボタン	<web-app> <ejb-ref> /<ejb-local-ref> <mapped-name> </mapped-name> <injection-target> </injection-target> >	「リソースグループ」ボタンをクリックして、「リソースグループダイアログ」を表示し、EJB 参照のリソースグループを設定します。 [任意]
「OK」ボタン	-	設定内容を保存します。
「キャンセル」ボタン	-	設定内容を保存しないで、「EJB 参照」ページに戻ります。

「Web サービス参照」ページ

web.xml エディタの「Web サービス参照」ページをクリックすると、以下のような画面を表示します。
「Web サービス参照」ページでは、<service-ref>要素が編集できます。



各項目の説明を以下に示します。

項目	要素	説明
Web サービス参照リスト	<web-app> <service-ref>	Web サービス参照を一覧表示します。 「追加...」ボタン/「編集...」ボタン/「削除」ボタンで、定義の追加/編集/削除ができます。 [任意]
参照名	<web-app> <service-ref> <service-ref-name>	「Web サービス参照設定ダイアログ」で設定した参照名を表示します。 [必須]
サービスインタフェース	<web-app> <service-ref> <service-interface>	「Web サービス参照設定ダイアログ」で設定したサービスインタフェースを表示します。 [必須]
「追加...」ボタン	–	「Web サービス参照設定ダイアログ」を表示して、Web サービス参照の情報を追加します。
「編集...」ボタン	–	「Web サービス参照設定ダイアログ」を表示して、選択行の情報を編集します。

「削除」ボタン	-	削除確認後、選択行の情報を削除します。
---------	---	---------------------

「Web サービス参照設定ダイアログ」

「Web サービス参照」ページの「追加...」ボタンまたは「編集...」ボタンをクリックすると、以下のような画面を表示します。

各項目の説明を以下に示します。

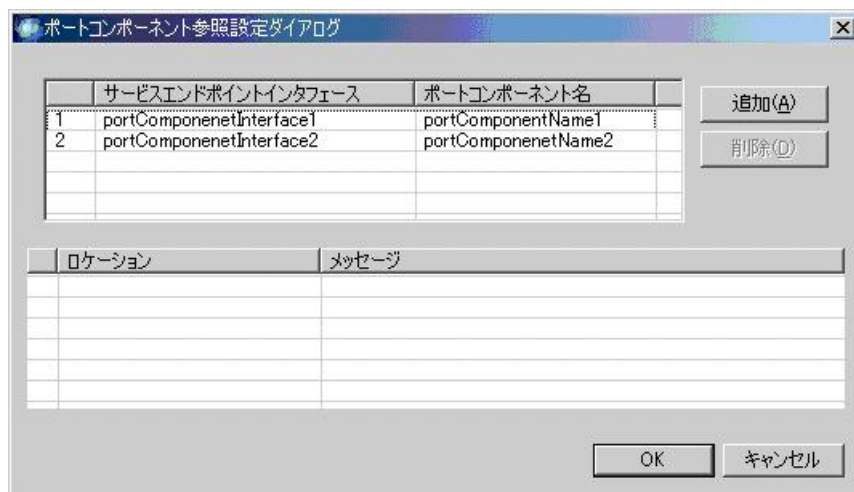
項目	要素	説明
参照名	<web-app>	Web サービスの参照名を設定します。 [必須]
	<service-ref>	
	<service-ref-name>	
表示名	<web-app>	Web サービスの表示名を設定します。 [任意]
	<service-ref>	
	<display-name>	
インタフェース	<web-app>	サービスインタフェースを設定します。 [必須]
	<service-ref>	
	<service-interface>	
WSDL ファイル	<web-app>	WSDL ファイルを設定します。 [任意]
	<service-ref>	
	<wsdl-file>	

マッピングファイル	<web-app> <service-ref> <jaxrpc-mapping-file>	JAX-RPC マッピングを記述しているファイルを設定します。 [任意]
サービス QName	<web-app> <service-ref> <service-qname>	サービスの QName を設定します。 [任意] ※「WSDL ファイル」を設定した場合のみ有効です。 ※ QName の形式は、<service-qname xmlns:service_qname_ns_="ネームスペース">service_qname_ns_:ローカルパート</service-qname>です。
ネームスペース	-	サービスの QName の URI 参照を設定します。 [任意]
ローカルパート	-	サービスの QName のローカルパートを設定します。 [必須]
「ポートコンポーネント参照設定...」ボタン	<web-app> <service-ref> <port-component-ref>	「ポートコンポーネント参照設定ダイアログ」を表示します。
「ハンドラ設定...」ボタン	<web-app> <service-ref> <handler>	「ハンドラ設定ダイアログ」を表示します。
「アイコン...」ボタン	<web-app> <service-ref> <icon>	「アイコン...」ボタンをクリックして、「アイコンダイアログ」を表示し、小さいアイコン、大きいアイコンを設定します。
「説明...」ボタン	<web-app> <service-ref> <description>	「説明...」ボタンをクリックして、「説明ダイアログ」を表示し、Web サービス参照の説明を設定します。
「OK」ボタン	-	設定内容を保存します。
「キャンセル」ボタン	-	設定内容を保存しないで、「Web サービス参照」ページに戻ります。

「ポートコンポーネント参照設定ダイアログ」

「Web サービス参照設定ダイアログ」の「ポートコンポーネント参照設定...」ボタンをクリックすると、以下のような画面を表示します。

「ポートコンポーネント参照設定ダイアログ」では、<port-component-ref>要素が編集できます。



各項目の説明を以下に示します。

項目	要素	説明
ポートコンポーネント参照リスト	<code><web-app></code> <code><service-ref></code> <code><port-component-ref></code>	ポートコンポーネント参照を一覧表示します。 「追加」ボタン/「削除」ボタンで、定義の追加/削除ができます。 [任意]
サービスエンドポイントインターフェース	<code><web-app></code> <code><service-ref></code> <code><port-component-ref></code> <code><service-endpoint-interface></code>	WSDL ポートのサービスエンドポイントインターフェースの Java クラス名を設定します。 [必須]
ポートコンポーネント名	<code><web-app></code> <code><service-ref></code> <code><port-component-ref></code> <code><port-component-link></code>	サービスエンドポイントインターフェースと結びつけて参照するポートコンポーネントの名前を設定します。 [任意]
「追加」ボタン	–	空の行をリストの最後に追加します。
「削除」ボタン	–	削除確認後、選択行の情報を削除します。
「OK」ボタン	–	設定内容を保存します。
「キャンセル」ボタン	–	設定内容を保存しないで、「Web サービス参照設定ダイアログ」に戻ります。

「ハンドラ設定ダイアログ」





「Web サービス参照設定ダイアログ」の「ハンドラ設定...」ボタンをクリックすると、以下のような画面を表示します。

「ハンドラ設定ダイアログ」では、<handler>要素が編集できます。

各項目の説明を以下に示します。


ハンドラ

項目	要素	説明
ハンドラリスト	<web-app> <service-ref> <handler>	ポートコンポーネントのためのハンドラを一覧表示します。 「追加」ボタン/「削除」ボタンで、定義の追加/削除ができます。 [任意]
ハンドラクラス	<web-app> <service-ref> <handler> <handler-class>	ハンドラ実装クラスのクラス名を設定します。 [必須]
ハンドラ名	<web-app> <service-ref> <handler> <handler-name>	ハンドラ名を設定します。 [必須]
表示名	<web-app> <service-ref>	ハンドラの表示名を設定します。 [任意]

	<handler> <display-name>	
アイコン	<web-app> <service-ref> <handler> <icon>	アイコンを設定している場合は  、設定していない場合は  を表示します。 アイコンをクリックして、「アイコンダイアログ」を表示し、小さいアイコン、大きいアイコンを設定します。 [任意]
説明	<web-app> <service-ref> <handler> <description>	説明を設定している場合は  、設定していない場合は  を表示します。 アイコンをクリックして、「説明ダイアログ」を表示し、ハンドラの説明を設定します。 [任意]
「追加」ボタン	-	空の行をリストの最後に追加します。
「削除」ボタン	-	削除確認後、選択行の情報を削除します。
「上へ」ボタン	-	選択行を一行上へ移動します。
「下へ」ボタン	-	選択行を一行下へ移動します。
「OK」ボタン	-	設定内容を保存します。
「キャンセル」ボタン	-	設定内容を保存しないで、「Web サービス参照設定ダイアログ」に戻ります。

※ハンドラで行を選択すると、選択したハンドラの初期化パラメータ、ポート、SOAP ヘッダ、SOAP ロールが編集できます。

初期化パラメータ



初期化パラメータ(P) ポート(O) SOAPヘッダ(H) SOAPロール(L)				
	パラメータ	値	説明	
1	initParam1	initValue1		

追加

削除(R)

各項目の説明を以下に示します。


項目	要素	説明
初期化パラメータリスト	<web-app> <service-ref> <handler> <init-param>	ハンドラリストで選択したハンドラの初期化パラメータを一覧表示します。ハンドラを選択しないと編集できません。 「追加」ボタン/「削除」ボタンで、定義の追加/削除ができます。 [任意]


パラメータ	<web-app> <service-ref> <handler> <init-param> <param-name>	初期化パラメータ名を設定します。 [必須]
値	<web-app> <service-ref> <handler> <init-param> <param-value>	初期化パラメータの値を設定します。 [必須]
説明	<web-app> <service-ref> <handler> <init-param> <description>	説明を設定している場合は  、設定していない場合は  を表示します。 アイコンをクリックして、「説明ダイアログ」を表示し、初期化パラメータの説明を設定します。 [任意]
「追加」ボタン	–	空の行をリストの最後に追加します。
「削除」ボタン	–	削除確認後、選択行の情報を削除します。

ポート

初期化パラメータ(P) | **ポート(O)** | SOAPヘッダ(H) | SOAPロール(L)

	ポート
1	port1
2	port2

追加 

削除 

各項目の説明を以下に示します。

項目	要素	説明
ポート	<web-app> <service-ref> <handler> <port-name>	ハンドラリストで選択したハンドラが連携すべき WSDL ポート名を一覧表示します。ハンドラを選択しないと編集できません。 「追加」ボタン/「削除」ボタンで、定義の追加/削除ができます。 [任意]
「追加」ボタン	–	空の行をリストの最後に追加します。

「削除」ボタン	-	削除確認後、選択行の情報を削除します。
---------	---	---------------------

SOAP ヘッダ

初期化パラメータ(P) | ポート(Q) | SOAPヘッダ(H) | SOAPロール(L)

	ネームスペース	ローカルパート	
1	namespace	localPart	

追加(Q) 削除(R)

各項目の説明を以下に示します。

項目	要素	説明
SOAP ヘッダ	<web-app> <service-ref> <handler> <soap-header>	ハンドラリストで選択したハンドラで処理する SOAP ヘッダの QName を一覧表示します。 ハンドラを選択しないと編集できません。 「追加」ボタン/「削除」ボタンで、定義の追加/削除ができます。 [任意] ※ QName の形式は、<service-qname xmlns:service_qname_ns_="ネームスペース">service_qname_ns_:ローカルパート</service-qname>です。
ネームスペース	-	SOAP ヘッダの QName の URI 参照を設定します。 [任意]
ローカルパート	-	SOAP ヘッダの QName のローカルパートを設定します。 [必須]
「追加」ボタン	-	空の行をリストの最後に追加します。
「削除」ボタン	-	削除確認後、選択行の情報を削除します。

SOAP ロール

初期化パラメータ(P) | ポート(Q) | SOAPヘッダ(H) | SOAPロール(L)

	SOAPロール	
1	soapRole1	
2	soapRole2	

追加(Q) 削除(R)

各項目の説明を以下に示します。

項目	要素	説明
SOAP ロール	<web-app>	ハンドラリストで選択したハンドラの SOAP ロール





	<service-ref> <handler> <soap-role>	ールを一覧表示します。ハンドラを選択しないと編集できません。 「追加」ボタン/「削除」ボタンで、定義の追加/削除ができます。 [任意]
「追加」ボタン	-	空の行をリストの最後に追加します。
「削除」ボタン	-	削除確認後、選択行の情報を削除します。

「リソース参照」ページ

web.xml エディタの「リソース参照」ページをクリックすると、以下のような画面を表示します。
 「リソース参照」ページでは、<resource-ref>要素が編集できます。

各項目の説明を以下に示します。

項目	要素	説明
リソースマネージャ接続 ファクトリ参照リスト	<web-app> <resource-ref>	Web アプリケーションの外部リソースへの参照を一覧表示します。 「追加」ボタン/「削除」ボタンで、定義の追加/削除ができます。 [任意]
参照名	<web-app> <resource-ref> <res-ref-name>	リソースマネージャ接続ファクトリ参照の名前を設定します。JNDI 名です。 [必須]
型	<web-app>	データソースの型を指定します。データソー

	<resource-ref> <res-type>	スの Java クラス名かデータソースで実装しているインタフェース名です。 [任意]
認証	<web-app> <resource-ref> <res-auth>	リソースマネージャにサインオンするのが Web アプリケーションかコンテナか指定します。選択肢は以下の通りです。 Application Container [任意]
共有可能	<web-app> <resource-ref> <res-sharing-scope>	リソースマネージャ接続ファクトリ参照から取得したコネクションを共有できるかどうか指定します。 既定値: 共有可能 [任意]
説明	<web-app> <resource-ref> <description>	説明を設定している場合は  、設定していない場合は  を表示します。 アイコンをクリックして、「説明ダイアログ」を表示し、リソース参照の説明を設定します。 [任意]
リソースグループ	<web-app> <resource-ref> <mapped-name> </mapped-name> <injection-target> </injection-target>	リソースグループを設定している場合は  、設定していない場合は  を表示します。 アイコンをクリックして、「リソースグループダイアログ」を表示し、リソースマネージャ接続ファクトリ参照のリソースグループを設定します。 [任意]
「追加」ボタン	–	空の行をリストの最後に追加します。
「削除」ボタン	–	削除確認後、選択行の情報を削除します。

※リソースマネージャ接続ファクトリ参照リストで行を選択すると、選択したリソースマネージャ接続ファクトリ参照の **WebOTX 固有の設定**が編集できます。

WebOTX 固有の設定

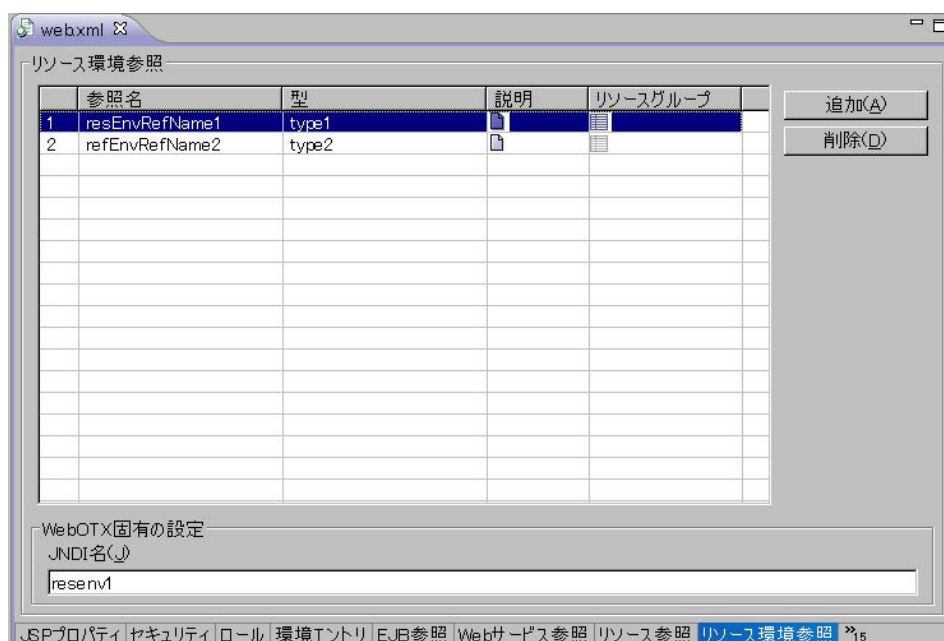
各項目の説明を以下に示します。

項目	要素	説明
JNDI 名	<nec-web-app> <resource-ref> <jndi-name>	リソースマネージャ接続ファクトリ参照リストで選択したリソースマネージャ接続ファクトリ参照に割り当てるリソースの JNDI 名を設定します。リソースマネージャ接続ファクトリ参

		照を選択しないと編集できません。 [任意]
ユーザ名	<nec-web-app> <resource-ref> <default-resource-principi pal > <name>	リソースのデフォルトのユーザ名を設定しま す。 [任意] ※設定する場合は、JNDI 名、パスワードと 一緒に設定しなければなりません。
パスワード	<nec-web-app> <resource-ref> <default-resource-principi pal > <password>	リソースのデフォルトのユーザのパスワード を設定します。 [任意] ※設定する場合は、JNDI 名、ユーザ名と一 緒に設定しなければなりません。





「リソース環境参照」ページ

web.xml エディタの「リソース環境参照」ページをクリックすると、以下のような画面を表示します。
「リソース環境参照」ページでは、<resource-env-ref>要素が編集できます。



各項目の説明を以下に示します。

項目	要素	説明
リソース環境参照リスト	<web-app> <resource-env-ref>	リソース環境参照を一覧表示します。 「追加」ボタン/「削除」ボタンで、定義の追加 /削除ができます。 [任意]
参照名	<web-app>	リソース環境参照の名前を設定します。

	<resource-env-ref> <res-ref-env-name>	JNDI 名です。 [必須]
型	<web-app> <resource-env-ref> <res-env-type>	リソース環境参照の型を設定します。Java クラス名かインタフェース名です。 [任意]
説明	<web-app> <resource-env-ref> <description>	説明を設定している場合は  、設定していない場合は  を表示します。 アイコンをクリックして、「説明ダイアログ」を表示し、リソース環境参照の説明を設定します。 [任意]
リソースグループ	<web-app> <resource-env-ref> <mapped-name> </mapped-name> <injection-target> </injection-target>	リソースグループを設定している場合は  、設定していない場合は  を表示します。 アイコンをクリックして、「リソースグループダイアログ」を表示し、リソース環境参照のリソースグループを設定します。 [任意]
「追加」ボタン	–	空の行をリストの最後に追加します。
「削除」ボタン	–	削除確認後、選択行の情報を削除します。

※リソース環境参照リストで行を選択すると、選択したリソース環境参照の **WebOTX 固有の設定**が編集できます。

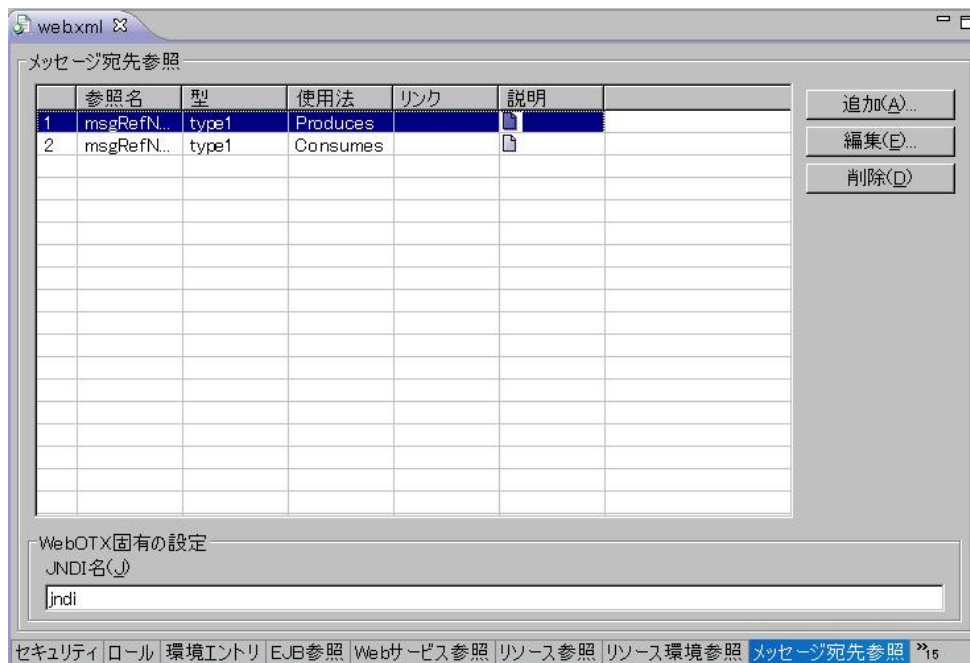
WebOTX 固有の設定

各項目の説明を以下に示します。

項目	要素	説明
JNDI 名	<nec-web-app> <resource-env-ref> <jndi-name>	リソース環境参照リストで選択したリソース環境参照に割り当てるリソースの JNDI 名を設定します。リソース環境参照を選択しないと編集できません。 [任意]



「メッセージ宛先参照」ページ

web.xml エディタの「メッセージ宛先参照」ページをクリックすると、以下のような画面を表示します。
 「メッセージ宛先参照」ページでは、<message-destination-ref>要素が編集できます。



各項目の説明を以下に示します。

項目	要素	説明
メッセージ宛先参照リスト	<web-app> <message-destination-ref>	メッセージ宛先参照を一覧表示します。「追加...」ボタン/「編集...」ボタン/「削除」ボタンで、定義の追加/編集/削除ができます。 [任意]
参照名	<web-app> <message-destination-ref> <message-destination-ref-name>	「メッセージ宛先参照設定ダイアログ」で設定した参照名を表示します。 [必須]
型	<web-app> <message-destination-ref> <message-destination-type>	「メッセージ宛先参照設定ダイアログ」で設定した型を表示します。 [任意]
使用法	<web-app> <message-destination-ref>	「メッセージ宛先参照設定ダイアログ」で設定した使用法を表示します。 [任意]

	<message-destination-u sage>	
リンク	<web-app> <message-destination-r ef> <message-destination-li nk>	「メッセージ宛先参照設定ダイアログ」で設 定したターゲット宛先を表示します。 [任意]
説明	<web-app> <message-destination-r ef> <description>	説明を設定している場合は  、設定してい ない場合は  を表示します。 アイコンをクリックすると、「メッセージ宛先参 照設定ダイアログ」で設定した説明を表示し ます。 [任意]
「追加...」ボタン	–	「メッセージ宛先参照設定ダイアログ」を表 示して、メッセージ宛先参照の情報を追加し ます。
「編集...」ボタン	–	「メッセージ宛先参照設定ダイアログ」を表 示して、選択行の情報を編集します。
「削除」ボタン	–	削除確認後、選択行の情報を削除します。

※メッセージ宛先参照リストから、1つのメッセージ宛先参照を選択すると、該当メッセー
ジ宛先参照の WebOTX 固有の設定が編集できます。

WebOTX 固有の設定

各項目の説明を以下に示します。

項目	要素	説明
JNDI 名	<nec-web-app> <message-destination-r ef> <jndi-name>	メッセージ宛先参照リストで選択したメッセー ジ宛先参照に割り当てるメッセージ宛先参 照の JNDI 名を設定します。メッセージ宛先 参照を選択しないと編集できません。 [任意]

「メッセージ宛先参照設定ダイアログ」

「メッセージ宛先参照」ページ の「追加...」ボタンまたは「編集...」ボタンをクリックすると、以下のような画
面を表示します。

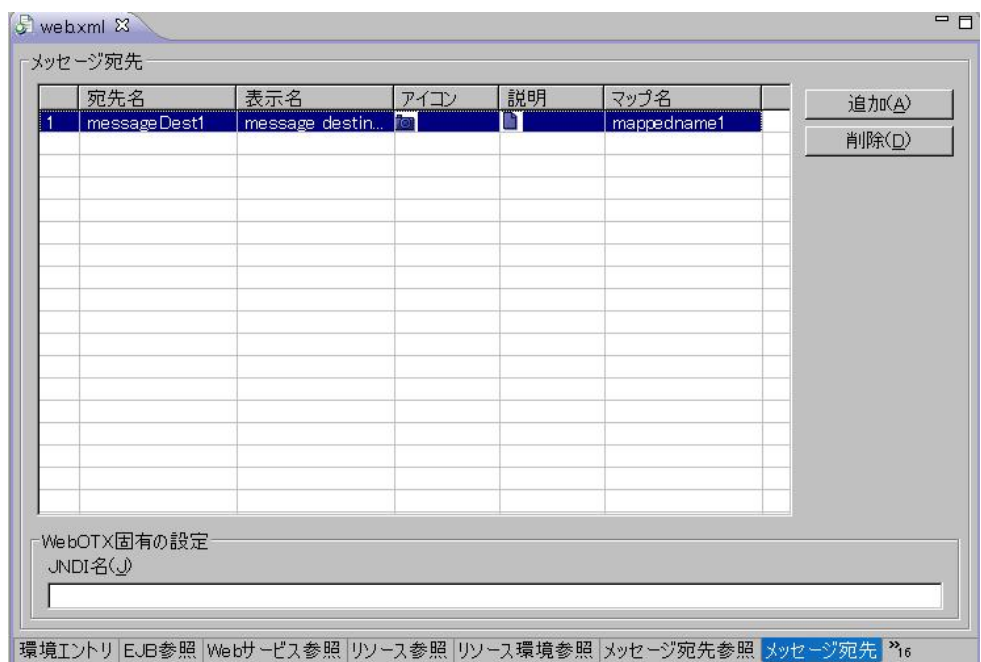
各項目の説明を以下に示します。

項目	要素	説明
参照名	<web-app> <message-destination-ref> <message-destination-ref-name>	メッセージ宛先参照の参照名を設定します。JNDI 名です。 [必須]
型	<web-app> <message-destination-ref> <message-destination-type>	メッセージ宛先参照の型を設定します。メッセージ宛先で実装しているインターフェースです。 [任意]
使用法	<web-app> <message-destination-ref> <message-destination-usage>	メッセージ宛先参照の使用法を指定します。選択肢は以下の通りです。 “” Consumes Produces ConsumesProduces [任意]
「説明...」ボタン	<web-app> <message-destination-ref> <description>	「説明...」ボタンをクリックして、「説明ダイアログ」を表示し、メッセージ宛先参照の説明を設定します。 [任意]

宛先名	<web-app> <message-destination-ref> <message-destination-link>	参照対象のメッセージ宛先を設定します。 [任意]
「リソースグループ」ボタン	<web-app> <message-destination-ref> <mapped-name> </mapped-name> <injection-target> </injection-target>	「リソースグループ」ボタンをクリックして、「リソースグループダイアログ」を表示し、メッセージ宛先参照のリソースグループを設定します。 [任意]
「OK」ボタン	-	設定内容を保存します。
「キャンセル」ボタン	-	設定内容を保存しないで、「メッセージ宛先参照」ページに戻ります。





「メッセージ宛先」ページ

web.xml エディタの「メッセージ宛先」ページをクリックすると、以下のような画面を表示します。
 「メッセージ宛先」ページでは、<message-destination>要素が編集できます。



各項目の説明を以下に示します。

項目	要素	説明
メッセージ宛先リスト	<web-app> <message-destination>	メッセージ宛先を一覧表示します。 「追加」ボタン/「削除」ボタンで、定義の追加/削除ができます。 [任意]

宛先名	<web-app> <message-destination> <message-destination-name>	メッセージ宛先の名前を設定します。 [必須]
表示名	<web-app> <message-destination> <display-name>	メッセージ宛先の表示名を設定します。 [任意]
アイコン	<web-app> <message-destination> <icon>	アイコンを設定している場合は  , 設定していない場合は  を表示します。 アイコンをクリックして、「アイコンダイアログ」を表示し、小さいアイコン、大きいアイコンを設定します。 [任意]
説明	<web-app> <message-destination> <description>	説明を設定している場合は  , 設定していない場合は  を表示します。 アイコンをクリックして、「説明ダイアログ」を表示し、メッセージ宛先の説明を設定します。 [任意]
マップ名	<web-app> <message-destination> <mapped-name>	メッセージ宛先のマップ名を設定します。 [任意]
「追加」ボタン	–	空の行をリストの最後に追加します。
「削除」ボタン	–	削除確認後、選択行の情報を削除します。

※メッセージ宛先リストから、1つのメッセージ宛先を選択すると、該当メッセージ宛先の WebOTX 固有の設定が編集できます。

WebOTX 固有の設定

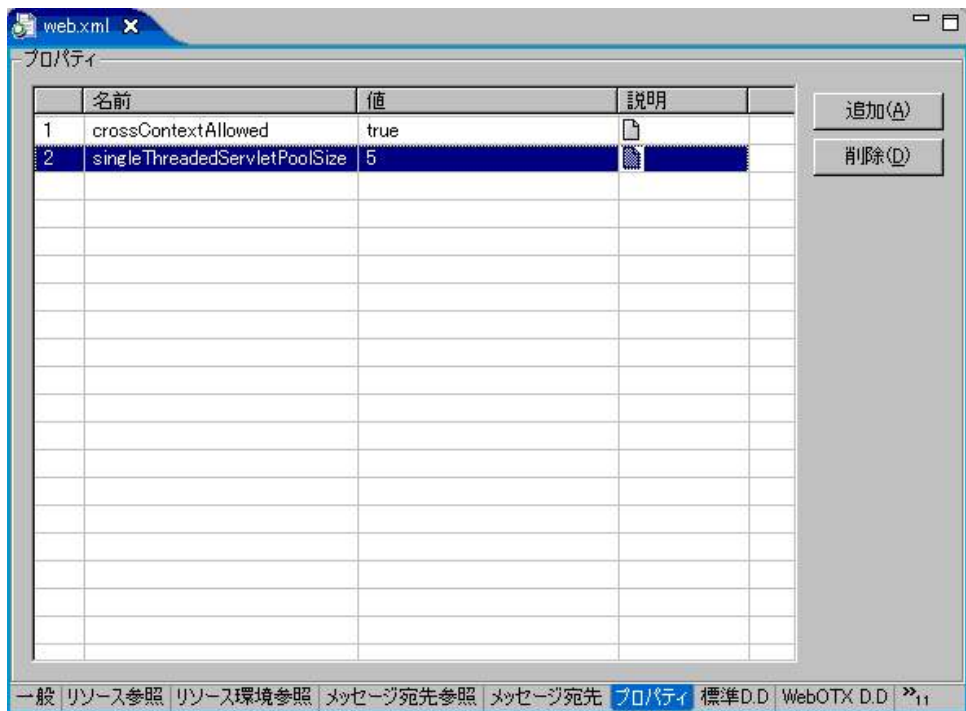
各項目の説明を以下に示します。

項目	要素	説明
JNDI 名	<nec-web-app> <message-destination>	メッセージ宛先リストで選択したメッセージ宛先に割り当てるメッセージ宛先の JNDI 名を



	<jndi-name>	設定します。メッセージ宛先を選択しないと編集できません。 [任意]
--	-------------	--------------------------------------

「プロパティ」ページ

web.xml エディタの「プロパティ」ページをクリックすると、以下のような画面を表示します。
「プロパティ」ページでは、<property>要素が編集できます。



各項目の説明を以下に示します。

項目	要素	説明
プロパティリスト	<nec-web-app> <property>	プロパティを一覧表示します。 「追加」ボタン/「削除」ボタンで、定義の追加/削除ができます。 [任意]
名前	<nec-web-app> <property>の name 属性	プロパティの名前を設定します [必須]
値	<nec-web-app> <property>の value 属性	プロパティの値を設定します。 [必須]
説明	<nec-web-app> <property> <description>	説明を設定している場合は  、設定していない場合は  を表示します。 アイコンをクリックして、説明ダイアログを表示し、プロパティの説明を設定します。



		[任意]
「追加」ボタン	-	空の行をリストの最後に追加します。
「削除」ボタン	-	削除確認後、選択行の情報を削除します。





「永続コンテキスト参照」ページ

web.xml エディタの「永続コンテキスト参照」ページをクリックすると、以下のような画面を表示します。
「永続コンテキスト参照」ページでは、< persistence-context-ref >要素が編集できます。



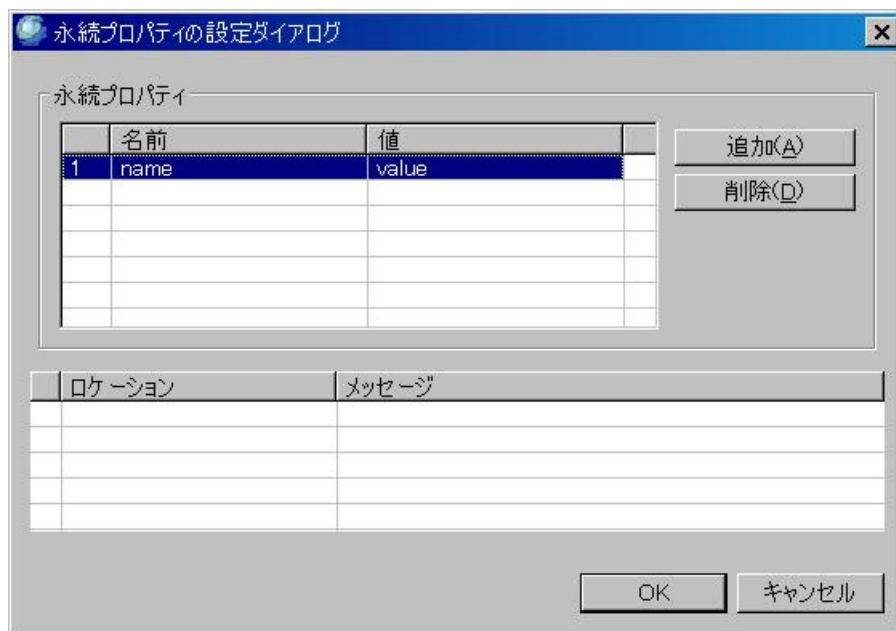
各項目の説明を以下に示します。

項目	要素	説明
永続コンテキスト参照	<web-app> <persistence-context-ref>	永続コンテキスト参照を一覧表示します。 「追加」ボタン/「削除」ボタンで、定義の追加/削除ができます。 [任意]
永続コンテキスト参照名	< web-app> <persistence-context-ref> <persistence-unit-ref-name >	永続コンテキスト参照名を設定します [必須]
永続結合名	< web-app> <persistence-context-ref> <persistence-unit-name>	永続結合名を設定します。 [任意]
永続コンテキストタイプ	< web-app> <persistence-context-ref> <persistence-context-type>	永続コンテキストタイプを設定します。 [任意]
永続プロパティ	< web-app> <persistence-context-ref> <persistence-property>	永続プロパティを設定している場合は  、設定していない場合は  を表示します。 アイコンをクリックして、「永続プロパティの設定ダイアログ」を表示し、永続コンテキスト参照の永続プロパティを設定します。 [任意]

リソースグループ	<pre> <web-app> <persistence-context-ref> <mapped-name> </mapped-name> <injection-target> </injection-target> </pre>	<p>リソースグループを設定している場合は 、設定していない場合は  を表示します。</p> <p>アイコンをクリックして、「リソースグループダイアログ」を表示し、永続コンテキスト参照のリソースグループを設定します。</p> <p>[任意]</p>
説明	<pre> < web-app> <persistence-context-ref> <description> </pre>	<p>説明を設定している場合は 、設定していない場合は  を表示します。</p> <p>アイコンをクリックして、説明ダイアログを表示し、永続コンテキスト参照の説明を設定します。</p> <p>[任意]</p>
「追加」ボタン	-	空の行をリストの最後に追加します。
「削除」ボタン	-	削除確認後、選択行の情報を削除します。

「永続プロパティの設定ダイアログ」

「永続コンテキスト参照」ページの「追加...」ボタンまたは「編集...」ボタンをクリックすると、以下のような画面を表示します。



各項目の説明を以下に示します。

項目	要素	説明
----	----	----



永続プロパティ	<pre><web-app> <persistence-context-ref> <persistence-property></pre>	永続プロパティを一覧表示します。 [任意]
名前	<pre><web-app> <persistence-context-ref> <persistence-property> <name></pre>	永続プロパティの名前を設定します [必須]
値	<pre><web-app> <persistence-context-ref> <persistence-property> <value></pre>	永続プロパティの値を設定します。 [必須]
「追加」ボタン	-	空の行をリストの最後に追加します。
「削除」ボタン	-	削除確認後、選択行の情報を削除します。
「OK」ボタン	-	設定内容を保存します。
「キャンセル」ボタン	-	設定内容を保存しないで、前の画面に戻ります。



「永続結合参照」ページ

web.xml エディタの「永続結合参照」ページをクリックすると、以下のような画面を表示します。
「永続結合参照」ページでは、< persistence-unit-ref >要素が編集できます。



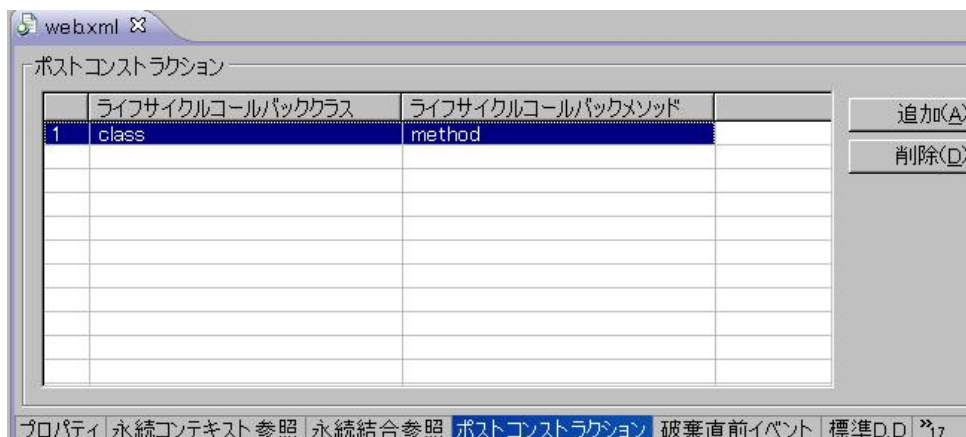
各項目の説明を以下に示します。

項目	要素	説明
永続結合参照	<pre><web-app> <persistence-unit-ref></pre>	永続結合参照を一覧表示します。 「追加」ボタン/「削除」ボタンで、定義の追加/削除ができます。 [任意]
永続結合参照名	<pre><web-app> <persistence-unit-ref> <persistence-unit-ref-name></pre>	永続結合参照名を設定します [必須]
永続結合名	<pre><web-app> <persistence-unit-ref> <persistence-unit-name></pre>	永続結合名を設定します。 [任意]
リソースグループ	<pre><web-app> <persistence-unit-ref> <mapped-name></pre>	リソースグループを設定している場合は  、設定していない場合は 

	</mapped-name> <injection-target> </injection-target>	を表示します。 アイコンをクリックして、「リソースグループダイアログ」を表示し、永続結合参照のリソースグループを設定します。 [任意]
説明	<web-app> <persistence-unit-ref> <description>	説明を設定している場合は  、設定していない場合は  を表示します。 アイコンをクリックして、説明ダイアログを表示し、永続結合参照の説明を設定します。 [任意]
「追加」ボタン	-	空の行をリストの最後に追加します。
「削除」ボタン	-	削除確認後、選択行の情報を削除します。

「ポストコンストラクト」ページ

web.xml エディタの「ポストコンストラクト」ページをクリックすると、以下のような画面を表示します。
 「ポストコンストラクト」ページでは、<post-construct>要素が編集できます。



各項目の説明を以下に示します。

項目	要素	説明
ポストコンストラクト	<web-app> <post-construct>	ポストコンストラクトを一覧表示します。 「追加」ボタン/「削除」ボタンで、定義の追加/削除ができます。 [任意]
ライフサイクルコー	<web-app>	ライフサイクルコールバッククラスを

ルバッククラス	<post-construct> <lifecycle-callback-class>	設定します [任意]
ライフサイクルコールバックメソッド	<web-app> <post-construct> <lifecycle-callback-method> >	ライフサイクルコールバックメソッドを設定します。 [必須]
「追加」ボタン	-	空の行をリストの最後に追加します。
「削除」ボタン	-	削除確認後、選択行の情報を削除します。

「破棄直前イベント」ページ

web.xml エディタの「破棄直前イベント」ページをクリックすると、以下のような画面を表示します。
 「破棄直前イベント」ページでは、<pre-destroy>要素が編集できます。



各項目の説明を以下に示します。

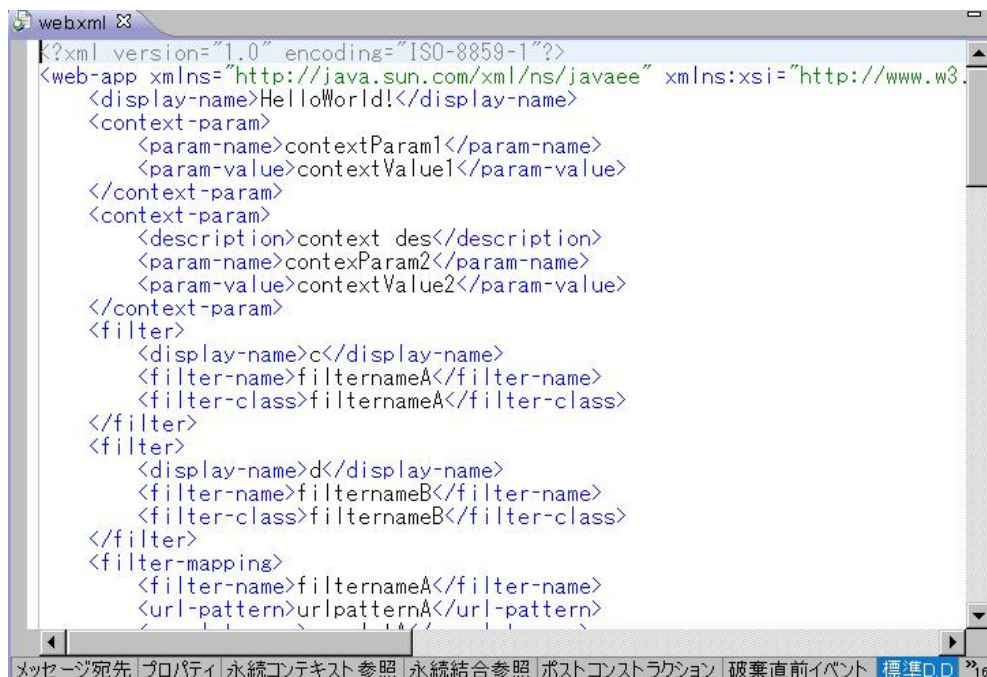
項目	要素	説明
破棄直前イベント	<web-app> <pre-destroy>	破棄直前イベントを一覧表示します。 「追加」ボタン/「削除」ボタンで、定義の追加/削除ができます。 [任意]
ライフサイクルコールバッククラス	<web-app> <pre-destroy> <lifecycle-callback-class>	ライフサイクルコールバッククラスを設定します [任意]
ライフサイクルコールバックメソッド	<web-app> <pre-destroy> <lifecycle-callback-method> >	ライフサイクルコールバックメソッドを設定します。 [必須]
「追加」ボタン	-	空の行をリストの最後に追加します。

「削除」ボタン	-	削除確認後、選択行の情報を削除します。
---------	---	---------------------

「標準 D.D」ページ

web.xml エディタの「標準 D.D」ページをクリックすると、以下のような画面を表示します。

「標準 D.D」ページでは、編集中の web.xml ファイルの内容をテキスト形式で表示して、編集することができます。

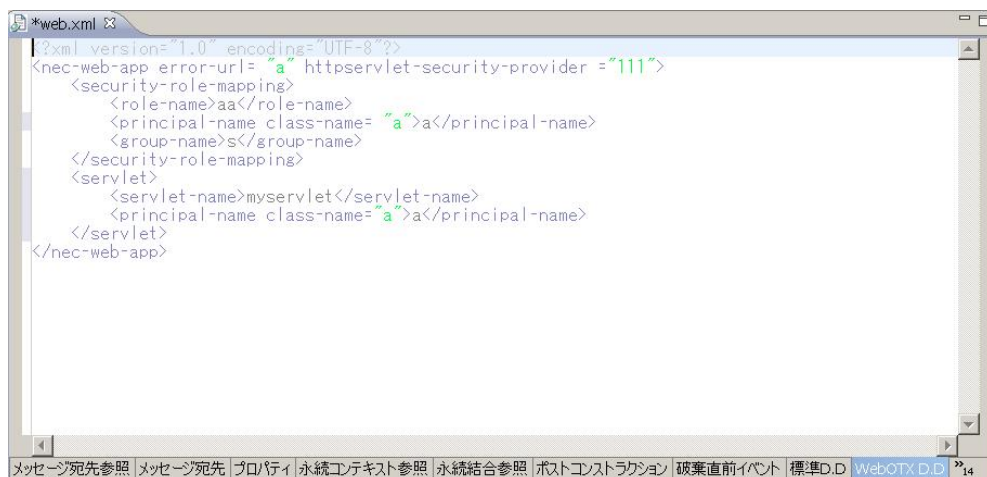


「標準 D.D」ページでエラーが発生すると、問題ビューにエラーメッセージを表示します。問題ビューのエラーメッセージをクリックすると、エラーがある行をハイライトで表示することができます。エラーメッセージ、および対処方法については、「障害解析」を参照してください。

「WebOTX D.D」ページ

web.xml エディタの「WebOTX D.D」ページをクリックすると、以下のような画面を表示します。

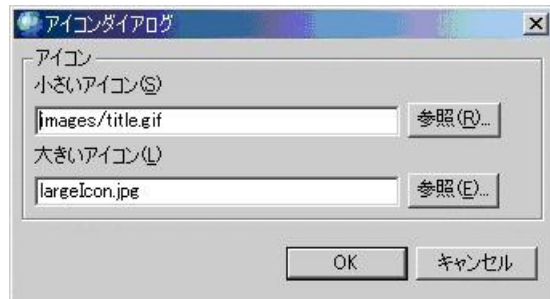
「WebOTX D.D」ページでは、編集中の nec-web.xml ファイルの内容をテキスト形式で表示します。編集することはできません。



共通ダイアログ

「アイコンダイアログ」

ページまたはダイアログで、「アイコン...」ボタンやアイコン(📁、📁)をクリックすると、以下のような画面を表示します。「アイコンダイアログ」では<icon>要素が編集できます。



各項目の説明を以下に示します。

項目	要素	説明
小さいアイコン	<icon> <small-icon>	小さいアイコン(16x16)を設定します。「参照...」ボタンでアイコンを選択することもできます。 [任意]
大きいアイコン	<icon> <large-icon>	大きいアイコン(32x32)を設定します。「参照...」ボタンでアイコンを選択することもできます。 [任意]
「参照...」ボタン	-	「リソースの選択ダイアログ」を表示します。
「OK」ボタン	-	設定内容を保存します。
「キャンセル」ボタン	-	設定内容を保存しないで、前の画面に戻ります。

「リソースの選択ダイアログ」

「アイコンダイアログ」の「参照...」ボタンをクリックすると、以下のような画面を表示します。リソースの一覧からアイコンを選択できます。





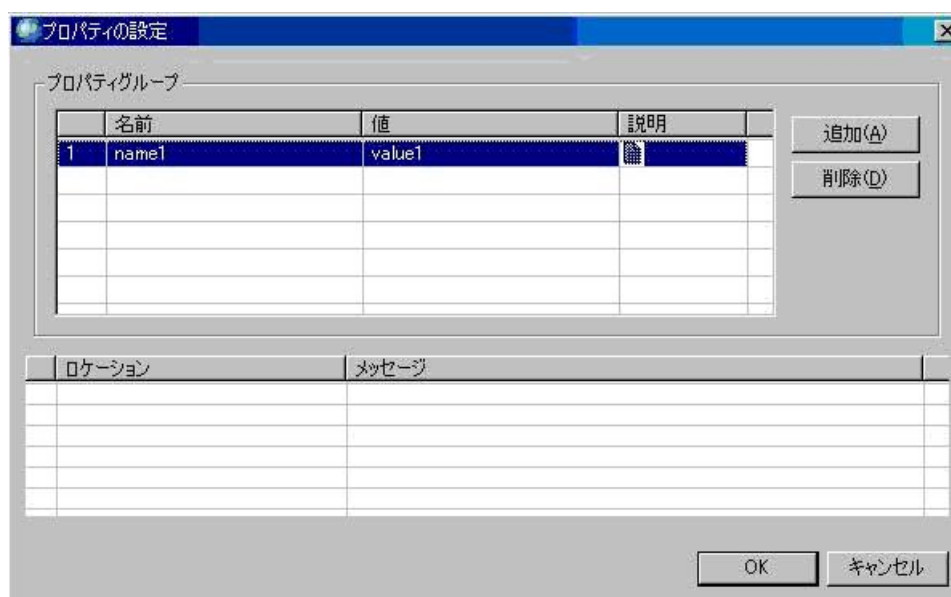
- 左ペインでディレクトリを移動し、右ペインで指定するファイル 1 つだけにチェックをつけて選択します。
- 「OK」ボタンをクリックすると、選択内容を保存します。
- 「キャンセル」ボタンをクリックすると、選択内容を保存しないで、「アイコンダイアログ」に戻ります。

＜注意＞



左ペインでディレクトリにチェックをつけると、複数ファイルが選択状態になります。その場合は、一番上のディレクトリのチェックをはずして選択状態を解除してください。複数ファイルを選択すると、正しく設定できません。

「プロパティの設定」ダイアログ



ページまたはダイアログで、「プロパティ...」ボタンやアイコン(, )をクリックすると、以下のような画面を表示します。「プロパティの設定」ダイアログでは<property>要素が編集できます。

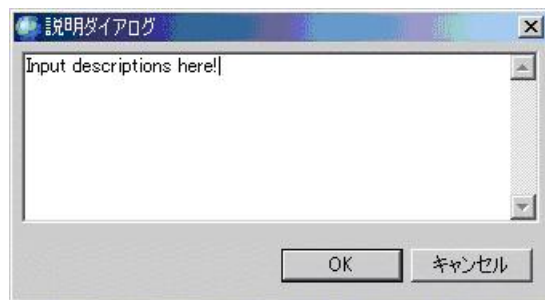


各項目の説明を以下に示します。

項目	要素	説明
プロパティグループ	<property>	プロパティを一覧表示します。 [任意]
名前	<property>の name 属性	プロパティの名前を設定します [必須]
値	<property>の value 属性	プロパティの値を設定します。 [必須]
説明	<property> <description>	説明を設定している場合は  、設定していない場合は  を表示します。 アイコンをクリックして、説明ダイアログを表示し、プロパティの説明を設定します。 [任意]
「追加」ボタン	–	空の行をリストの最後に追加します。
「削除」ボタン	–	削除確認後、選択行の情報を削除します。
「OK」ボタン	–	設定内容を保存します。
「キャンセル」ボタン	–	設定内容を保存しないで、前の画面に戻ります。

「説明ダイアログ」

ページまたはダイアログで、「説明...」ボタンやアイコン(, )をクリックすると、以下のような画面を表示します。「説明ダイアログ」では<description>要素が編集できます。





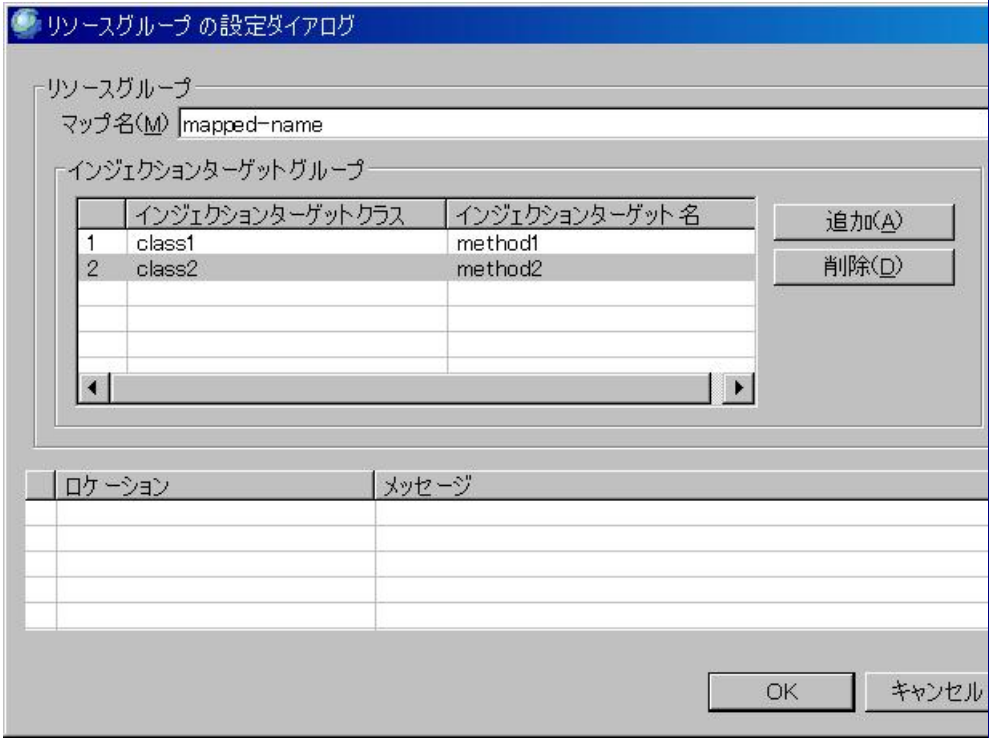
各項目の説明を以下に示します。

項目	要素	説明
説明	<description>	説明を設定します。 [任意]
「OK」ボタン	–	設定内容を保存します。
「キャンセル」ボタン	–	設定内容を保存しないで、前の画面に戻り

		ます。
--	--	-----

「リソースグループの設定ダイアログ」

ページまたはダイアログで、「リソースグループ」...ボタンやアイコン(、 )をクリックすると、以下の様な画面を表示します。



項目	要素	説明
マップ名	<mapped-name >	マップ名を設定します。 [任意]
インジェクションターゲットグループ	<injection-target >	インジェクションターゲットグループを一覧表示します。 「追加」ボタン/「削除」ボタンで、定義の追加/削除ができます。 [任意]
インジェクションターゲットクラス	<injection-target > <injection-target-class>	インジェクションターゲットクラスを設定します。 [必須]
インジェクションターゲット名	<injection-target > <injection-target-name>	インジェクションターゲット名を設定します。 [必須]
「追加」ボタン	-	空の行をリストの最後に追加します。
「削除」ボタン	-	削除確認後、選択行の情報を削除します。

「OK」ボタン	-	設定内容を保存します。
「キャンセル」ボタン	-	設定内容を保存しないで、「セキュリティ」ページに戻ります。

「削除の確認メッセージボックス」

ページまたはダイアログで、「削除」ボタンをクリックすると、以下のような削除を確認するメッセージボックスを表示します。



- 「はい」ボタンをクリックすると、選択行を削除します。
- 「いいえ」ボタンをクリックすると、選択行を削除しません。

障害解析

web.xml エディタでエラーが発生すると、Eclipse の問題ビューまたは、web.xml エディタのエラーリストにエラーメッセージを表示します。また、web.xml エディタ使用中に例外が発生すると、ログファイルに情報を出力します。

エラーメッセージ、および対処方法について説明します。

問題ビューに表示するエラーメッセージ

概要



web.xml エディタ使用中に発生した例外や定義内容の妥当性チェックで発生したエラーの情報を Eclipse の問題ビューに表示します。

出力形式

問題ビューに表示する情報のフォーマットは下図のとおりです。

問題 x DDエディタエラーログビュー				
0 エラー、2 警告、0 情報				
記述	リソース	フォルダー	ロケーション	
cvc-complex-type.2.2: Element 'session-timeout' must ha...	web.xml	HelloWorld/WE...	行 63	
cvc-datatype-valid.1.2.1: '12xx' is not a valid value for 'i...	web.xml	HelloWorld/WE...	行 63	

各列項目に表示する内容は以下のとおりです。

項目	説明
問題種別	 :警告 - 妥当性のエラー情報です。  :エラー - 例外情報です。
記述	エラーメッセージ
リソース	エラーが発生したリソースの名前
フォルダー	エラーが発生したリソースのフォルダー
ロケーション	エラー発生箇所のリソース内の行番号

メッセージ内容

< 要素の複数定義エラー >

エラーメッセージ	対処方法
<session-config>要素が複数あります。1 つにしてください。	「標準 D.D」ページで、<session-config>要素を 1 つにしてください。
<jsp-config>要素が複数あります。1 つにしてください。	「標準 D.D」ページで、<jsp-config>要素を 1 つにしてください。
<login-config>要素が複数あります。1 つにしてください。	「標準 D.D」ページで、<login-config>要素を 1 つにしてください

< web.xml エディタ使用中に発生する例外 >

エラーメッセージ	対処方法
I/O 例外が発生しました。	例外情報はログファイルを参照してください。解決しない場合は、開発部門にお問い合わせください。
構文解析中に、I/O 例外が発生しました。	例外情報はログファイルを参照してください。解決しない場合は、開発部門にお問い合わせください。
例外が発生しました。	予期せぬ例外が発生しました。例外情報はログファイルを参照してください。解決しない場合は、開発部門にお問い合わせください。

< 定義内容の妥当性チェックで発生するエラー >

定義内容の妥当性チェックでエラーが発生した場合、問題ビューのエラーメッセージをクリックすると、「標準 D.D」ページを開いてエラー発生箇所を表示します。エラーメッセージの内容にしたがって定義を見直してください。

スキーマの詳細については、<http://java.sun.com/xml/ns/javaee/>の「Java EE : XML Schemas for Java EE Deployment Descriptors」を参照してください。

問題ビューに表示するエラーメッセージの設定

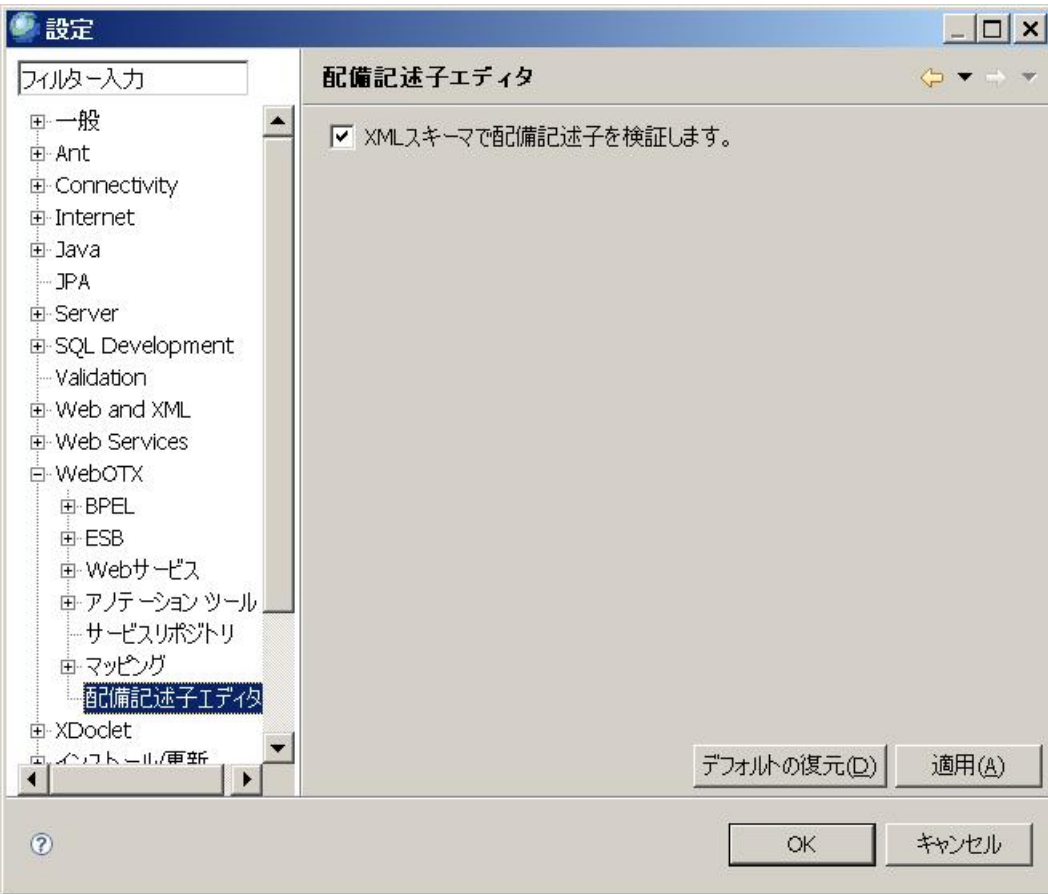
概要

web.xml エディタ使用中に発生した例外や定義内容の妥当性チェックで発生したエラーの情報を Eclipse の問題ビューに表示するかどうか設定できます。

設定方法

1. メニューから「ウィンドウ」―「設定」を選択します。
2. 「設定」ウィンドウで、「WebOTX」―「配備記述子エディタ」を選択します。

下図のとおりです。



各列項目に表示する内容は以下のとおりです。

項目	説明
xml スキーマで配備記述子を検証します。	選択した場合は、xml スキーマで配備記述子を検証して、エラー情報を Eclipse の問題ビューに表示します。 選択しない場合は、xml スキーマで配備記述子を検証しませんので、エラー情報も表示しません。
デフォルトの復元	配備記述子エディタのデフォルト値を復元します。
適用	設定を反映します。

エラーリストに表示するエラーメッセージ

概要

GUI ページでの編集中、または GUI ページからオープンするダイアログでの編集中に発生したエラーの情報をエラーリストに表示します。

出力形式

エラーリストに表示する情報のフォーマットは下図のとおりです。

< ページで表示するエラーリスト(DD エディタエラーログビュー)>

問題 DDエディタエラーログビュー		
	位置	メッセージ
✖	詳細設定...->セッションタイムアウト(分)	セッションタイムアウト(分)は整数で設定してください。

< ダイアログで表示するエラーリスト >

	ロケーション	メッセージ
✖	セッションタイムアウト(分)	セッションタイムアウト(分)は整数で設定し...

各列項目に表示する内容は以下のとおりです。

項目	説明
✖	エラーの標記
ロケーション	エラーの場所
メッセージ	エラーの内容

ロケーションには以下のフォーマットがあります。

フォーマット	説明
--------	----

項目名	項目名の設定値にエラーがあります。
テーブル名:n	テーブル名テーブルの n 行目にエラーがあります。
ボタン名→項目名	ボタン名ボタンをクリックして表示するダイアログの項目名の設定値にエラーがあります。
項目名→ボタン名	項目名に対するボタン名ボタンをクリックして表示するダイアログでの設定にエラーがあります。
ボタン名→テーブル名:n	ボタン名ボタンをクリックして表示するダイアログのテーブル名テーブルの n 行目にエラーがあります。
テーブル名:n→項目名	テーブル名テーブルの n 行目に対する項目名の設定値にエラーがあります。
テーブル名 1:n→テーブル名 2:m	テーブル名 1 テーブルの n 行目に対するテーブル名 2 テーブルの m 行目にエラーがあります。
ボタン名→テーブル名 1:n→テーブル名 2:m	ボタン名ボタンをクリックして表示するダイアログのテーブル名 1 テーブルの n 行目に対するテーブル名 2 テーブルの m 行目にエラーがあります。

メッセージ内容

GUI ページでの編集中、または GUI ページからオープンするダイアログでの編集中にエラーが発生すると、エラーリストにエラーメッセージを表示します。

以下に、web.xml エディタで編集中に発生するエラーのエラーメッセージ、および対処方法について示します。

< ページ共通 >

エラーメッセージ	対処方法
項目を設定してください。	項目は省略できないので、設定してください。
項目は整数で設定してください。	項目は整数でなければならないので、整数で設定してください。
項目はプラスの整数で設定してください。	項目はプラスの整数でなければならないので、プラスの整数で設定してください。
項目は “/” から始まらなければなりません。	項目は “/” から始まらなければならないので、“/” から設定してください。
項目はすでに存在しています。	項目の値はロケーションで示すテーブル内で一意でなければなりません。重複しないように設定してください。
値はすでに存在しています。	ロケーションで示す項目に設定する値は、このダイアログでの設定情報を表示するテーブル内で一意でなければなりません。重複しないように設定してください。

<「フィルタマッピング」ページ >

エラーメッセージ	対処方法
フィルタ名→値は未定義のフィルタです。	<p>フィルタ名の設定値が定義済みのフィルタ名ではありません。</p> <p>エラーが発生した行を選択して、「編集...」ボタンで「フィルタ設定ダイアログ」を表示し、フィルタ名コンボボックスの選択肢から選択してください。</p> <p>あるいは、「フィルタリスト編集...」ボタンで「フィルタリスト編集ダイアログ」を表示し、この値をフィルタ名として追加してください。</p>
ディスパッチャ→値は不正な値です。「標準 D.D」ページで修正してください。	<p>値はディスパッチャとして定義に使用できる値ではありません。定義に使用できるのは、FORWARD, REQUEST, INCLUDE, ERROR です。「標準 D.D」ページに切り替えて修正してください。</p>

<「サブレット」ページ >

エラーメッセージ	対処方法
値は不正な値です。設定しなおしてください。	<p>実行タイプの設定値が定義済みのロール名ではありません。エラーが発生したサブレットを選択して、実行タイプコンボボックスの選択肢から選択してください。あるいは、「ロール」ページでこの値をロール名として追加してください。</p>
ロールリンク→値は不正な値です。設定しなおしてください。	<p>ロールリンクの設定値が定義済みロール名ではありません。エラーが発生したサブレットを選択して、ロールリンクコンボボックスの選択肢から選択してください。あるいは、「ロール」ページでこの値をロール名として追加してください。</p>

<「ファイル参照」ページ >

エラーメッセージ	対処方法
エラーコード/例外は数字 3 桁(404 など)で設定してください。	<p>タイプでエラーコードを選択した場合、エラーコード/例外には数字 3 桁でエラーコード(404 など)を設定してください。</p>
エラーコード/例外は完全なクラス名で設定してください。	<p>タイプで例外を選択した場合、エラーコード/例外には完全なクラス名で例外を設定してください。</p>

<「JSP プロパティ」ページ >

エラーメッセージ	対処方法
----------	------

値は不正な値です。設定しなおしてください。	この値は“true”または“false”でなければなりません。エラーが発生した JSP プロパティグループを選択して、ロケーションで示している項目名のチェックボックスをクリックし、設定しなおしてください。
-----------------------	--

<「セキュリティ」ページ >

エラーメッセージ	対処方法
値は不正な値です。設定しなおしてください。	転送保証の設定値が不正です。エラーが発生したセキュリティ制約を選択して、転送保証コンボボックスの選択肢から選択してください。
値は不正な値です。「標準 D.D」ページで修正してください。	値は HTTP メソッドとして定義に使用できる値ではありません。定義に使用できるのは、GET, POST, PUT, DELETE, HEAD, OPTIONS, TRACE です。「標準 D.D」ページに切り替えて修正してください。
HTTP メソッド→値は不正な値です。「標準 D.D」ページで修正してください。	値は HTTP メソッドとして定義に使用できる値ではありません。定義に使用できるのは、GET, POST, PUT, DELETE, HEAD, OPTIONS, TRACE です。「標準 D.D」ページに切り替えて修正してください。

<「ロール」ページ >

エラーメッセージ	対処方法
ロール名“*”は設定できません。	ロール名“*”は設定できません。他の値で設定してください。

<「環境エントリ」ページ >

エラーメッセージ	対処方法
型→値は不正な値です。設定しなおしてください。	型の設定値が不正です。型コンボボックスの選択肢から選択してください。
値は指定した型として不正な値です。	指定した型として適切な値を設定しなおしてください。

<「EJB 参照」ページ >

エラーメッセージ	対処方法
タイプ→値は不正な値です。設定しなおしてください。	タイプの設定値が不正です。エラーが発生した行を選択して、「編集...」ボタンで「EJB 参照設定ダイアログ」を表示し、タイプコンボボックスの選択肢から選択してください。

<「リソース参照」ページ >

エラーメッセージ	対処方法
認証→値は不正な値です。設定しなおしてください。	認証の設定値が不正です。認証コンボボックスの選択肢から選択してください。
値は不正な値です。設定しなおしてください。	共有可能の設定値が不正です。チェックボックスをクリックして、共有可能かどうか (Shareable/Unshareable) 設定しなおしてください。

<「メッセージ宛先参照」ページ >

エラーメッセージ	対処方法
使用法→値は不正な値です。設定しなおしてください。	使用法の設定値が不正です。使用法コンボボックスの選択肢から選択してください。

ログファイル

web.xml エディタ使用中に例外が発生すると、ログファイルに情報を出力します。

ログファイルの場所と名前

ログファイルの場所と名前は、下記のとおりです。

`${Eclipse}\plugins\${配備記述子エディタ}\ddeditor.log`

`${Eclipse}` : Eclipse のインストールディレクトリ

`${web.xml エディタ}` : 配備記述子エディタのプラグインディレクトリ(既定値:
com.nec.webotx.studio.editor.ddeditor_6.4.0.0)

<注意>

ログファイルが読み込み専用になっている場合、web.xml エディタ起動時にエラーメッセージを表示します。読み込み専用のままでは情報を出力できませんので、ログファイルを書き込み可能にして、Eclipse を再起動してください。

ログファイルの内容

ログファイルに出力する情報は、下記のとおりです。

- 例外発生の日時
- エラーメッセージ
- 例外のスタックトレース

ログファイルの更新

ログファイルの最大サイズは 5MB、バックアップファイル数は 1 です。ログファイルが最大サイズを超えると、バックアップファイル (ddeditor.log.1) を作成します。ログファイルは、ddeditor.log と ddeditor.log.1 の二世代管理になります。

注意制限事項

WebOTX web.xml エディタの注意制限事項について説明します。

ユーザ入力文字

GUI ページで「<」、「>」、「&」、「'」、「"」を入力すると、それぞれ「<」、「>」、「&」、「'」、「"」に変換して保存します。

フォーマット変更

web.xml エディタで編集したファイルのフォーマットを変更する可能性があります。

空要素

web.xml エディタで、ファイルを保存すると、空の要素(<description>,<icon>,<display-name> 要素を除く)を削除します。

要素の順番

web.xml エディタで編集したファイルの要素の順番を変更する可能性があります。web.xml エディタでファイルを保存すると、「サポートする要素」の要素の順番にしたがって、自動的に要素を整理します。

XML 宣言の編集

「標準 D.D」ページで XML 宣言(<?xml version="1.0" encoding="ISO-2022-JP"?>)を編集しないでください。エンコーディング宣言(encoding="ISO-2022-JP")を変更する場合は、「一般」ページのエンコーディングコンボボックスを使用してください。web.xml エディタがサポートしているエンコーディングを選択できます。

Eclipse のファイル処理

編集中心ファイルの「移動」、「名前変更」、「削除」を実行した場合の動作は、パースペクティブによって異なります。よって、これらの操作は、ファイルの変更を保存してから実行することを推奨します。

例)「Java」パースペクティブで web.xml エディタを使用する場合

1. 「Java」パースペクティブで、web.xml エディタで開いているファイルの「移動」または「名前変更」を実行すると、この web.xml エディタは閉じます。ファイルに変更がある場合は、変更を保存してからでないと「移動」または「名前変更」を実行できません。
2. 「Java」パースペクティブで、web.xml エディタで開いているファイルの「削除」を実行すると、この web.xml エディタは閉じます。ただし、ファイルに変更がある場合は、web.xml エディタは閉じずに、ファイルだけを削除します。この web.xml エディタを閉じようとする、変更を保存するかどうか問い合わせます。

コメント文

web.xml エディタは、コメント文(<!-- コメント -->)をサポートしていません。web.xml エディタでファイルを保存すると、コメント文を削除します。

要素の id 属性

web.xml エディタは、要素の id 属性をサポートしていません。web.xml エディタでファイルを保存すると、要素の id 属性を削除します。

1.4.2.nec-web.xml ファイルの要素

nec-web.xml ファイルで定義できる要素の一覧を以下に示します。

web.xml エディタの GUI ページでサポートしていない要素は、nec-web.xml ファイルをテキストエディタで開いて定義してください。

要素	説明
nec-web-app	Web アプリケーションに対して WebOTX 固有の設定を定義する nec-web.xml ファイルのルート要素です。 error-url と httpServlet-security-provider を属性にもつ nec-web-app を指定します。 [1 個] サブ要素: context-root security-role-mapping servlet idempotent-url-pattern session-config ejb-ref resource-ref resource-env-ref service-ref message-destination-ref cache class-loader jsp-config locale-charset-info parameter-encoding property message-destination webservice-description
▪ context-root	Web アプリケーションのコンテキストルートを指定します。 [0～1 個]
▪ security-role-mapping	現在のアクティブレムに存在するユーザやグループにロールを割り当てます。 [0 個以上] サブ要素: role-name

	principal-name group-name
• • role-name	web.xml ファイルの security-role 要素で定義しているロール名を指定します。 [1 個]
• • principal-name	ロールを割り当てるユーザ名を指定します。 class-name を属性にもつ principal-name を指定します。 [0 個以上 ただし group-name がなければ 1 個以上]
• • group-name	ロールを割り当てるグループ名を指定します。 [0 個以上 ただし principal-name がなければ 1 個以上]
• servlet	サーブレットのユーザを指定します。 web.xml ファイルの servlet-name が同じ servlet 要素で定義している run-as ロールに使用します。 [0 個以上] サブ要素: servlet-name principal-name webservice-endpoint
• • servlet-name	web.xml ファイルの servlet 要素の servlet-name で定義しているサーブレット名を指定します。 [1 個]
• • principal-name	現在のレルムに存在するユーザ名を指定します。 class-name を属性にもつ principal-name を指定します。 [0~1 個]
• • webservice-endpoint	Web サービスエンドポイントに関する情報を指定します。 [0 個以上] サブ要素: port-component-name endpoint-address-uri login-config transport-guarantee service-qname tie-class servlet-impl-class
• • • port-component-name	ポートコンポーネントに対する一意な名前を指定します。WSDL ポートの内部名です。 [1 個]
• • • endpoint-address-uri	Web サービスエンドポイントのアドレスを相対 URI で指定します。 サーブレットエンドポイントの場合は、Web アプリケーションのコンテキストルートからの相対で、EJB エンドポイントの場合は、Web サーバのルートからの相対です。

	[0～1 個]				
<ul style="list-style-type: none"> login-config 	<p>EJB Web サービスエンドポイントに対する認証設定を指定します。サーブレット Web サービスエンドポイントの場合は、web.xml ファイルで定義するので必要ありません。</p> <p>[0～1 個]</p> <p>サブ要素:</p> <p>auth-method</p>				
<ul style="list-style-type: none"> auth-method 	<p>認証方法を指定します。</p> <p>[1 個]</p>				
<ul style="list-style-type: none"> transport-guarantee 	<p>クライアントとサーバの通信の種類を NONE, INTEGRAL, CONFIDENTIAL で指定します。</p> <p>[0～1 個]</p>				
<ul style="list-style-type: none"> service-qname 	<p>参照する WSDL サービス要素を QName で指定します。</p> <p>[0～1 個]</p> <p>サブ要素:</p> <p>namespaceURI</p> <p>localpart</p>				
<ul style="list-style-type: none"> namespaceURI 	<p>QName のネームスペースの URI を指定します。</p> <p>[1 個]</p>				
<ul style="list-style-type: none"> localpart 	<p>QName のローカルパートを指定します。</p> <p>[1 個]</p>				
<ul style="list-style-type: none"> tie-class 	<p>ポートコンポーネントのための tie 実装クラスの名前を指定します。</p> <p>[0～1 個]</p>				
<ul style="list-style-type: none"> servlet-impl-class 	<p>サーブレット実装クラスの名前を指定します。</p> <p>[0～1 個]</p>				
<ul style="list-style-type: none"> idempotent-url-pattern 	<p>url-pattern と num-of-retries を属性にもつ idempotent-url-pattern を指定します。</p> <p>[0 個以上]</p>				
<ul style="list-style-type: none"> session-config 	<p>セッションの設定情報を指定します。</p> <p>[0～1 個]</p> <p>サブ要素:</p> <p>session-manager</p> <p>session-properties</p> <p>cookie-properties</p>				
<ul style="list-style-type: none"> session-manager 	<p>セッションマネージャの設定情報を指定します。</p> <p>[0～1 個]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>属性</th><th>説明</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>persistence-type</td><td>セッション永続化の方法を指定します。 指定できる値は</td></tr> </tbody> </table>	属性	説明	persistence-type	セッション永続化の方法を指定します。 指定できる値は
属性	説明				
persistence-type	セッション永続化の方法を指定します。 指定できる値は				

	<p>memory、と file です。 ※マルチプロセスモード では file は利用できません。 [省略可] 既定値: memory ※file を指定する場 合は、web.xml に”<distributable />”の 設定が必要です。</p> <p>サブ要素: manager-properties store-properties</p>								
• • • manager-properties	<p>セッションマネージャのプロパティを指定します。 [0～1 個] サブ要素: property</p>								
• • • • property	<p>name と value を属性にもつプロパティを指定します。 [0 個以上]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>プロパティ</th><th>説明</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>reapIntervalSeconds</td><td> 期限切れのセッション をチェックする間隔を 秒単位で指定します。 既定値: 60 </td></tr> <tr> <td>maxSessions</td><td> アクティブセッションの 最大数を指定します。 -1 を指定すると無制 限になります。 既定値: -1 </td></tr> <tr> <td>sessionFilename</td><td> アプリケーション再起 動中にセッション状態 を保存するファイルを 相対パスまたは絶対 パスで指定します。 相対パスの場合は、こ の Web アプリケーショ ンのテンポラリディレク トリからの相対になり ます。 session-manager 要素 の persistence-type 属 性が memory の場合 のみ有効です。 既定値: なし </td></tr> </tbody> </table> <p>サブ要素: description</p>	プロパティ	説明	reapIntervalSeconds	期限切れのセッション をチェックする間隔を 秒単位で指定します。 既定値: 60	maxSessions	アクティブセッションの 最大数を指定します。 -1 を指定すると無制 限になります。 既定値: -1	sessionFilename	アプリケーション再起 動中にセッション状態 を保存するファイルを 相対パスまたは絶対 パスで指定します。 相対パスの場合は、こ の Web アプリケーショ ンのテンポラリディレク トリからの相対になり ます。 session-manager 要素 の persistence-type 属 性が memory の場合 のみ有効です。 既定値: なし
プロパティ	説明								
reapIntervalSeconds	期限切れのセッション をチェックする間隔を 秒単位で指定します。 既定値: 60								
maxSessions	アクティブセッションの 最大数を指定します。 -1 を指定すると無制 限になります。 既定値: -1								
sessionFilename	アプリケーション再起 動中にセッション状態 を保存するファイルを 相対パスまたは絶対 パスで指定します。 相対パスの場合は、こ の Web アプリケーショ ンのテンポラリディレク トリからの相対になり ます。 session-manager 要素 の persistence-type 属 性が memory の場合 のみ有効です。 既定値: なし								
• • • • • description	<p>プロパティの説明を指定します。 [0～1 個]</p>								
• • • store-properties	<p>セッション永続化のプロパティを指定します。 [0～1 個] サブ要素:</p>								

	property								
<ul style="list-style-type: none"> property 	<p>name と value を属性にもつプロパティを指定します。 [0 個以上]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>プロパティ</th><th>説明</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>directory</td><td> <p>セッションごとのセッションファイルを保存するディレクトリを相対パスまたは絶対パスで指定します。 相対パスの場合は、この Web アプリケーションのテンポラリディレクトリからの相対になります。 session-manager 要素の persistence-type 属性が file の場合のみ有効です。 既定値: <domain_dir>/generated/jsp /j2ee-modules/<appname></p> </td></tr> </tbody> </table> <p>サブ要素: description</p>	プロパティ	説明	directory	<p>セッションごとのセッションファイルを保存するディレクトリを相対パスまたは絶対パスで指定します。 相対パスの場合は、この Web アプリケーションのテンポラリディレクトリからの相対になります。 session-manager 要素の persistence-type 属性が file の場合のみ有効です。 既定値: <domain_dir>/generated/jsp /j2ee-modules/<appname></p>				
プロパティ	説明								
directory	<p>セッションごとのセッションファイルを保存するディレクトリを相対パスまたは絶対パスで指定します。 相対パスの場合は、この Web アプリケーションのテンポラリディレクトリからの相対になります。 session-manager 要素の persistence-type 属性が file の場合のみ有効です。 既定値: <domain_dir>/generated/jsp /j2ee-modules/<appname></p>								
<ul style="list-style-type: none"> description 	<p>プロパティの説明を指定します。 [0~1 個]</p>								
<ul style="list-style-type: none"> session-properties 	<p>セッションのプロパティを指定します。 [0~1 個]</p> <p>サブ要素: property</p>								
<ul style="list-style-type: none"> property 	<p>name と value を属性にもつプロパティを指定します。 [0 個以上]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>プロパティ</th><th>説明</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>timeoutSeconds</td><td> <p>アクセスのない状態のセッションのタイムアウト時間を秒単位で指定します。0 以下を指定するとこの Web アプリケーションのセッションは期限切れになります。 既定値: 1800</p> </td></tr> <tr> <td>enableCookie</td><td> <p>セッション ID の格納に cookie を使用するかどうかを指定します。 既定値: true</p> </td></tr> <tr> <td>enableURLRewriting</td><td> <p>セッション ID の格納に URL を使用するかどうかを指定します。 既定値: true</p> </td></tr> </tbody> </table> <p>サブ要素: description</p>	プロパティ	説明	timeoutSeconds	<p>アクセスのない状態のセッションのタイムアウト時間を秒単位で指定します。0 以下を指定するとこの Web アプリケーションのセッションは期限切れになります。 既定値: 1800</p>	enableCookie	<p>セッション ID の格納に cookie を使用するかどうかを指定します。 既定値: true</p>	enableURLRewriting	<p>セッション ID の格納に URL を使用するかどうかを指定します。 既定値: true</p>
プロパティ	説明								
timeoutSeconds	<p>アクセスのない状態のセッションのタイムアウト時間を秒単位で指定します。0 以下を指定するとこの Web アプリケーションのセッションは期限切れになります。 既定値: 1800</p>								
enableCookie	<p>セッション ID の格納に cookie を使用するかどうかを指定します。 既定値: true</p>								
enableURLRewriting	<p>セッション ID の格納に URL を使用するかどうかを指定します。 既定値: true</p>								

<ul style="list-style-type: none"> <ul style="list-style-type: none"> <ul style="list-style-type: none"> description 	プロパティの説明を指定します。 [0～1 個]										
<ul style="list-style-type: none"> <ul style="list-style-type: none"> cookie-properties 	セッション ID を格納する cookie のプロパティを指定します。 [0～1 個] サブ要素: property										
<ul style="list-style-type: none"> <ul style="list-style-type: none"> <ul style="list-style-type: none"> property 	name と value を属性にもつプロパティを指定します。 [0 個以上] <table border="1"> <thead> <tr> <th>プロパティ</th><th>説明</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>cookiePath</td><td>ブラウザから cookie を送信する URL を制限する場合に指定します。 既定値: コンテキストパス</td></tr> <tr> <td>cookieMaxAgeSeconds</td><td>cookie の有効期限を秒単位で指定します。 既定値: -1(無期限)</td></tr> <tr> <td>cookieDomain</td><td>cookie が有効となるドメインを指定します。 既定値: なし</td></tr> <tr> <td>cookieComment</td><td>cookie ファイル内でセッション ID の cookie を識別するためのコメントを指定します。</td></tr> </tbody> </table> サブ要素: description	プロパティ	説明	cookiePath	ブラウザから cookie を送信する URL を制限する場合に指定します。 既定値: コンテキストパス	cookieMaxAgeSeconds	cookie の有効期限を秒単位で指定します。 既定値: -1(無期限)	cookieDomain	cookie が有効となるドメインを指定します。 既定値: なし	cookieComment	cookie ファイル内でセッション ID の cookie を識別するためのコメントを指定します。
プロパティ	説明										
cookiePath	ブラウザから cookie を送信する URL を制限する場合に指定します。 既定値: コンテキストパス										
cookieMaxAgeSeconds	cookie の有効期限を秒単位で指定します。 既定値: -1(無期限)										
cookieDomain	cookie が有効となるドメインを指定します。 既定値: なし										
cookieComment	cookie ファイル内でセッション ID の cookie を識別するためのコメントを指定します。										
<ul style="list-style-type: none"> <ul style="list-style-type: none"> <ul style="list-style-type: none"> description 	プロパティの説明を指定します。 [0～1 個]										
<ul style="list-style-type: none"> <ul style="list-style-type: none"> ejb-ref 	EJB 参照に EJB の JNDI 名を割り当てます。 [0 個以上] サブ要素: ejb-ref-name jndi-name										
<ul style="list-style-type: none"> <ul style="list-style-type: none"> ejb-ref-name 	EJB の参照名を指定します。 [1 個]										
<ul style="list-style-type: none"> <ul style="list-style-type: none"> jndi-name 	JNDI に登録されている EJB の JNDI 絶対名を指定します。 文字列 java:comp/env で始まる必要があります。 [1 個]										
<ul style="list-style-type: none"> <ul style="list-style-type: none"> resource-ref 	リソース参照にリソースの JNDI 名を割り当てます。 [0 個以上] サブ要素: res-ref-name jndi-name										

	default-resource-principal
<ul style="list-style-type: none"> <ul style="list-style-type: none"> res-ref-name 	<p>リソースの参照名を指定します。</p> <p>[1 個]</p>
<ul style="list-style-type: none"> <ul style="list-style-type: none"> jndi-name 	<p>JNDI に登録されているリソースの JNDI 絶対名を指定します。</p> <p>文字列 java:comp/env で始まる必要があります。</p> <p>[1 個]</p>
<ul style="list-style-type: none"> <ul style="list-style-type: none"> default-resource-principal 	<p>リソースのデフォルトのユーザを指定します。</p> <p>[0～1 個]</p> <p>サブ要素:</p> <p>name</p> <p>password</p>
<ul style="list-style-type: none"> <ul style="list-style-type: none"> <ul style="list-style-type: none"> name 	<p>ユーザの名前を指定します。</p> <p>[1 個]</p>
<ul style="list-style-type: none"> <ul style="list-style-type: none"> <ul style="list-style-type: none"> password 	<p>ユーザのパスワードを指定します。</p> <p>[1 個]</p>
<ul style="list-style-type: none"> resource-env-ref 	<p>リソース環境参照にリソース環境の JNDI 名を割り当てます。</p> <p>[0 個以上]</p> <p>サブ要素:</p> <p>resource-env-ref-name</p> <p>jndi-name</p>
<ul style="list-style-type: none"> <ul style="list-style-type: none"> resource-env-ref-name 	<p>リソース環境の参照名を指定します。</p> <p>[1 個]</p>
<ul style="list-style-type: none"> <ul style="list-style-type: none"> jndi-name 	<p>JNDI に登録されているリソース環境の JNDI 絶対名を指定します。</p> <p>文字列 java:comp/env で始まる必要があります。</p> <p>[1 個]</p>
<ul style="list-style-type: none"> service-ref 	<p>Web サービス参照のランタイム設定を指定します。</p> <p>[0 個以上]</p> <p>サブ要素:</p> <p>service-ref-name</p> <p>port-info</p> <p>call-property</p> <p>wsdl-override</p> <p>service-impl-class</p> <p>service-qname</p>
<ul style="list-style-type: none"> <ul style="list-style-type: none"> service-ref-name 	<p>Web サービス参照名を指定します。</p> <p>[1 個]</p>
<ul style="list-style-type: none"> <ul style="list-style-type: none"> port-info 	<p>Web サービス参照のポートの情報を指定します。</p> <p>[0 個以上]</p>

	サブ要素: service-endpoint-interface wsdl-port stub-property call-property
<ul style="list-style-type: none"> service-endpoint-interface 	Web サービス参照名を指定します。 [0～1 個]
<ul style="list-style-type: none"> wsdl-port 	WSDL ポートを指定します。 [0～1 個] サブ要素: namespaceURI localpart
<ul style="list-style-type: none"> <ul style="list-style-type: none"> namespaceURI 	WSDL ポートのネームスペースの URI を指定します。 [1 個]
<ul style="list-style-type: none"> <ul style="list-style-type: none"> localpart 	WSDL ポートのローカルパートを指定します。 [1 個]
<ul style="list-style-type: none"> stub-property 	Web サービスクライアントに戻る前に javax.xml.rpc.Stub オブジェクトに設定する JAX-RPC プロパティ値を指定します。 [0 個以上] サブ要素: name value
<ul style="list-style-type: none"> <ul style="list-style-type: none"> name 	プロパティの名前を指定します。 [1 個]
<ul style="list-style-type: none"> <ul style="list-style-type: none"> value 	プロパティの値を指定します。 [1 個]
<ul style="list-style-type: none"> call-property 	Web サービスクライアントに戻る前に javax.xml.rpc.Call オブジェクトに設定する JAX-RPC プロパティ値を指定します。 [0 個以上] サブ要素: name value
<ul style="list-style-type: none"> <ul style="list-style-type: none"> name 	プロパティの名前を指定します。 [1 個]
<ul style="list-style-type: none"> <ul style="list-style-type: none"> value 	プロパティの値を指定します。 [1 個]
<ul style="list-style-type: none"> call-property 	Web サービスクライアントに戻る前に javax.xml.rpc.Call オブジェクトに設定する JAX-RPC プロパティ値を指定します。 [0 個以上]

	サブ要素: name value				
<ul style="list-style-type: none"> name 	プロパティの名前を指定します。 [1 個]				
<ul style="list-style-type: none"> value 	プロパティの値を指定します。 [1 個]				
<ul style="list-style-type: none"> wsdl-override 	WSDL ドキュメントの有効な URL を指定します。 [0～1 個]				
<ul style="list-style-type: none"> service-impl-class 	サービス実装クラスの名前を指定します。 [0～1 個]				
<ul style="list-style-type: none"> service-qname 	参照する WSDL サービス要素を QName で指定します。 [0～1 個] サブ要素: namespaceURI localpart				
<ul style="list-style-type: none"> namespaceURI 	QName のネームスペースの URI を指定します。 [1 個]				
<ul style="list-style-type: none"> localpart 	QName のローカルパートを指定します。 [1 個]				
<ul style="list-style-type: none"> message-destination-ref 	アプリケーションの中で定義された論理メッセージ宛先参照の名前を指定します。 [0 個以上] サブ要素: message-destination-ref-name jndi-name				
<ul style="list-style-type: none"> message-destination-ref-name 	論理メッセージ宛先参照の名前を指定します。 [1 個]				
<ul style="list-style-type: none"> jndi-name 	論理メッセージ宛先参照の JNDI 絶対名を指定します。 文字列 java:comp/env で始まる必要があります。 [1 個]				
<ul style="list-style-type: none"> cache 	キャッシュ機能を設定します。 [0～1 個] <table border="1"> <thead> <tr> <th>属性</th><th>説明</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>max-entries</td><td> キャッシュに格納できるエントリの最大数を指定します。正の整数でなければなりません。 [省略可] 既定値: 4096 </td></tr> </tbody> </table>	属性	説明	max-entries	キャッシュに格納できるエントリの最大数を指定します。正の整数でなければなりません。 [省略可] 既定値: 4096
属性	説明				
max-entries	キャッシュに格納できるエントリの最大数を指定します。正の整数でなければなりません。 [省略可] 既定値: 4096				

	<table><tr><td>timeout-in-seconds</td><td>エントリを生成、更新してからキャッシュ内に保持する最大時間を秒単位で指定します。 timeout 要素で上書きできます。 [省略可] 既定値: 30</td></tr><tr><td>enabled</td><td>サーブレットと JSP のキャッシュを有効にするかどうかを指定します。 [省略可] 既定値: true</td></tr></table> <p>サブ要素:</p> <p>cache-helper</p> <p>default-helper</p> <p>property</p> <p>cache-mapping</p>	timeout-in-seconds	エントリを生成、更新してからキャッシュ内に保持する最大時間を秒単位で指定します。 timeout 要素で上書きできます。 [省略可] 既定値: 30	enabled	サーブレットと JSP のキャッシュを有効にするかどうかを指定します。 [省略可] 既定値: true		
timeout-in-seconds	エントリを生成、更新してからキャッシュ内に保持する最大時間を秒単位で指定します。 timeout 要素で上書きできます。 [省略可] 既定値: 30						
enabled	サーブレットと JSP のキャッシュを有効にするかどうかを指定します。 [省略可] 既定値: true						
<ul style="list-style-type: none">cache-helper	<p>CacheHelper インタフェースを実装しているカスタムクラスを指定します。</p> <p>[0 個以上]</p> <table><tr><th>属性</th><th>説明</th></tr><tr><td>name</td><td>ヘルパークラスの一意の名前を指定します。 cache-mapping 要素で参照する名前です。 [省略不可] 既定値: default</td></tr><tr><td>class-name</td><td>キャッシュヘルパークラスの完全修飾クラス名を指定します。 [省略不可] 既定値: なし</td></tr></table> <p>サブ要素:</p> <p>property</p>	属性	説明	name	ヘルパークラスの一意の名前を指定します。 cache-mapping 要素で参照する名前です。 [省略不可] 既定値: default	class-name	キャッシュヘルパークラスの完全修飾クラス名を指定します。 [省略不可] 既定値: なし
属性	説明						
name	ヘルパークラスの一意の名前を指定します。 cache-mapping 要素で参照する名前です。 [省略不可] 既定値: default						
class-name	キャッシュヘルパークラスの完全修飾クラス名を指定します。 [省略不可] 既定値: なし						
<ul style="list-style-type: none">property	<p>name と value を属性にもつプロパティを指定します。</p> <p>カスタムのキャッシュヘルパークラスで利用できるプロパティを指定します。</p> <p>[0 個以上]</p> <p>サブ要素:</p> <p>description</p>						
<ul style="list-style-type: none">description	<p>プロパティの説明を指定します。</p> <p>[0～1 個]</p>						
<ul style="list-style-type: none">default-helper	<p>内蔵のデフォルトキャッシュヘルパークラスのプロパティを変更します。</p> <p>[0～1 個]</p> <p>サブ要素:</p> <p>property</p>						

<ul style="list-style-type: none"> property 	<p>name と value を属性にもつプロパティを指定します。</p> <p>[0 個以上]</p> <table> <tr> <th>プロパティ</th><th>説明</th></tr> <tr> <td>cacheKeyGeneratorAttrName</td><td> <p>カスタムのキージェネレータを設定している</p> <p>ServletContext の属性名を指定します。</p> <p>既定値: 内蔵のデフォルトキャッシュヘルパーのキー生成を使用</p> </td></tr> </table> <p>サブ要素:</p> <p>description</p>	プロパティ	説明	cacheKeyGeneratorAttrName	<p>カスタムのキージェネレータを設定している</p> <p>ServletContext の属性名を指定します。</p> <p>既定値: 内蔵のデフォルトキャッシュヘルパーのキー生成を使用</p>		
プロパティ	説明						
cacheKeyGeneratorAttrName	<p>カスタムのキージェネレータを設定している</p> <p>ServletContext の属性名を指定します。</p> <p>既定値: 内蔵のデフォルトキャッシュヘルパーのキー生成を使用</p>						
<ul style="list-style-type: none"> description 	<p>プロパティの説明を指定します。</p> <p>[0～1 個]</p>						
<ul style="list-style-type: none"> property 	<p>キャッシュのプロパティを指定します。</p> <p>name と value を属性にもつプロパティを指定します。</p> <p>[0 個以上]</p> <table> <tr> <th>プロパティ</th><th>説明</th></tr> <tr> <td>cacheClassName</td><td> <p>キャッシュ機能を実装するクラスの完全修飾クラス名を指定します。</p> <p>指定できる値は以下のとおりです。</p> <p>com.nec.webotx.appserv.util.cache.LruCache</p> <p>com.nec.webotx.appserv.util.cache.BaseCache</p> <p>com.nec.webotx.appserv.util.cache.MultiLruCache</p> <p>com.nec.webotx.appserv.util.cache.BoundedMultiLruCache</p> <p>既定値:</p> <p>com.nec.webotx.appserv.util.cache.LruCache</p> </td></tr> <tr> <td>MultiLRUSegmentSize</td><td> <p>独自の LRU リストを持つキャッシュテーブルの 1 セグメントのエントリ数を指定します。</p> <p>cacheClassName プロパティで com.nec.webotx.appserv.util.cache.MultiLruCache を指定した場合のみ有効です。</p> <p>既定値: 4096</p> </td></tr> </table>	プロパティ	説明	cacheClassName	<p>キャッシュ機能を実装するクラスの完全修飾クラス名を指定します。</p> <p>指定できる値は以下のとおりです。</p> <p>com.nec.webotx.appserv.util.cache.LruCache</p> <p>com.nec.webotx.appserv.util.cache.BaseCache</p> <p>com.nec.webotx.appserv.util.cache.MultiLruCache</p> <p>com.nec.webotx.appserv.util.cache.BoundedMultiLruCache</p> <p>既定値:</p> <p>com.nec.webotx.appserv.util.cache.LruCache</p>	MultiLRUSegmentSize	<p>独自の LRU リストを持つキャッシュテーブルの 1 セグメントのエントリ数を指定します。</p> <p>cacheClassName プロパティで com.nec.webotx.appserv.util.cache.MultiLruCache を指定した場合のみ有効です。</p> <p>既定値: 4096</p>
プロパティ	説明						
cacheClassName	<p>キャッシュ機能を実装するクラスの完全修飾クラス名を指定します。</p> <p>指定できる値は以下のとおりです。</p> <p>com.nec.webotx.appserv.util.cache.LruCache</p> <p>com.nec.webotx.appserv.util.cache.BaseCache</p> <p>com.nec.webotx.appserv.util.cache.MultiLruCache</p> <p>com.nec.webotx.appserv.util.cache.BoundedMultiLruCache</p> <p>既定値:</p> <p>com.nec.webotx.appserv.util.cache.LruCache</p>						
MultiLRUSegmentSize	<p>独自の LRU リストを持つキャッシュテーブルの 1 セグメントのエントリ数を指定します。</p> <p>cacheClassName プロパティで com.nec.webotx.appserv.util.cache.MultiLruCache を指定した場合のみ有効です。</p> <p>既定値: 4096</p>						

	<div>MaxSize</div> <div> キャッシュのメモリサイズの上限値を KB また MB 単位で指定します。 cacheClassName プロパティで com.nec.webotx.appserver.util.cache.BoundedMultiLruCache を指定した場合のみ有効です。 既定値: 無制限 (Long.MAX_VALUE) </div>
	<div>サブ要素:</div> <div>description</div>
<div>・ ・ ・ description</div>	<div>プロパティの説明を指定します。</div> <div>[0～1 個]</div>
<div>・ ・ cache-mapping</div>	<div>サーブレット名または URL パターンにキャッシュの条件を割り当てます。</div> <div>[0 個以上]</div> <div>サブ要素:</div> <div> <div>servlet-name</div> <div>url-pattern</div> <div>cache-helper-ref</div> <div>timeout</div> <div>refresh-field</div> <div>dispatcher</div> <div>http-method</div> <div>key-field</div> <div>constraint-field</div> </div>
<div>・ ・ ・ servlet-name</div>	<div>キャッシュを有効にするサーブレットの名前を指定します。</div> <div>web.xml ファイルの servlet 要素の servlet-name で定義しているサーブレット名でなければなりません。</div> <div>[servlet-name または url-pattern が 1 個]</div>
<div>・ ・ ・ url-pattern</div>	<div>キャッシュを有効にするサーブレットの URL パターンを指定します。</div> <div>[servlet-name または url-pattern が 1 個]</div>
<div>・ ・ ・ cache-helper-ref</div>	<div>使用するキャッシュヘルパークラスを cache-helper 要素の name 属性で定義している名前指定します。</div> <div>[timeout, refresh-field, http-method, key-field, constraint-field を使用しない場合に 1 個]</div>
<div>・ ・ ・ timeout</div>	<div>エントリを生成、更新してからキャッシュ内に保持する最大時間を秒単位で指定します。cache-mapping ごとの値です。</div> <div>指定しない場合は、cache 要素の timeout-in-seconds 属性の値を使用します。</div> <div>[cache-helper-ref を使用しない場合に 0～1 個]</div>
	<div>属性</div> <div>説明</div>

	<table> <tr> <td>name</td><td>このタイムアウト値のパラメータ名を指定します。 [省略不可]</td></tr> <tr> <td>scope</td><td>このパラメータの有効範囲を指定します。 指定できる値は以下のとおりです。 context.attribute request.header request.parameter request.cookie request.attribute session.attribute [省略可] 既定値: request.attribute</td></tr> </table>	name	このタイムアウト値のパラメータ名を指定します。 [省略不可]	scope	このパラメータの有効範囲を指定します。 指定できる値は以下のとおりです。 context.attribute request.header request.parameter request.cookie request.attribute session.attribute [省略可] 既定値: request.attribute		
name	このタイムアウト値のパラメータ名を指定します。 [省略不可]						
scope	このパラメータの有効範囲を指定します。 指定できる値は以下のとおりです。 context.attribute request.header request.parameter request.cookie request.attribute session.attribute [省略可] 既定値: request.attribute						
・ ・ ・ refresh-field	<p>アプリケーションコンポーネントのプログラムでキャッシュエントリのリフレッシュができるようにするフィールドを指定します。</p> <p>[cache-helper-ref を使用しない場合に 0～1 個]</p> <table> <tr> <th>属性</th><th>説明</th></tr> <tr> <td>name</td><td>このリフレッシュフィールドのパラメータ名を指定します。 [省略不可]</td></tr> <tr> <td>scope</td><td>このパラメータの有効範囲を指定します。 指定できる値は以下のとおりです。 context.attribute request.header request.parameter request.cookie session.id session.attribute [省略可] 既定値: request.parameter</td></tr> </table>	属性	説明	name	このリフレッシュフィールドのパラメータ名を指定します。 [省略不可]	scope	このパラメータの有効範囲を指定します。 指定できる値は以下のとおりです。 context.attribute request.header request.parameter request.cookie session.id session.attribute [省略可] 既定値: request.parameter
属性	説明						
name	このリフレッシュフィールドのパラメータ名を指定します。 [省略不可]						
scope	このパラメータの有効範囲を指定します。 指定できる値は以下のとおりです。 context.attribute request.header request.parameter request.cookie session.id session.attribute [省略可] 既定値: request.parameter						
・ ・ ・ dispatcher	<p>キャッシュ対象の dispatcher を指定します。</p> <p>[cache-helper-ref を使用しない場合に 0 個以上]</p> <p>既定値: REQUEST</p>						
・ ・ ・ http-method	<p>キャッシュ対象の HTTP メソッドを指定します。</p> <p>[cache-helper-ref を使用しない場合に 0 個以上]</p> <p>既定値: GET</p>						
・ ・ ・ key-field	<p>キャッシュエントリの検索や抽出に使用するキーのコンポーネントを指定します。</p> <p>この要素が存在しない場合は、サーブレットパスを使用します。</p> <p>[cache-helper-ref を使用しない場合に 0 個以上]</p>						

	<table><tr><th>属性</th><th>説明</th></tr><tr><td>name</td><td>このキーフィールドのパラメータ名を指定します。 [省略不可]</td></tr><tr><td>scope</td><td>このパラメータの有効範囲を指定します。 指定できる値は以下のとおりです。 context.attribute request.header request.parameter request.cookie session.id session.attribute [省略可] 既定値： request.parameter</td></tr></table>	属性	説明	name	このキーフィールドのパラメータ名を指定します。 [省略不可]	scope	このパラメータの有効範囲を指定します。 指定できる値は以下のとおりです。 context.attribute request.header request.parameter request.cookie session.id session.attribute [省略可] 既定値： request.parameter				
属性	説明										
name	このキーフィールドのパラメータ名を指定します。 [省略不可]										
scope	このパラメータの有効範囲を指定します。 指定できる値は以下のとおりです。 context.attribute request.header request.parameter request.cookie session.id session.attribute [省略可] 既定値： request.parameter										
・ ・ ・ constraint-field	<p>指定した url-pattern あるいは servlet-name に対するキャッシュ制約条件を指定します。</p> <p>[cache-helper-ref を使用しない場合に 0 個以上]</p> <table><tr><th>属性</th><th>説明</th></tr><tr><td>name</td><td>この制約条件フィールドのパラメータ名を指定します。 [省略不可]</td></tr><tr><td>scope</td><td>このパラメータの有効範囲を指定します。 指定できる値は以下のとおりです。 context.attribute request.header request.parameter request.cookie request.attribute session.attribute [省略可] 既定値： request.parameter</td></tr><tr><td>cache-on-match</td><td>条件に一致する応答をキャッシュするかどうか指定します。 constraint-field-value サブ要素の属性より優先します。 [省略可] 既定値 : true</td></tr><tr><td>cache-on-match-failure</td><td>条件に一致しない応答をキャッシュするかどうか指定します。 constraint-field-value サブ要素の属性より優先します。 [省略可] 既定値 : false</td></tr></table>	属性	説明	name	この制約条件フィールドのパラメータ名を指定します。 [省略不可]	scope	このパラメータの有効範囲を指定します。 指定できる値は以下のとおりです。 context.attribute request.header request.parameter request.cookie request.attribute session.attribute [省略可] 既定値： request.parameter	cache-on-match	条件に一致する応答をキャッシュするかどうか指定します。 constraint-field-value サブ要素の属性より優先します。 [省略可] 既定値 : true	cache-on-match-failure	条件に一致しない応答をキャッシュするかどうか指定します。 constraint-field-value サブ要素の属性より優先します。 [省略可] 既定値 : false
属性	説明										
name	この制約条件フィールドのパラメータ名を指定します。 [省略不可]										
scope	このパラメータの有効範囲を指定します。 指定できる値は以下のとおりです。 context.attribute request.header request.parameter request.cookie request.attribute session.attribute [省略可] 既定値： request.parameter										
cache-on-match	条件に一致する応答をキャッシュするかどうか指定します。 constraint-field-value サブ要素の属性より優先します。 [省略可] 既定値 : true										
cache-on-match-failure	条件に一致しない応答をキャッシュするかどうか指定します。 constraint-field-value サブ要素の属性より優先します。 [省略可] 既定値 : false										

	サブ要素: constraint-field-value								
・ ・ ・ constraint-field-value	<p>パラメータの値と比較する制約条件を指定します。比較では大文字、小文字は区別します。</p> <p>[0 個以上]</p> <table> <tr> <th>属性</th><th>説明</th></tr> <tr> <td>match-expr</td><td> 使用する比較の種類を指定します。 指定できる値は以下のとおりです。 equals greater lesser not-equals in-range [省略可] 既定値: equals </td></tr> <tr> <td>cache-on-match</td><td> 条件に一致する応答をキャッシュするかどうか指定します。 [省略可] 既定値: true </td></tr> <tr> <td>cache-on-match-failure</td><td> 条件に一致しない応答をキャッシュするかどうか指定します。 [省略可] 既定値: false </td></tr> </table>	属性	説明	match-expr	使用する比較の種類を指定します。 指定できる値は以下のとおりです。 equals greater lesser not-equals in-range [省略可] 既定値: equals	cache-on-match	条件に一致する応答をキャッシュするかどうか指定します。 [省略可] 既定値: true	cache-on-match-failure	条件に一致しない応答をキャッシュするかどうか指定します。 [省略可] 既定値: false
属性	説明								
match-expr	使用する比較の種類を指定します。 指定できる値は以下のとおりです。 equals greater lesser not-equals in-range [省略可] 既定値: equals								
cache-on-match	条件に一致する応答をキャッシュするかどうか指定します。 [省略可] 既定値: true								
cache-on-match-failure	条件に一致しない応答をキャッシュするかどうか指定します。 [省略可] 既定値: false								
・ class-loader	<p>Web アプリケーションのクラスローダを設定します。</p> <p>[0～1 個]</p> <table> <tr> <th>属性</th><th>説明</th></tr> <tr> <td>extra-class-path</td><td> この Web アプリケーションに追加するクラスパスを指定します。 [省略可] 既定値: なし </td></tr> <tr> <td>delegate</td><td> 親のクラスローダを優先する(true)か、ローカルのクラスローダを優先する(false)かを指定します。 [省略可] 既定値: true </td></tr> </table> <p>サブ要素: property</p>	属性	説明	extra-class-path	この Web アプリケーションに追加するクラスパスを指定します。 [省略可] 既定値: なし	delegate	親のクラスローダを優先する(true)か、ローカルのクラスローダを優先する(false)かを指定します。 [省略可] 既定値: true		
属性	説明								
extra-class-path	この Web アプリケーションに追加するクラスパスを指定します。 [省略可] 既定値: なし								
delegate	親のクラスローダを優先する(true)か、ローカルのクラスローダを優先する(false)かを指定します。 [省略可] 既定値: true								
・ ・ property	<p>name と value を属性にもつプロパティを指定します。</p> <p>[0 個以上]</p> <p>サブ要素: description</p>								

<ul style="list-style-type: none"> • • • description 	<p>プロパティの説明を指定します。</p> <p>[0～1 個]</p>																				
<ul style="list-style-type: none"> • jsp-config 	<p>JSP を事前コンパイルするとき、または precompilejsp オプションを指定してアプリケーションを配備するときに使用する JSP の設定情報を指定します。</p> <p>[0～1 個]</p> <p>サブ要素:</p> <p>property</p>																				
<ul style="list-style-type: none"> • • property 	<p>name と value を属性にもつプロパティを指定します。</p> <p>[0 個以上]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>プロパティ</th><th>説明</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>compiler</td><td>JSP のコンパイラを指定します。 既定値: javac</td></tr> <tr> <td>classdebuginfo</td><td>生成した Java サーブレットをコンパイルするときにデバッグオプションをつけるかどうかを指定します。 既定値: true</td></tr> <tr> <td>classpath</td><td>生成した Java サーブレットをコンパイルするときに使用するクラスパスを指定します。 既定値: Web アプリケーションに基づいて動的に生成</td></tr> <tr> <td>enablePooling</td><td>タグハンドラのプーリングを有効にするかどうかを指定します。 既定値: true</td></tr> <tr> <td>javaEncoding</td><td>生成する Java サーブレットのエンコーディングを指定します。Java コンパイラにも渡ります。 既定値: UTF8</td></tr> <tr> <td>genStrAsCharArray</td><td>文字列を char 配列として生成するかどうかを指定します。 既定値: false</td></tr> <tr> <td>errorOnUseBeanInvalidClassAttribute</td><td>useBean の class 属性値が bean クラスとして有効でない場合にエラーにするかどうかを指定します。 既定値: false</td></tr> <tr> <td>scratchdir</td><td>生成コードを格納する作業ディレクトリを指定します。 既定値: Web アプリケーションのデフォルト作業ディレクトリ</td></tr> <tr> <td>xpoweredBy</td><td>生成する Java サーブレットで X-Powered-By レスポ</td></tr> </tbody> </table>	プロパティ	説明	compiler	JSP のコンパイラを指定します。 既定値: javac	classdebuginfo	生成した Java サーブレットをコンパイルするときにデバッグオプションをつけるかどうかを指定します。 既定値: true	classpath	生成した Java サーブレットをコンパイルするときに使用するクラスパスを指定します。 既定値: Web アプリケーションに基づいて動的に生成	enablePooling	タグハンドラのプーリングを有効にするかどうかを指定します。 既定値: true	javaEncoding	生成する Java サーブレットのエンコーディングを指定します。Java コンパイラにも渡ります。 既定値: UTF8	genStrAsCharArray	文字列を char 配列として生成するかどうかを指定します。 既定値: false	errorOnUseBeanInvalidClassAttribute	useBean の class 属性値が bean クラスとして有効でない場合にエラーにするかどうかを指定します。 既定値: false	scratchdir	生成コードを格納する作業ディレクトリを指定します。 既定値: Web アプリケーションのデフォルト作業ディレクトリ	xpoweredBy	生成する Java サーブレットで X-Powered-By レスポ
プロパティ	説明																				
compiler	JSP のコンパイラを指定します。 既定値: javac																				
classdebuginfo	生成した Java サーブレットをコンパイルするときにデバッグオプションをつけるかどうかを指定します。 既定値: true																				
classpath	生成した Java サーブレットをコンパイルするときに使用するクラスパスを指定します。 既定値: Web アプリケーションに基づいて動的に生成																				
enablePooling	タグハンドラのプーリングを有効にするかどうかを指定します。 既定値: true																				
javaEncoding	生成する Java サーブレットのエンコーディングを指定します。Java コンパイラにも渡ります。 既定値: UTF8																				
genStrAsCharArray	文字列を char 配列として生成するかどうかを指定します。 既定値: false																				
errorOnUseBeanInvalidClassAttribute	useBean の class 属性値が bean クラスとして有効でない場合にエラーにするかどうかを指定します。 既定値: false																				
scratchdir	生成コードを格納する作業ディレクトリを指定します。 既定値: Web アプリケーションのデフォルト作業ディレクトリ																				
xpoweredBy	生成する Java サーブレットで X-Powered-By レスポ																				

		<p>ンスヘッダを追加するかどうかを指定します。</p> <p>既定値: true</p>
	precompileDefaultEncoding	<p>JSP の事前コンパイルをするときに使用するレスポンスのデフォルトエンコードを指定します。</p> <p>JSP にエンコーディング指定 (Content-type の charset と pageEncoding) がない場合に使用します。</p> <p>既定値: なし</p>
	precompileDefaultBufferSize	<p>JSP の事前コンパイルをするときに使用するレスポンスのバッファサイズを指定します。</p> <p>JSP の page ディレクティブで buffer 属性の指定がない場合に使用します。</p> <p>kb 単位で指定しなければなりません。小文字の "kb" のみ有効です。</p> <p>既定値: なし</p>
	priorityJspInEncoding	<p>JSP ファイルをコンパイルする際、どの文字コードを読み込むか Web アプリケーションの指定より高い優先度で文字コードを指定することができます。</p> <p>規定値: なし</p>
	priorityJspOutEncoding	<p>コンパイルした JSP ファイルのコードで HTTP レスポンスに setContentType で指定される文字コードを Web アプリケーションの指定より高い優先度で指定することができます。</p> <p>規定値: なし</p>
	priorityJspOutEncoding-map:<ロケール名 (ja 等)>	<p>コンパイルした JSP ファイルのコードで HTTP レスポンスに setContentType で指定される文字コードを Web アプリケーションの指定より高い優先度で指定することができます。HTTP レスポンスのロケールとマッピングさせて指定し、複数指定することができます。</p> <p>規定値: なし</p>

	サブ要素: description								
・ ・ ・ description	プロパティの説明を指定します。 [0～1 個]								
・ locale-charset-info	アプリケーションの国際化設定を指定します。 [0～1 個] <table border="1"> <thead> <tr> <th>属性</th><th>説明</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>default-locale</td><td>デフォルトのロケールを指定します。 [省略可]</td></tr> </tbody> </table> ※この属性は現在利用できません サブ要素: locale-charset-map parameter-encoding	属性	説明	default-locale	デフォルトのロケールを指定します。 [省略可]				
属性	説明								
default-locale	デフォルトのロケールを指定します。 [省略可]								
・ ・ locale-charset-map	文字エンコーディングにロケールとエージェントを割り当てます。 [1 個以上] <table border="1"> <thead> <tr> <th>属性</th><th>説明</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>locale</td><td>ロケールを指定します。 [省略不可]</td></tr> <tr> <td>agent</td><td>リクエストを送ってくるクライアントの種類を指定します。クライアントが送信する HTTP リクエストヘッダの user-agent の値と一致する値でなければなりません。 [省略可]</td></tr> <tr> <td>charset</td><td>ロケールを割り当てる文字エンコーディングを指定します。 [省略不可]</td></tr> </tbody> </table> サブ要素: description	属性	説明	locale	ロケールを指定します。 [省略不可]	agent	リクエストを送ってくるクライアントの種類を指定します。クライアントが送信する HTTP リクエストヘッダの user-agent の値と一致する値でなければなりません。 [省略可]	charset	ロケールを割り当てる文字エンコーディングを指定します。 [省略不可]
属性	説明								
locale	ロケールを指定します。 [省略不可]								
agent	リクエストを送ってくるクライアントの種類を指定します。クライアントが送信する HTTP リクエストヘッダの user-agent の値と一致する値でなければなりません。 [省略可]								
charset	ロケールを割り当てる文字エンコーディングを指定します。 [省略不可]								
・ ・ ・ description	マッピングの説明を指定します。 [0～1 個]								
・ ・ parameter-encoding	リクエストヘッダの content-type に charset が設定されていない場合に、Web コンテナが使用する文字エンコードを決定する隠しフィールドとデフォルトの文字エンコードを指定します。 [0～1 個] <table border="1"> <thead> <tr> <th>属性</th><th>説明</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>form-hint-field</td><td>文字エンコードを指定するフォーム内の隠しフィールドの名前を指定します。 [省略可]</td></tr> <tr> <td>default-charset</td><td>リクエストのデフォルト</td></tr> </tbody> </table>	属性	説明	form-hint-field	文字エンコードを指定するフォーム内の隠しフィールドの名前を指定します。 [省略可]	default-charset	リクエストのデフォルト		
属性	説明								
form-hint-field	文字エンコードを指定するフォーム内の隠しフィールドの名前を指定します。 [省略可]								
default-charset	リクエストのデフォルト								

		文字エンコードを指定 します。 [省略可]												
▪ parameter-encoding	form-hint-field と default-charset を属性にもつ parameter-encoding を指定します。 [0～1 個]													
▪ property	name と value を属性にもつプロパティを指定します。 [0 個以上]	<table><tr><th>プロパティ</th><th>説明</th></tr><tr><td>crossContextAllowed</td><td>Web アプリケーション が ServletContext.getCo ntext()メソッドを使って ほかの Web アプリケー ションのコンテキストに アクセスすることを許 可するかどうかを指定 します。 既定値: なし</td></tr><tr><td>tempdir</td><td>この Web アプリケーシ ョンで使用する作業デ ィレクトリを指定しま す。コンパイルした JSP もこのディレクトリ に格納します。 既定値: <domain_dir>/generate d/jsp /j2ee-modules/<appn ame></td></tr><tr><td>singleThreadedServle tPoolSize</td><td>Web アプリケーシ ョン内の個々の SingleThreadModel サ ーブレットに割り当て られるサーブレットイン スタンスの最大数を指 定します。 既定値: 5</td></tr><tr><td>reuseSessionID</td><td>リクエストに含まれて いるセッション ID が期 限切れになっている場 合に、同じセッション ID でセッションを生成す るかどうかを指定しま す。 そのセッション ID がす でに使用されている場 合は、セッションの生 成に失敗し、null が返 ります。 既定値: false</td></tr><tr><td>priorityResponseEnc oding</td><td>HTTP レスポンスにデ ータをどの文字コード</td></tr></table>	プロパティ	説明	crossContextAllowed	Web アプリケーション が ServletContext.getCo ntext()メソッドを使って ほかの Web アプリケー ションのコンテキストに アクセスすることを許 可するかどうかを指定 します。 既定値: なし	tempdir	この Web アプリケーシ ョンで使用する作業デ ィレクトリを指定しま す。コンパイルした JSP もこのディレクトリ に格納します。 既定値: <domain_dir>/generate d/jsp /j2ee-modules/<appn ame>	singleThreadedServle tPoolSize	Web アプリケーシ ョン内の個々の SingleThreadModel サ ーブレットに割り当て られるサーブレットイン スタンスの最大数を指 定します。 既定値: 5	reuseSessionID	リクエストに含まれて いるセッション ID が期 限切れになっている場 合に、同じセッション ID でセッションを生成す るかどうかを指定しま す。 そのセッション ID がす でに使用されている場 合は、セッションの生 成に失敗し、null が返 ります。 既定値: false	priorityResponseEnc oding	HTTP レスポンスにデ ータをどの文字コード
プロパティ	説明													
crossContextAllowed	Web アプリケーション が ServletContext.getCo ntext()メソッドを使って ほかの Web アプリケー ションのコンテキストに アクセスすることを許 可するかどうかを指定 します。 既定値: なし													
tempdir	この Web アプリケーシ ョンで使用する作業デ ィレクトリを指定しま す。コンパイルした JSP もこのディレクトリ に格納します。 既定値: <domain_dir>/generate d/jsp /j2ee-modules/<appn ame>													
singleThreadedServle tPoolSize	Web アプリケーシ ョン内の個々の SingleThreadModel サ ーブレットに割り当て られるサーブレットイン スタンスの最大数を指 定します。 既定値: 5													
reuseSessionID	リクエストに含まれて いるセッション ID が期 限切れになっている場 合に、同じセッション ID でセッションを生成す るかどうかを指定しま す。 そのセッション ID がす でに使用されている場 合は、セッションの生 成に失敗し、null が返 ります。 既定値: false													
priorityResponseEnc oding	HTTP レスポンスにデ ータをどの文字コード													

		として出力するか、Web アプリケーションの指定より高い優先度で文字コードを指定することができます。 規定値: なし
	priorityResponseEncoding-map:<ロケール名(ja 等)>	HTTP レスポンスにデータをどの文字コードとして出力するか、Web アプリケーションの指定より高い優先度で文字コードを指定することができます。 HTTP レスポンスのロケールとマッピングさせて指定し、複数指定することができます。 規定値: なし
	サブ要素: description	
• • description	プロパティの説明を指定します。 [0～1 個]	
• message-destination	アプリケーションの中で定義された論理メッセージ宛先の名前を指定します。 [0 個以上] サブ要素: message-destination-name jndi-name	
• • message-destination-name	論理メッセージ宛先の名前を指定します。 [1 個]	
• • jndi-name	論理メッセージ宛先の JNDI 絶対名を指定します。 文字列 java:comp/env で始まる必要があります。 [1 個]	
• webservice-description	Web サービスの名前と配備中に Web サービスの WSDL をパブリッシュするディレクトリを指定します。 [0 個以上] サブ要素: webservice-description-name wsdl-publish-location	
• • webservice-description-name	Web サービスの名前を指定します。 [1 個]	
• • wsdl-publish-location	配備中に Web サービスの WSDL をパブリッシュするディレクトリの URL を指定します。 [0～1 個]	